

令和6年度

# 川崎市健康安全研究所年報

第12号

(通巻第60号)



KAWASAKI CITY

川崎市健康安全研究所

(発行：令和7年度)

はじめに

川崎市健康安全研究所は、全国に 84 か所（令和 6（2024）年 4 月現在）設置されている地方衛生研究所の一つです。川崎市における地方衛生研究所の歴史は古く、昭和 27（1952）年に「川崎市衛生試験所」として川崎市中央保健所の一角に設置されました。昭和 45（1970）年に川崎区大島町に業務の場を移して「川崎市衛生研究所」となった後、平成 25（2013）年に現在のキングスカイフロント（Kawasaki INovation Gateway at SKYFRONT）地区に移転し、名称も「川崎市健康安全研究所」と改め、現在に至ります。

令和 6（2024）年度は、令和 2（2020）年に始まった新型コロナウイルス感染症のパンデミックが終了して患者数の全数把握が中止となり、定点医療機関における定点把握疾患になって 1 年が経ったところです。世の中が、本当の意味でやっと元の生活を取り戻してきた時期です。また、令和 4（2022）年に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」及び「地域保健法」の一部改正があり、令和 5（2023）年 4 月から施行され、地方衛生研究所が法制化されて 1 年が経ちました。これに伴い、川崎市健康安全研究所も少しずつ変わりつつあります。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、近年の健康危機事象の中では最も大きなものの一つでした。大きな災厄であり、対応に苦慮した事象ではありましたが、悪いことばかりではありませんでした。検査について言えば、PCR という言葉が当たり前になり、ゲノム解析も皆が普通に実施できる時代になりました。またデジタル化が推進され、より効果的な情報発信の在り方も検討されるようになりました。世の中が大きく変わるきっかけになったとも言えます。

多くの変化とともに、令和 6 年度は研究所のパンフレットも新しく作り替えました。これから先の 10 年を見据えて、なるべくシンプルに、そしてインパクトのあるものにしたつもりです。またこれを機に、川崎市健康安全研究所では、全国の地方衛生研究所では初となる「理念」を以下のように掲げることにしました。

科学と技術の力で人々の健康で安全な暮らしを守り、常に進化し続ける研究所

- 専門家の集団として、科学的根拠となる試験検査や調査研究を行います。
- 最新の情報を収集してサーベイランス体制を強化し、健康危機に備えます。
- 古きを尊び新しきを知り、次世代に伝え、公衆衛生の発展に寄与します。

当研究所における日々の業務が、地域の皆様の安全で安心な暮らしを科学的に支える確かな基盤になることを願ってやみません。

なお、川崎市健康安全研究所の所長は、令和6（2024）年4月に前任の岡部信彦所長から引き継ぎ、三崎貴子が就任いたしました。川崎市健康安全研究所は、川崎市衛生研究所であった時代を含めると55年目となり、研究所所長としては18代目となります。地域における科学的技術的な中核機関として、さらなる向上を目指したいと考えておりますので、引き続き皆様のご支援、ご指導を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

令和6年12月

川崎市健康安全研究所 所長 三崎 貴子

# 目次

## 第1章 概要

1 沿革	1
2 施設概要	2
(1) 川崎生命科学・環境研究センター (LiSE) 施設概要	2
(2) 川崎市健康安全研究所の移転開設について	2
(3) 健康安全研究所施設概要	3
3 組織	4
(1) 組織と業務	4
(2) 事務分掌	5
(3) 人員配置	5
4 予算及び決算	6
5 学会参加並びに視察対応等の実績	7
(1) 学会・研究会等出席実績	7
(2) 講習会・研究会等受講実績	9
(3) 会議等出席実績	12
(4) 講師派遣実績	16
(5) 研修指導実績	18
(6) 視察・見学受け入れ実績	19
(7) 研修報告会開催実績	20
(8) 「キングスカイフロント夏の科学イベント2024」への出展	21

## 第2章 業務実績

1 企画調整部門	22
(1) 企画調整担当	22
(2) 感染症情報センター担当	24
2 理化学部門	29
(1) 食品担当	29
(2) 水質・環境担当	33
(3) 残留農薬・放射能担当	37
3 微生物部門	42
(1) 消化器・食品細菌担当	42
(2) 呼吸器・環境細菌担当	47
(3) ウイルス・衛生動物担当	50

## 第3章 試験検査

1 月別検査件数 .....	56
2 依頼別・項目別検査件数 .....	59
3 食品別検査項目内訳 .....	65
(1) 食品別検査項目内訳(理化学検査) .....	65
(2) 食品別検査項目内訳(食品細菌検査) .....	66
4 水質別検査項目内訳 .....	67

## 第4章 調査研究

1 令和6年度調査研究課題一覧 .....	68
2 調査研究報告等実績一覧 .....	70
(1) 令和6年度学会発表実績(口演発表) .....	70
(2) 令和6年度学会発表実績(示説発表) .....	71
(3) 令和6年度学会発表実績(誌上発表) .....	71
(4) 令和6年度論文掲載実績 .....	72
(5) 令和6年度行政報告等実績 .....	72
(6) 令和6年度その他執筆実績 .....	73
(7) 令和6年度表彰等受賞実績 .....	73
3 調査研究報告 .....	74

## 第5章 職員に関する事項

1 人事記録 .....	90
2 職員名簿 .....	91

# 【第1章 概要】

## 1 沿革

年月	事項
昭和27.1	川崎市条例第2号(昭和27年1月9日)により公衆衛生の向上及び増進に寄与するため川崎市立衛生試験所が設置される。庁舎は川崎市砂子1丁目7番地 川崎市中央保健所2階の一部を使用
昭和27.2	川崎市事務分掌条例(昭和22年川崎市条例第16号)に基づく事務分掌規則により「庶務係」及び「試験係」が設置される。
昭和36.7	市内に4か所の原子炉関係施設が設置され、市民からの強い要望に応じて、川崎市立川崎病院構内に放射能測定室を設置し、業務を開始
昭和36.10	川崎市事務分掌規則の改正により試験係が廃止され、新たに、試験第1係、試験第2係が設置される。
昭和37.9	川崎市中央保健所庁舎が改築され、同時に同庁舎4階に移転する。
昭和40.4	試験第1係、試験第2係が廃止され、新たに、微生物係、臨床検査係、理化学環境検査係が設置される。
昭和42.7	川崎市事務分掌規則の改正により理化学環境検査係が廃止され、新たに、食品化学係、環境検査係が設置される。
昭和44.4	川崎市立川崎病院構内に設置の放射能測定室を閉鎖し、環境検査係内に移す。
昭和44.9	川崎市大島5丁目5番地2(元川崎市交通局トロリーバス車庫跡地)に庁舎新築起工する。
昭和45.5	新庁舎竣工する。
昭和45.6	川崎市条例第2号が改正され、川崎市衛生研究所条例(昭和45年3月31日 条例第14号)が新たに施行される。(名称変更と設置場所の変更) 川崎市事務分掌規則の改正により課制を施行、2課7係が設置される。 微生物課(①庶務係、②細菌検査係、③臨床検査係、④ウイルス検査係) 理化学課(①食品検査係、②水質検査係、③環境検査係)
昭和45.6	川崎市衛生研究所新庁舎の開庁式が挙行される。
昭和46.3	川崎市衛生研究所条例の一部を改正する条例が公布される。(昭和46年3月23日 条例第6号)
昭和46.8	川崎市衛生研究所放射線障害予防規程(昭和46年7月29日 訓令第14号)が施行される。
昭和46.10	川崎市事務分掌規則の改正(昭和46年10月15日 規則第71号)により、1室、2課6係となる。同時に川崎市役所機構改革により公害局公害研究所が新設され、庁舎共同使用となる。
昭和47.4	川崎市が指定都市に指定される。(地方自治法第252条の19第1項)
昭和48.12	公害研究所が新庁舎建設に伴い移転する。
昭和50.4	川崎市衛生研究所条例の一部改正施行される。(昭和50年4月1日 条例第6号) 川崎市衛生研究所条例施行規則が全面改正施行される。(昭和50年4月1日 規則第21号)
昭和50.7	4階に実験室を増築する。
昭和61.10	川崎市事務分掌規則等の一部改正により、課、係制を廃止し、主幹・主査制を導入する。
平成元.3	1階に安全実験室を設置する。
平成3.3	電子顕微鏡室を設置する。
平成4.3	3階に有機溶媒排気装置を設置する。
平成4.4	川崎市事務分掌規則等の一部改正により、事務分掌の内容を変更する。
平成4.5	主査(衛生動物検査担当)及び主査(残留農薬検査担当)を増設する。
平成6.4	川崎市衛生研究所条例の一部改正施行される。(平成6年3月30日 条例第13号)
平成6.7	川崎市衛生研究所条例の一部改正施行される。(平成6年3月30日 条例第6号) 手数料(第7条関係別表)を大幅に改定する。
平成9.5	神奈川県から医薬品検査業務が本市に移管されたことに伴い、4階に医薬品検査施設を増設する。
平成10.4	川崎市衛生研究所条例の一部改正施行される。(平成10年3月24日 条例第4号) 医薬品検査手数料を新設する。
平成12.4	川崎市衛生研究所条例の一部改正施行される。(平成12年3月24日 条例第12号) 手数料(第7条関係別表)を一部改定する。
平成16.2	川崎市衛生研究所条例の一部改正施行される。(平成15年12月25日 条例第48号)
平成16.3	川崎市衛生研究所条例の一部改正施行される。(平成16年3月24日 条例第8号) 川崎市衛生研究所条例の一部改正施行される。(平成18年3月31日 条例第34号)
平成20.3	川崎市衛生研究所条例の一部改正施行される。(平成20年3月25日 条例第20号)

年月	事項
平成21.4	組織再編により第2類事業所となる。 衛生動物検査部門をウイルス検査部門に統合する。
平成24.4	組織再編により第1類事業所となる。 副所長及び企画調整担当を設置する。 環境検査部門を水質検査部門に統合する。
平成25.2	川崎区殿町3丁目25番13号川崎生命科学・環境研究センター2階に移転する。
平成25.3	平成24年10月10日条例第42号により、川崎市衛生研究所条例が川崎市衛生試験検査手数料条例として一部改正施行される。(名称等の変更) 組織改正により衛生研究所を再編し、健康安全研究所を設置する。 感染症情報センターを健康安全研究所内に設置する。
平成25.4	平成24年10月10日条例第42号により、川崎市衛生研究所条例が川崎市衛生試験検査手数料条例として一部施行される。(手数料の改訂) 企画調整担当課長を設置する。
令和5.4	令和4年10月21日条例第57号により、川崎市衛生試験検査手数料条例が一部改正施行される。(手数料の改訂)

## 2 施設概要

### (1) 川崎生命科学・環境研究センター (LiSE) 施設概要

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE; Life Science and Environment research center)は、市の研究施設である「川崎市健康安全研究所」及び「川崎市環境総合研究所」に加え、民間の研究施設が入居した施設であり、殿町国際戦略拠点キングスカイフロントにおける、ライフサイエンス・環境分野の研究開発拠点として建設された。

土地は川崎市、建物は大成建設株式会社が保有し、施設維持管理は大成有楽不動産株式会社が実施するPP(Public Private Partnership)方式が採用されている。

環境に配慮した設計とされており、太陽熱や空気熱を利用した給湯システム、太陽光パネルを用いた電力供給、外壁へのダブルウォール(二重壁)使用による断熱性、メンテナンス性向上等の様々な環境対策が施されている。

表1 川崎生命科学・環境研究センター (LiSE) 建物概要

所在地	〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-13
敷地面積	6,999.93㎡
建築面積	3,110.63㎡
延床面積	11,406.09㎡(うち健康安全研究所使用部分2329.38㎡)
構造	鉄筋コンクリート造、鉄骨造
規模	地上4階、塔屋1階(うち健康安全研究所として2階フロアを使用)
竣工年月	2012年12月
設計・監理	大成建設株式会社一級建築士事務所
施工	大成建設株式会社横浜支店
建物所有	大成建設株式会社
建物維持管理	大成有楽不動産株式会社
主な施設	1F カフェ、防災センター、会議室、書庫、セミナー室等 2F 川崎市健康安全研究所 3F 川崎市環境総合研究所 4F 民間ラボ

### (2) 川崎市健康安全研究所の移転開設について

本研究所は平成25年3月、川崎区大島5丁目から、川崎区殿町3丁目の川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)2階に移転開設し、名称を「川崎市衛生研究所」から「川崎市健康安全研究所」に変更した。

移転時には、企画調整担当の新設に加え、感染症情報の収集・解析・発信を行う感染症情報センター機能を

健康福祉局健康安全室(現在の健康福祉局保健医療政策部)から移管するなど、移転開設に併せて研究所機能の強化を図った。

研究所の役割は、川崎市の衛生行政を支える科学的・技術的中核機関として、試験検査、調査研究、情報発信、研修指導の4本柱を基盤とし、市民の健康で安全な暮らしを支えることを目的としているほか、国立医薬品食品衛生研究所をはじめとする殿町地区内外の研究機関との共同研究にも力を注いでいる。

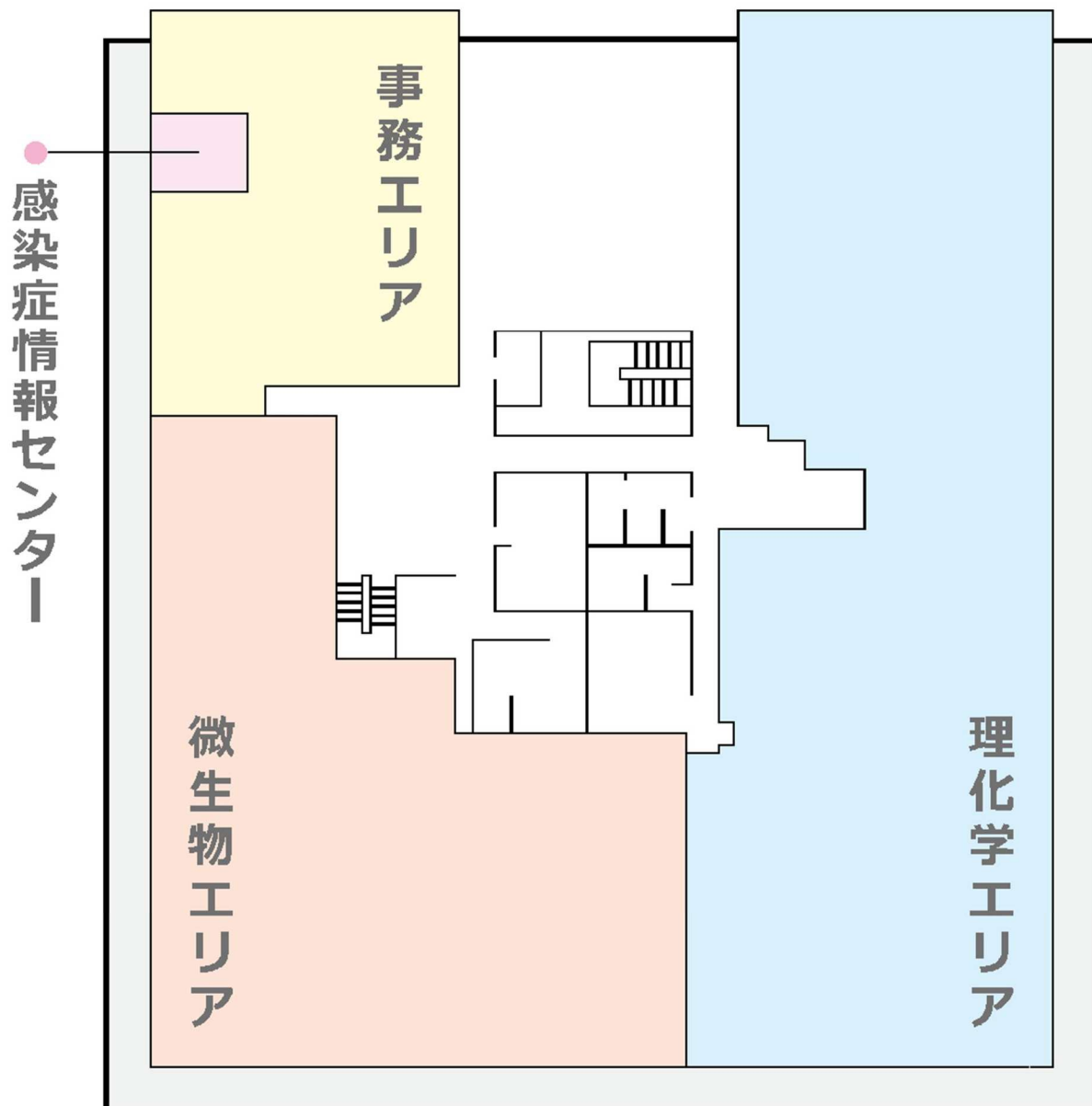
### (3) 健康安全研究所施設概要

研究所施設は川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)の2階フロア全体を占め、理化学エリア、微生物エリアの他、事務室及び感染症情報センターの4エリアで構成されている。

旧施設の衛生研究所では、事務担当以外の職員の事務机はそれぞれの検査室に配置されていたが、健康安全研究所では全ての職員について、事務室に事務机を配置し、情報の共有化が図りやすい環境となった。

また、それぞれのエリアではICカードによる入室管理が行われている。特に理化学エリア及び微生物エリアは二次セキュリティのフロアとなっており、また入室の権限についても個人ごとに別々に付与されているため、たとえ職員であっても不要な諸室には入室できないようになっている。

図1 健康安全研究所図面(川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)2階)



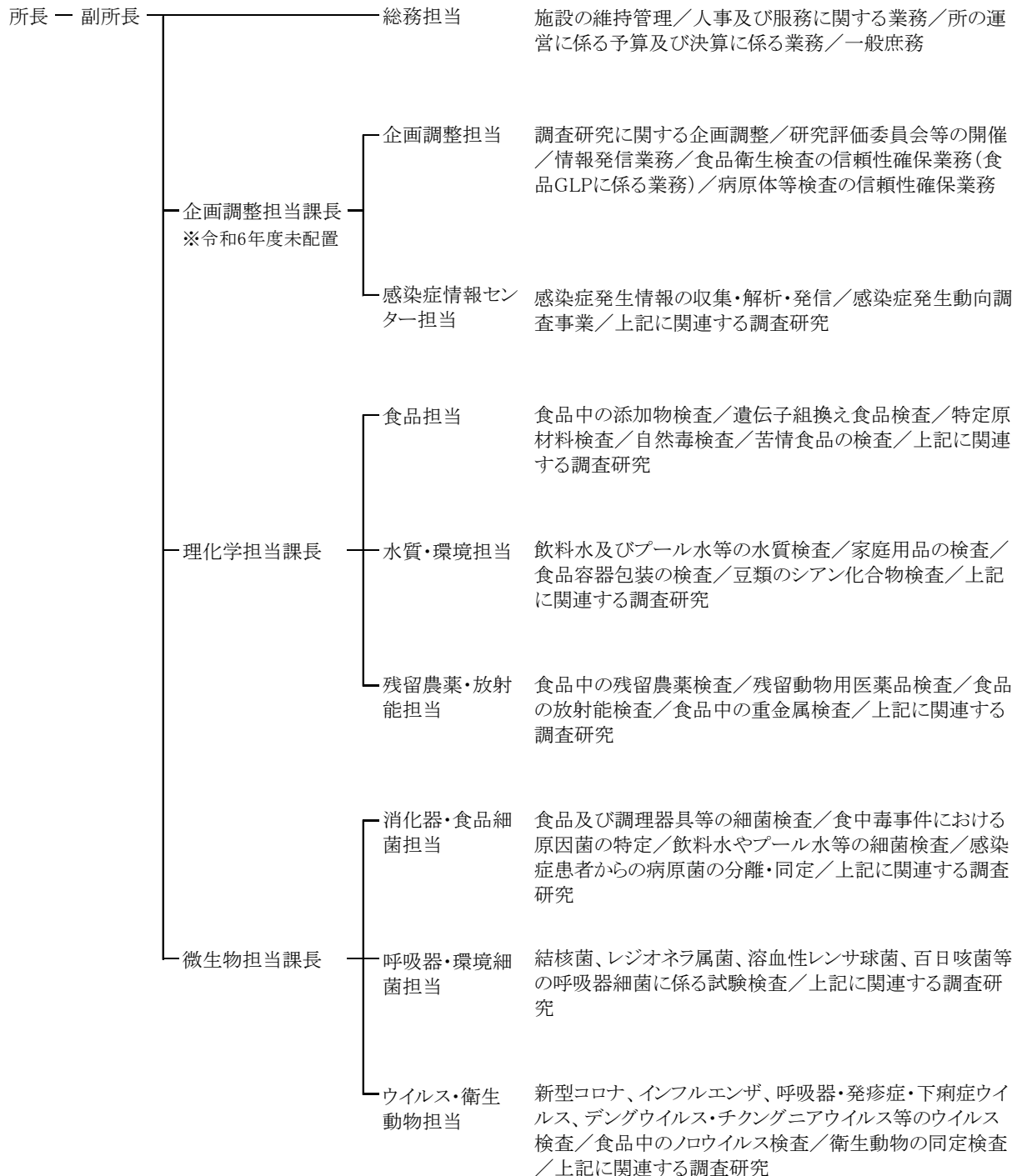
### 3 組織

#### (1) 組織と業務

本研究の組織は、所長のもとに 9 担当で構成されている。

組織体制と各担当の主な業務を図 2 に示す。

図2 組織図



(2) 事務分掌

川崎市事業所事務分掌規則(昭和 51 年 4 月 30 日規則第 39 号)第 3 条の事務分掌は、次のとおりとする。

健康安全研究所

- ア 所の維持管理に関すること。
- イ 試験検査の企画、調査及び統計に関すること。
- ウ 公衆衛生従事者の研修に関すること。
- エ 感染症情報センターに関すること。
- オ 微生物学的試験検査及び調査研究に関すること。
- カ 衛生動物の試験検査及び調査研究に関すること。
- キ 理化学的試験検査及び調査研究に関すること。
- ク その他公衆衛生上必要な試験検査及び調査研究に関すること。

(3) 人員配置

令和 6 年 4 月 1 日現在の人員配置を表 2 に示す。

表2 人員配置

		職種						総数
		医師	一般事務	獣医師	薬剤師	臨床検査技師	化学	
所長		1						1
副所長			1					1
総務			4	1				5
企画調整	担当課長							0
	企画調整			1	1			2
	感染症情報センター			1	2			3
理化学	担当課長			1				1
	食品			1	2		2	5
	水質・環境				3		2	5
	残留農薬・放射能				1	2	1	4
微生物	担当課長				1			1
	消化器・食品細菌			1	2	2		5
	呼吸器・環境細菌				1	2		3
	ウイルス・衛生動物			3	2	2		7
合計		1	5	9	15	8	5	43

#### 4 予算及び決算

令和6年度の歳入及び歳出をそれぞれ表3及び表4に示す。

表3 歳入

単位:円

款項目	節	予算額	決算額
使用料及び手数料			
手数料			
健康福祉手数料	保健衛生施設手数料	105,661,000	73,666,740
諸収入			
雑入			
弁償金	健康福祉費弁償金	82,000	142,560
雑入	健康福祉費雑入	7,510,000	1,024,429

表4 歳出

単位:円

款項目	節	予算額	決算額
健康福祉費			
保健衛生施設費			
健康安全研究所費		485,857,000	455,539,388
	報酬	2,217,000	1,779,834
	給料	903,000	967,308
	職員手当等	167,000	154,662
	共済費	0	0
	報償費	185,000	102,000
	旅費	1,983,000	1,583,610
	需用費	85,684,000	71,667,085
	消耗品費	82,545,000	69,256,834
	燃料費	8,000	4,053
	印刷製本費	769,000	951,214
	光熱水費(ガス料)	37,000	30,160
	修繕費	2,325,000	1,424,824
	役務費	1,370,000	1,050,917
	電信電話料	124,000	124,478
	通信回線料	28,000	27,492
	郵便料	267,000	285,567
	運搬料	5,000	0
	手数料	946,000	613,380
	委託料	56,469,000	52,476,208
	使用料及び賃借料	208,581,000	208,398,125
	備品購入費	68,209,000	67,351,955
	負担金補助及び交付金	60,089,000	50,007,684

## 5 学会参加並びに視察対応等の実績

### (1) 学会・研究会等出席実績

年月日	名称	場所
R6.5.16	日本呼吸器ウイルス感染症研究会	オンライン
R6.5.18～19	第27回リケッチア研究会研究発表会	オンライン
R6.5.23～24	日本食品化学学会 第30回総会・学術大会	東京ビッグサイト
R6.5.30～6.1	第99回日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会	出島メッセ
R6.6.9～13	8th International Society for Food and Environmental Virology (ISFEV) Conference	Shimadzu Tokyo Innovation Plaza
R6.6.27～29	第98回日本感染症学会総会・学術講演会・ 第72回日本化学療法学会学術集会合同学会	神戸国際会議場、神戸国際展示場
R6.7.9	第4回地研現場の会・研究会	東京都健康安全研究センター
R6.7.10～11	衛生微生物技術協議会第44回研究会	タワーホール船堀
R6.7.25～27	第39回日本環境感染学会総会・学術集会	国立京都国際会館
R6.8.26～27	日本マイコトキシン学会 50周年記念第91回学術講演会	ライトキューブ宇都宮
R6.9.5～6	第45回日本食品微生物学会学術総会	リンクステーションホール青森(青森市文化会館)
R6.9.14～15	第6回SFTS研究会	オンライン
R6.9.17	13th International Symposium on Toxic Microorganisms Approaches for risk analysis and food safety	オンライン
R6.9.17～18	日本防菌防黴学会 第51回年次大会	タワーホール船堀
R6.10.3～4	令和6年度第38回関東甲信静支部ウイルス研究部会	神奈川県衛生研究所
R6.10.9～11	令和6年度日本水道協会全国会議(第105回総会・水道研究発表会)	神戸国際会議場・神戸国際展示場
R6.10.17～19	第73回日本感染症学会東日本地方会学術集会・ 第71回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会	東京ドームホテル
R6.10.26～27	第28回日本ワクチン学会・ 第65回日本臨床ウイルス学会合同学術集会	ウインクあいち
R6.10.29～31	第83回日本公衆衛生学会総会	札幌コンベンションセンター、札幌市産業振興センター
H6.11.7～8	日本食品衛生学会第120回学術講演会	中部大学春日井キャンパス
R6.11.8	令和6年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部 第14回公衆衛生情報研究部会総会・研究会	長野市生涯学習センター
R6.11.11～12	第47回農薬残留分析研究会(日本農薬学会)	徳島グランヴィリオホテル
R6.11.15	日本食品化学学会 第40回食品化学シンポジウム	Shimadzu Tokyo Innovation Plaza
R6.11.16	第92回神奈川県感染症医学会	神奈川県立かながわ労働プラザ

R6.11.16～17	第56回日本小児感染症学会総会・学術集会	出島メッセ長崎
R6.11.18～19	第26回腸管出血性大腸菌感染症研究会 第17回日本カンピロバクター研究会	文部科学省研究交流センター
R6.11.21～22	第61回全国衛生化学技術協議会年会	フェニーチェ堺
R6.11.26	第70回神奈川県公衆衛生学会	TKPガーデンシティPREMIUM 横浜西口、オンライン
R6.11.29	令和6年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部自然毒部会研究発表会	兵庫県医師会館
R6.11.29	日本水道協会関東地方支部水質研究発表会	オンライン
R6.11.30～12.1	日本性感染症学会第37回学術大会	沖縄コンベンションセンター
R6.12.11～13	NITE講座 化学物質管理	オンライン
R6.12.12～16	第11回アジア小児感染症学会(The 11th Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases)	香港
R7.1.16～17	第36回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会総会・研究会	ソニックシティ
R7.1.24～26	第36回日本臨床微生物学会総会・学術集会	名古屋国際会議場
R7.2.7	令和6年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部理化学研究部会	TOiGO WEST 長野市生涯学習センター
R7.2.9	第25回食物アレルギー研究会	パシフィコ横浜アネックスホール
R7.2.16	第16回予防接種に関する研究報告会	リロの会議室コンフォート新宿
R7.2.27～28	第38回公衆衛生情報研究協議会総会・研究会	富山県民会館
R7.3.7	令和6年度神奈川県内衛生研究所等連絡協議会微生物情報部会	横須賀市民防災センターあんしんかん
R7.3.17～19	第59回日本水環境学会年会	北海道大学

## (2) 講習会・研修会等受講実績

年月日	名称	場所
R6.4.11～12	地方衛生研究所サーバイランス業務従事者研修	オンライン
R6.4.17	HPC / Agilent セミナーウィーク 2024(標準品について・林純葉等)	オンライン
R6.4.18	アジレント水道水質分析セミナー	オンライン
R6.4.25	残留農薬分析お役立ち情報事例紹介セミナー(アイスティサイエンス)	オンライン
R6.4.30	地衛研Webセミナー	オンライン
R6.5.9～10、5.14	第53期バイオセーフティ技術講習会	オンライン、バムサ環文研研究棟(バムサ習志野ラボ)
R6.5.15	質量分析シンポジウム	オンライン
R6.5.17	質量分析インフォマティクス研究会・第9回ワークショップ	理化学研究所横浜事業所
R6.5.24	令和6年度第1回感染症危機管理研修会	オンライン
R6.5.24	令和6年度病原体等の包装・運搬講習会	国立感染症研究所戸山庁舎
R6.6.5	地方衛生研究所等を対象とした微生物分野の基礎的な研修	オンライン
R6.6.13	国立医薬品食品衛生研究所特別講演会	国立医薬品食品衛生研究所
R6.6.13	令和6年度食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会	三田共用会議所
R6.6.14	令和6年度原子力防災基礎研修	神奈川県庁西庁舎
R6.6.18～19	ゲノム解析研修	国立感染症研究所村山庁舎
R6.6.20	マイクロピペットの正しい使い方セミナー	エッペンドルフ株式会社東京本社ショールーム
R6.6.25	有機溶剤従事者に対する安全衛生教育	カルッツ川崎
R6.6.26	DionexIC技術説明会2024	東京コンファレンスセンター品川
R6.7.9	第4回地研現場の会・研究会	東京都健康安全研究センター 7D会議室
R6.7.18	川崎市感染症危機管理研修会	川崎市医師会館
R6.7.22	令和6年度横浜市包装責任者研修会	横浜市衛生研究所
R6.7.26	FDSC食品衛生精度管理セミナー(一般財団法人食品薬品安全センター)	大田区産業プラザPiO
R6.8.22～23	第3回下痢原性大腸菌等遺伝子検査講習会	宮崎大学
R6.8.24	新興・再興感染症発生等想定訓練	川崎市立多摩病院講堂

R6.9.4	JASIS2024	幕張メッセ
R6.9.6	令和6年度第2回衛生関係職員研修会(災害対策編)	オンライン
R6.9.24	JBCO技能試験2024理化学試験フォローアップセミナー	オンライン
R6.9.30	ガラス器具の知識と取扱い(川崎市環境総合研究所)	川崎生命科学・環境研究センター1階大会議室
R6.10.8～11	令和6年度貝毒分析研修会	国立研究開発法人水産研究・教育機構 横浜庁舎
R6.10.8	令和6年度薬剤耐性菌の検査に関する研修(アップデートコース)	オンライン
R6.10.9	令和6年度第2回感染症危機管理研修会	オンライン
R6.10.11	NIHS特別講演会「Marine Biotoxin Reference Materials :Qualitative and Quantitative Measurements with Low Toxin Quantities」	国立医薬品食品衛生研究所
R6.10.21～11.8	細菌研修	国立感染症研究所村山庁舎
R6.10.29	KAWASAKIワンヘルス“One Health”2024勉強会	川崎市動物愛護センター
R6.10.31	感染症リスクアセスメント研修会	札幌コンベンションセンター
R6.11.14	地方衛生研究所職員セミナー(初任者向け)	オンライン
R6.11.18	食品に関するリスクコミュニケーション「食品中の放射性物質～今と未来への歩み～」(消費者庁 等)	オンライン
R6.11.19	地衛研Webセミナー 第5回「Mini」	オンライン
R6.11.22	令和6年度中央卸売市場食品衛生検査所研修会	川崎市中央卸売市場北部市場
R6.12	令和6年度動物由来感染症対策技術研修会	オンライン、オンデマンド
R6.12.2	第1回試験検査担当者を対象としたWeb講習会(理化学系)	オンライン
R6.12.11～12	NITE講座化学物質管理オンラインセミナー	オンライン
R6.12.13	高圧ガス保安講習会(川崎市環境総合研究所)	川崎生命科学・環境研究センター1階大会議室
R6.12.18～19	令和6年度希少感染症診断技術研修会	オンライン
R6.12.20	令和6年度第3回感染症危機管理研修会	オンライン
R7.1.17	第1回職員の試験検査技術の啓発に関する取組(理化学系現場の会)	AP東京八重洲
R7.1.10	内閣感染症危機管理統括庁主催シンポジウム	オンライン
R7.1～3	感染症危機管理リーダーシップ研修	国立国際医療研究センター他
R7.2.5～6	令和6年度動物由来感染症リファレンスセンター研修会(SFTS 検査研修)	国立感染症研究所村山庁舎

R7.2.8	トラベラーズワクチンフォーラム	オンライン
R7.2.12～13	令和6年度食中毒の疫学調査研修会	浦和コミュニティセンター
R7.2.13	衛生理化学分野研修会	オンライン
R7.2.17～18	ゲノムデータ解析研修会(関東・甲・信・静地区)	川崎市キングスカイフロントマネジメントセンター 会議室
R7.2.21	厚生労働省実験動物管理者等研修会	オンライン
R7.3.4	令和6年度衛生検査基礎技術研修・公衆衛生実務者研修	神奈川県衛生研究所
R7.3.5	島津製作所HPLC研修	島津製作所(Shimadzu Tokyo Innovation Plaza)
R7.3.5～7	公衆衛生実務者研修(残留動物用医薬品検査について)(神奈川県衛生検査所)	神奈川県衛生検査所
R7.3.6	令和6年度食品内で発見される昆虫等に関する検査技術研修会	オンライン
R7.3.10	地域保健総合推進事業技術研修会「食品苦情」	オンライン
R7.3.11～12	令和6年度公衆衛生実務者研修	神奈川県衛生研究所
R7.3.12	令和6年度神奈川県水道水質検査機関技術研修会	オンライン
R7.3.13	令和6年度水道水質検査精度管理に関する研修	オンライン
R7.3.13～14	神奈川県衛生研究所主催「TBHQ検査について」	神奈川県衛生研究所
R7.3.14	FOODEX JAPAN 2025	東京ビッグサイト
R7.3.17	令和6年度群馬県衛生環境研究所・食品安全検査センター業績発表会	オンライン
R7.3.26	化学物質管理者講習会(取扱事業場向け)	ぼっぼ町田

## (3) 会議等出席実績

年月日	名称	場所
R6.4.9	川崎市健康安全研究所動物実験委員会	川崎市健康安全研究所
R6.4.11	「川崎市における公衆衛生上重要な感染症の検査体制維持」に関する意見交換	国際感染症研究所
R6.4.12	日本公衆衛生学会感染症対策委員会	AP東京丸の内会議室、オンライン
R6.5.8	川崎市小児慢性特定疾病医療費給付申請仮審査	オンライン
R6.5.8	KAWASAKI地域感染制御協議会	オンライン
R6.5.9	令和6年度第1回神奈川県外部精度管理調査委員会	オンライン
R6.5.10	第1回地方衛生研究所全国協議会理事会	オンライン
R6.5.20	令和6年度神奈川県公衆衛生協会第1回企画・学術部会	オンライン
R6.5.21	令和6年度第1回食品汚染物専門委員会	オンライン
R6.5.22	厚生労働科学研究(砂川班)播磨グループ研究班会議	オンライン
R6.5.24	第28回下水道疫学研究会	オンライン
R6.6.5	川崎市小児慢性特定疾病医療費給付仮審査	オンライン
R6.6.7	令和6年度地方衛生研究所全国協議会臨時総会	オンライン
R6.6.18~21	第33回WHO/WPRO/TAG-VPD(WHO西太平洋地域/ワクチンで予防可能な疾患に関する技術専門家会議	マニラ(フィリピン)
R6.6.19	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED)(鈴木班)第1回研究班会議	オンライン
R6.6.24	第7回麻しん・風しん排除認定会議	オンライン
R6.6.24	令和6年度首都圏地方感染症情報センター連絡会(第1回)	東京都健康安全研究センター
R6.6.27	令和6年度食品衛生基準科学研究 食品用器具・容器包装等の衛生的な製造管理等の推進に資する研究 第1回班会議	国立医薬品食品衛生研究所
R6.7.1	令和6年度食品衛生基準科学研究事業 食品中のかび毒の汚染実態及び試験検査等に関する調査研究班班会議	国立医薬品食品衛生研究所
R6.7.1	公衆衛生情報研究協議会理事会	オンライン
R6.7.3	川崎市小児慢性特定疾病審査会	オンライン
R6.7.3	結核エイズ対策事業検討会	オンライン
R6.7.5	令和6年度第78回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部総会	横浜市開港記念会館
R6.7.10	衛生微生物技術協議会総会	タワーホール船堀(東京都)

R6.7.10	衛生微生物技術協議会合同会議 (理事会、検査情報委員会、レファレンス委員会)	タワーホール船堀(東京都)
R6.7.19	神奈川県精度管理専門委員会	オンライン
R6.7.23	令和6年度神奈川県公衆衛生協会第2回企画・学術部会	オンライン
R6.7.26	第29回下水道疫学研究会	オンライン
R6.8.6	川崎市精度管理専門委員会	オンライン
R6.8.8	令和6年度第1回川崎市感染症対策協議会	川崎市役所本庁舎、オンライン
R6.8.20	令和6年度地方衛生研究所全国協議会 関東甲信静支部 細菌研究部会役員会	さいたま市保健所
R6.8.23	第2回地方衛生研究所全国協議会理事会・総務委員会	オンライン
R6.8.29	令和6年度指定都市衛生研究所長会議	オンライン
R6.9.3	令和6年度第1回川崎市感染症発生動向調査委員会	川崎市役所本庁舎
R6.9.6	令和6年度地域保健総合推進事業 第1回関東甲信静ブロック会議	オンライン
R6.9.11	令和6年度第1回県・市感染症情報センター連絡調整会議	神奈川県衛生研究所
R6.9.14	感染症発生想定訓練(南部)	中原区役所
R6.9.24	令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「一類感染症等の患者発生時に備えた臨床対応及び行政との連携体制の構築のための研究」(加藤班)班会議	オンライン
R6.9.27	第30回下水道疫学研究会	オンライン
R6.9.30	第5回危機対応医薬品等に関する小委員会・第1回重点感染症作業班(厚生科学審議会)	オンライン
R6.10.2	川崎市小児慢性特定疾病審査会	オンライン
R6.10.2	令和6年度神奈川県公衆衛生協会第3回企画・学術部会	オンライン
R6.10.2	神奈川県感染症医学会理事会	神奈川県立かながわ労働プラザ
R6.10.4	令和6年度食品中の食品添加物分析法検討班第1回班会議	オンライン
R6.10.9	川崎港連絡協議会担当者会議	かわさきファズ物流センター
R6.10.10	令和6年度関東・東海ブロック家庭用品安全対策会議	オンライン
R6.10.16	第9回厚生科学審議会感染症部会薬剤耐性(AMR)に関する小委員会(厚生科学審議会)	オンライン
R6.10.27~28	地方衛生研究所全国協議会学術委員会	北海道立道活動センター(かでの2.7)
R6.10.31	日本公衆衛生学会感染症研修会	札幌コンベンションセンター

R6.11.1	危機対応医薬品等に関する小委員会第2回重点感染症作業班(厚生科学審議会)	オンライン
R6.11.6	川崎市小児慢性特定疾病審査会	オンライン
R6.11.16	神奈川県感染症医学会理事会	神奈川県立かながわ労働プラザ
R6.11.22	第31回下水道疫学研究会	オンライン
R6.12.10	神奈川県衛生研究所中堅研究職員(細菌検査員)第1次選考委員会	神奈川県衛生研究所
R6.12.11	2027年国際園芸博覧会会場衛生協議会(第1回)	2027年国際園芸博覧会協会 6階会議室(横浜市)
R6.12.19	令和6年度地域保健総合推進事業 第2回関東甲信静ブロック会議	オンライン
R6.12.26	第12回厚生科学審議会結核部会	オンライン
R7.1.8	川崎市小児慢性特定疾病審査会	オンライン
R7.1.8	令和6年度第2回県・市感染症情報センター連絡調整会議	神奈川県衛生研究所
R7.1.14	神奈川県衛生研究所中堅研究職員(細菌検査員)第2次選考委員会	神奈川県衛生研究所
R7.1.15	令和6年度第2回地方衛生研究所ブロック長等会	オンライン
R7.1.24	第32回下水道疫学研究会	オンライン
R7.1.28	危機対応医薬品等に関する小委員会第3回重点感染症作業班(厚生科学審議会)	オンライン
R7.2.3	第21回厚生科学審議会	オンライン
R7.2.4	令和6年度第2回川崎市感染症発生動向調査委員会	川崎市役所本庁舎、オンライン
R7.2.5	川崎市小児慢性特定疾病審査会	オンライン
R7.2.6	令和6年度第2回神奈川県外部精度管理調査委員会	オンライン
R7.2.7	神奈川県感染症発生動向調査解析委員会	神奈川県衛生研究所、オンライン
R7.2.11	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED)「既存ワクチンの有用性検証および今後の予防接種施策の向上に資する基礎的・臨床的・疫学的研究」(菅班)第1回研究班会議	オンライン
R7.2.12	令和6年度食品衛生基準科学研究 食品用器具・容器包装等の衛生的な製造管理等の推進に資する研究 第2回班会議	国立医薬品食品衛生研究所
R7.2.17	危機対応医薬品等に関する小委員会第4回重点感染症作業班(厚生科学審議会)	オンライン
R7.2.19	令和6年度厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「新型コロナウイルス感染症拡大収束後の食品等事業者の新たな営業形態にも対応した食品防御の推進のための研究」(今村班)班会議	オンライン
R7.2.20	神奈川県保健所長会議	神奈川県庁
R7.2.27	令和6年度公衆衛生情報研究協議会第2回理事会	富山県民会館

R7.2.28	地方感染症情報センター担当者会議	富山県民会館
R7.2.28	令和6年度神奈川県内衛生研究所等連絡協議会理化学情報部会	相模原市衛生研究所
R7.3.5	川崎市小児慢性特定疾病審査会	オンライン
R7.3.5	第6回危機対応医薬品等に関する小委員会・第5回重点感染症作業班(厚生科学審議会)	オンライン
R7.3.5	日本公衆衛生学会感染症対策委員会	オンライン
R7.3.10	2027年国際園芸博覧会会場衛生協議会(第2回)	2027年国際園芸博覧会協会 6階会議室(横浜市)
R7.3.13	地方衛生研究所全国協議会学術委員会	オンライン
R7.3.17	令和6年度第2回川崎市感染症対策協議会	川崎市役所本庁舎、オンライン
R7.3.26	第94回厚生科学審議会感染症部会	オンライン
R7.3.28	第33回下水道疫学研究会	オンライン

## (4) 講師派遣実績

年月日	名称	会場
R6.4.11	第26期実地疫学専門家養成コース初期導入研修	国立感染症研究所飯田橋事務所
R6.5.16	第13回小児呼吸器ウイルス感染症研究会	オンライン
R6.7.18	川崎市ふれあい子育てサポート事業ヘルパー研修	川崎市役所本庁舎
R6.8.24	新興再興感染症対応訓練	市立多摩病院
R6.8.31～9.1	感染対策向上加算に係る新興・再興感染症発症等想定訓練	長岡赤十字病院
R6.9.8	社会医学系専門医制度第6回専門医認定試験(試験面接官)	日本医師会館
R6.9.12	令和6年度感染症集団発生対策研修	国立保健医療科学院
R6.9.13	川崎市社会福祉協議会研修	川崎複合福祉センター
R6.9.14	新興再興感染症対応訓練	日医大武蔵小杉病院
R6.9.28	令和6年度日本医師会認定産業医研修会	川崎市医師会館
R6.10.7	令和6年度新興感染症等対応訓練(ファシリテーター養成研修)	広島県医師会館
R6.10.11	保健師研修	川崎市役所本庁舎
R6.10.24	蚊媒介感染症研修会	川崎市役所本庁舎
R6.11.2	令和6年度新興感染症等対応訓練(机上訓練)	広島県医師会館
R6.11.5-7	令和6年度短期研修 細菌研修	国立感染症研究所
R6.11.9～10	感染対策向上加算に係る新興・感染症発生等想定訓練	長岡赤十字病院
R6.11.14	国の「感染症患者における移送の手引き」作成のため、現場での使用車及び消毒方法等の確認及び換気に関する実証実験	株式会社スター交通本社
R6.11.19	川崎市ふれあい子育てサポート事業ヘルパー研修	多摩区役所
R6.11.20	大阪市立総合医療センター院内研修会	大阪市立総合医療センター
R6.11.24～25	ファシリテーターの養成研修(プレ訓練)	東北大学・医科薬科大学
R6.11.30	ファシリテーターの養成研修(プレ訓練)	平塚市民病院
R6.12.21	ファシリテーターの養成研修(机上訓練)	平塚市民病院
R7.1.22	令和6年度群馬県感染症研修会	群馬県衛生環境研究所

R7.1.31～2.1	感染症危機管理合同机上訓練	東北大学・医科薬科大学
R7.2.21	感染症危機管理リーダーシップ研修(短期)机上演習	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
R7.2.26	危機管理研修会(感染症基礎研修)	川崎市役所本庁舎
R7.2.27～28	第38回公衆衛生情報研究協議会研究会	富山県民会館
R7.3.15	日本環境感染学会地域セミナー関東ブロック研修会	市立多摩病院

## (5) 研修指導実績

年月日	内容	対象	人数
R6.5.13	衛生関係職員研修会(水質検査について)	環境衛生業務に従事する職員	11名
R6.5.22	第1回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	4名
R6.6.3~7.31	川崎市感染症情報発信システム(KIDSS)の情報セキュリティに関するeラーニング研修	感染症対策業務に従事する職員	106名
R6.6.26	第2回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	5名
R6.7.31	第3回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	4名
R6.8.2	保育園サーベイランスシステム研修会	保育園等のシステム入力担当者	90名
R6.8.9	保育園サーベイランスシステム操作研修会	令和6年度新規開設保育園等の入力担当者	1名
R6.9.11~12	食品添加物(発色剤)の検査法に係る研修	川崎市中央卸売市場食品衛生検査所職員	2名
R6.9.19	第4回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	8名
R6.10.3	令和6年度第1回疫学ミーティング	感染症対策業務等に従事する職員	27名
R6.10.23	第5回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	3名
R6.11.27	第6回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	2名
R6.12.18	第7回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	3名
R7.1.15	食品添加物(酸化防止剤)の検査法に係る研修	川崎市中央卸売市場食品衛生検査所職員	2名
R7.1.29	第8回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	2名
R7.1.30	令和6年度第2回疫学ミーティング	感染症対策業務等に従事する職員	22名
R7.2.4	第1回FETP-J研修	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	3名
R7.2.5	第2回FETP-J研修	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	3名
R7.2.6	第3回FETP-J研修	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	3名
R7.2.6	感染症情報センター職員研修会	各区役所地域みまもり支援センター等の感染症対策に係る職員	54名
R7.2.13	第4回FETP-J研修	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	3名
R7.2.19	第9回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	3名
R7.3.19	第10回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	3名

## (6) 視察・見学受け入れ実績

年月日	名称	人数
R6.5.20	川崎市財政局職員	7名
R6.5.27	社会医学系専攻医(慶應東邦プログラム)	3名
R6.8.1	慶應義塾大学大学院マネジメント研究科公衆衛生プログラム	8名
R6.8.7	夏の科学イベント	46名
R6.9.2	市立川崎病院臨床研修医	3名
R6.9.17、18	慶応大学医学部保健所実習	4名
R6.9.20、25	川崎市職場体験研修	2名
R6.11.15	株式会社町田予防衛生研究所職員	6名
R6.11.15	金沢市化学技術研修会視察	3名
R6.12.3	東海大学医学部	9名
R6.12.9	社会医学系専門医研修	5名
R7.1.23	専門職種 1day現場見学会	5名
R7.1.30	神奈川県海外技術研修員見学	3名
R7.2.13	国立感染症研究所FETP見学研究(インターンシップ)	3名
R7.3.6	市立川崎病院臨床研修医	16名
R7.3.7	公益財団法人実中研視察	5名
R7.3.10	川崎市獣医師会視察	3名
R7.3.11	市立川崎高校附属中学校キングスカイフロント見学会	42名
計	18件	166名

(7) 研修報告会開催実績

当研究所職員が出席した学会や研修会等の内容を所内で情報共有するとともに、プレゼンテーション能力の向上を目的として、研修報告会を原則月1回開催している。

令和6年度研修報告会開催実績

開催日	報告内容
R6.5.16	能登半島地震の被災地派遣
R6.6.6	リケッチア研究会研究発表会
R6.7.16	第99回日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会 第33回WHO/WPRO/TAG-VPD(WHO西太平洋地域/ワクチンで予防可能な疾患に関する技術専門家会議)参加報告
R6.8.9	第98回日本感染症学会総会・学術講演会報告/第72回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会報告 国際食品環境ウイルス学会
R6.9.20	第39回日本環境感染学会総会・学術集会報告 下痢原性大腸菌等遺伝子検査講習会
R6.10.18	第38回関東甲信静支部ウイルス研究部会報告
R6.12.20	第92回神奈川県感染症医学会報告 第83回日本公衆衛生学会総会報告 令和6年度貝毒分析研究会報告 第120回日本食品衛生学会学術講演会報告 第61回全国衛生化学技術協議会年会報告 第70回神奈川県公衆衛生学会報告 令和6年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部自然毒部会研究発表会報告
R7.2.20	日本性感染症学会第37回学術大会 第36回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会 第46回トラベラーズワクチンフォーラム研修会 第36回日本臨床微生物学会総会・学術集会 第56回小児感染症学会総会・学術集会 The 11th Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases
R7.3.17	市場食品衛生検査所研修会(魚介類の有毒部位および除去等について) 第25回食物アレルギー研究会

## (8) 「キングスカイフロント夏の科学イベント2024」への出展

多摩川を挟んで羽田空港の対岸に位置する殿町国際戦略拠点キングスカイフロントは、様々な研究機関が集積し、ライフサイエンスや環境分野の研究開発などが行われている。

キングスカイフロントでは、川崎市臨海部国際戦略本部が中心となり、子どもたちに科学技術に関心を持ってもらうことを目的とした「夏の科学イベント」を例年8月に開催しており、当研究所もブースを出展している。

主に小学生を対象に開催されるこのイベントは、キングスカイフロントに進出又は関係する企業・研究機関等がそれぞれの特色を活かしながら夏休みの学習に役立つ科学実験やクイズラリーなどの体験コーナーを出展するもので、「キングスカイフロント夏の科学イベント2024」には643人の親子が参加した。

### ア 開催日時

令和6年8月7日(水)13:00～16:00

### イ 主催(事務局)

キングスカイフロント夏の科学イベント実行委員会(川崎市臨海部国際戦略本部)

### ウ 会場

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)、ナノ医療イノベーションセンター(iCONM)、実中研、ジョンソン・エンド・ジョンソンインスティテュート東京(J&J)、ライフイノベーションセンター(LIC)、メドトロニックイノベーションセンター(メドトロ)、リサーチゲートビルディング トノマチ 2(RGB2)、SB カワスマ、島津製作所、東急REIホテル、国立医薬品食品衛生研究所

### エ 出展機関

川崎市健康安全研究所、川崎市環境総合研究所、公益財団法人実中研、国立医薬品食品衛生研究所ほか、キングスカイフロントに集積する民間研究機関等

## オ 健康安全研究所の出展内容

### 化学の不思議を体験しよう!

「化学の不思議を体験しよう!」をテーマに、普段入ることのできない健康安全研究所の研究エリア内で、細菌性食中毒、自然毒及び着色料についての検査を実際に体験し、楽しみながら食の安全に関する知識を学んでもらった。

(参加人数:45人(保護者含む))

写真1 アルギン酸ナトリウム実験の様子(その1)



写真2 アルギン酸ナトリウム実験の様子(その2)



写真3 有毒植物の画像をみている様子



## 【第2章 業務実績】

### 1 企画調整部門

#### (1) 企画調整担当

企画調整担当の主な業務は、各種調査研究評価委員会の開催、調査研究に係る企画及び連絡調整、試験検査に係る信頼性確保業務及び情報発信業務である。

#### ア 調査研究評価委員会等の運営

##### (7) 内部評価委員会

川崎市健康安全研究所調査研究評価委員会設置要綱に基づき、内部評価委員会を開催した。

内部評価委員会は、当該年度に当研究所で実施の「全研究課題」について、委員である当研究所職員が研究計画の評価及び研究結果の評価を行うもので、令和6年度の開催概要は表のとおりである。

##### (4) 外部評価委員会

川崎市健康安全研究所調査研究評価委員会設置要綱に基づき、外部評価委員会を開催した。

外部評価委員会は、内部評価委員会で評価された研究課題のうち、「特に重要な研究課題」について、委員である当研究所職員及び本庁関係課職員並びに外部研究機関の有識者が研究計画の評価及び研究結果の評価を行うもので、令和6年度の開催概要は表のとおりである。

##### (7) 倫理審査委員会

川崎市健康安全研究所倫理審査委員会設置要綱に基づき、倫理審査委員会を開催した。

倫理審査委員会は、当該年度に新たに計画された「人を対象とする生命科学・医学系研究」について、委員である当研究所職員及び外部の有識者が、倫理指針等に基づき倫理的観点及び科学的観点からその実施の適否に係る審査を行うもので、令和6年度の開催概要は表のとおりである。

表 令和6年度調査研究評価委員会等開催概要

年月日	委員会	課題数
R6.5.7	内部評価委員会(研究計画の評価)	27
R6.5.20		
R6.5.23		
R6.6.3	倫理審査委員会	4
R6.7.22	外部評価委員会(研究計画の評価)	8
R6.9.19	内部評価委員会(研究計画の評価)	1
R6.11.7	内部評価委員会(研究計画の評価)	1
R7.2.3	内部評価委員(研究結果の評価)	31
R7.2.10		
R7.2.14		
R7.3.21	外部評価委員会(研究結果の評価)	9

#### イ 食品衛生検査の信頼性確保業務

食品衛生検査の信頼性確保部門として、収去施設及び食品衛生検査施設に対し次の業務を行った。なお、不適とされたものについては適宜、改善指導を行った。

##### (7) 内部点検

収去施設(全7区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)衛生課、保健医療政策部食品安全担当(食品専門監視担当)並びに食品衛生検査施設(健康安全研究所及び保健医療政策部中央卸売市場食品衛生検査所)に対し、内部点検を実施した。

内部点検では、標準作業書の作成状況や機械器具の管理等が適切に実施されているかについて確認を行った。

##### (4) 内部精度管理

検査部門が実施した内部精度管理の実施状況の確認を行った。

##### (7) 外部精度管理調査

毎年度、健康安全研究所及び中央卸売市場食品衛生検査所では、一般財団法人食品薬品安全センターが実施する外部精度管理調査に参加し、客観的な評価を受けている。

令和6年度は、食品添加物・残留農薬等

の理化学検査、一般細菌数・大腸菌群等の微生物検査及び動物を用いる検査に係る調査に参加し、結果の確認を行った。

#### ウ 病原体等検査の信頼性確保業務

病原体等検査の信頼性確保部門として、病原体等検査施設(健康安全研究所)に対し次の業務を行った。なお、食品衛生検査の信頼性確保業務と同様に、不適とされたものは適宜改善指導を行った。

##### (7) 内部監査

内部監査では、標準作業書の作成状況や試験検査に係る書類の作成、機械器具の管理等が適切に行われているかについて確認を行った。

##### (イ) 内部精度管理

検査部門が実施した内部精度管理の実施状況の確認を行った。

##### (ウ) 外部精度管理調査

令和6年度は、厚生労働省が実施する腸管出血性大腸菌の遺伝子検査、麻しん・風しんウイルスの遺伝子解析、コレラ菌の同定検査、厚生労働科学研究の研究班の協力依頼に基づくレジオネラ属菌検査、結核菌VNTR解析理調査に参加し、結果の確認を行った。

#### エ 情報発信業務

主にホームページを用いて健康安全研究所の取組内容の情報発信を行っている。ホームページを用いた定期的な情報発信業務としては、「検査情報」を作成・掲載しており、理化学部門及び微生物部門が実施する日常の試験検査実績を、市民にとってわかりやすい体裁に配慮し取りまとめている。令和6年度は理化学検査情報を4回、微生物検査情報を4回作成し公開した。

## (2) 感染症情報センター担当

感染症情報センターの役割は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(以下、「感染症法」という。)」に基づく感染症発生動向調査事業実施要綱に規定されており、「各都道府県等域における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集、分析し、都道府県等の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとして、各都道府県等域内に1か所、原則として地方衛生研究所の中に設置する。」と明記されている。

川崎市では、平成25年2月まで、健康福祉局健康安全室(現在の健康福祉局保健医療政策部)に感染症情報センターを設置し、「川崎市感染症発生動向調査事業実施要領」に基づき感染症発生動向調査事業を実施してきたが、平成25年3月、感染症情報センター機能を健康安全研究所に移管し、従来から実施してきた業務に加えて、感染症情報発信システムの運用や疫学研究等を行い、機能強化を図っている。また、市内における健康危機事象発生時の初動体制及びネットワークを構築するため、FETP\*－Kawasakiプランに基づく取組を行っている。

\*FETP:Field Epidemiology Training Program

### <感染症発生動向調査事業>

感染症発生動向調査事業は、感染症情報センターの主たる業務であり、前述の感染症発生動向調査事業実施要綱により規定されている。

本事業では、医療機関から届出等される対象疾患について、国、県、指定都市の感染症情報センター等を結んで、感染症発生動向調査情報ネットワークを形成し、全国的な規模で感染症の流行状況の把握、患者発生情報及び検査情報の収集、解析、還元を行っている。市内では、保健所及び各保健所支所等と連携しながら、患者情報等の収集・解析を行い、関係機関に対して感染症情報を迅速に発信するとともに、市民に対しては広報紙「今、何の病気が流行しているか!」やメールマガジン等を毎週定期的に発行している。

#### ア 全数把握疾患の発生状況(表1~3)

一類感染症の届出はなかった。

二類感染症では、結核208件の届出があり、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症

候群(SARS)、中東呼吸器症候群(MERS)、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)の届出はなかった。

三類感染症では、細菌性赤痢2件、腸管出血性大腸菌感染症48件、腸チフス1件の届出があり、コレラ及びパラチフスの届出はなかった。細菌性赤痢2件は同居家族であり、1件は無症状であったがイタリア及びフランスへの海外渡航歴があった。菌種はいずれも*Shigella flexneri*(B群)であった。腸管出血性大腸菌感染症は前年と比べて届出数が減少したが、韓国の特定の飲食店でユッケや生レバーを喫食していた症例が複数報告された。腸チフス1件については、バングラデシュへの海外渡航歴があった。

四類感染症では、E型肝炎11件、つつが虫病1件、デング熱6件、ボツリヌス症2件、レジオネラ症28件の届出があった。ボツリヌス症については、令和3年以来3年ぶりに届出があり、2件は同居家族であった。つつが虫病については、令和4年以来2年ぶりに届出があり、推定感染地域は県外であった。

五類感染症では、アメーバ赤痢11件、ウイルス性肝炎5件、カルバパペム耐性腸内細菌目細菌感染症65件、急性弛緩性麻痺2件、急性脳炎16件、クロイツフェルト・ヤコブ病3件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症21件、後天性免疫不全症候群16件、侵襲性インフルエンザ菌感染症14件、侵襲性髄膜炎菌感染症1件、侵襲性肺炎球菌感染症41件、水痘(入院例に限る。)7件、梅毒167件、播種性クリプトコックス症2件、破傷風1件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1件、百日咳122件の届出があった。侵襲性髄膜炎菌感染症については、令和元年以来5年ぶりに届出があり、血清群はY群であった。梅毒については、平成11年の感染症法施行以降、最多の届出数となった。性別では男性が112件、女性が55件であり、男性は20歳代から40歳代、女性は20歳代の報告が多かった。病期別報告数については、男性は早期顕症梅毒I期が47件と最も多く、次いで早期顕症梅毒II期が34件であった。女性は早期顕症梅毒II期が22件と最も多く、次いで早期顕症梅毒I期及び無症候が各16件であった。なお、先天梅毒の報告はなかった。

表1 届出数（一～三類感染症及び新型コロナウイルス等感染症患者等届出数）

	総数	一類感染症	二類感染症		三類感染症					新型コロナウイルス等感染症(新型コロナウイルス感染症)
		エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱	急性灰白髄炎、ジフテリア、SARS、MERS、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	
令和4年	385,529	-	-	204	-	-	41	-	-	385,284
令和5年	36,312	-	-	225	-	-	74	-	-	36,013
令和6年	259	-	-	208	-	2	48	1	-	
川崎	81	-	-	69	-	-	12	-	-	
幸	16	-	-	8	-	-	8	-	-	
中原	84	-	-	70	-	-	14	-	-	
高津	21	-	-	14	-	-	7	-	-	
宮前	32	-	-	25	-	1	6	-	-	
多摩	10	-	-	8	-	1	1	-	-	
麻生	15	-	-	14	-	-	-	1	-	

※SARS：重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。）

※MERS：中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。）

※新型コロナウイルス感染症は令和2年2月1日から指定感染症、令和3年2月13日から新型コロナウイルス等感染症となり、令和5年5月8日からは五類感染症の定点把握疾患となった。

表2 届出数(四類感染症患者等届出数)

令和6年

	総数	四類感染症				
		E型肝炎	つつが虫病	デング熱	ボツリヌス症	レジオネラ症
総数	48	11	1	6	2	28
川崎	4	1	1	-	-	2
幸	4	1	-	-	-	3
中原	13	1	-	2	1	9
高津	13	7	-	1	-	5
宮前	8	1	-	2	1	4
多摩	2	-	-	1	-	1
麻生	4	-	-	-	-	4

※その他の四類感染症の届出はなかった。

表3 届出数（五類感染症（全数把握疾患）患者等届出数）

令和6年

	総数	五類感染症								
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症
総数	495	11	5	65	2	16	3	21	16	14
川崎	147	5	1	5	-	2	1	1	8	6
幸	47	3	-	3	-	-	-	3	-	1
中原	56	1	4	5	2	5	-	2	4	3
高津	98	-	-	1	-	3	-	2	-	-
宮前	55	-	-	17	-	3	2	8	2	2
多摩	24	2	-	3	-	-	-	-	-	2
麻生	68	-	-	31	-	3	-	5	2	-
	総数	五類感染症								
		侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例に限る。）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	
総数		1	41	7	167	2	1	1	122	
川崎		-	12	2	84	2	1	1	16	
幸		-	4	-	2	-	-	-	31	
中原		-	7	2	20	-	-	-	1	
高津		-	5	-	23	-	-	-	64	
宮前		1	7	2	11	-	-	-	-	
多摩		-	2	1	11	-	-	-	3	
麻生		-	4	-	16	-	-	-	7	

※その他の五類感染症の届出はなかった。

## イ 定点把握疾患の発生状況（表4）

令和6年は、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、伝染性紅斑、咽頭結膜熱及びインフルエンザの報告数が過去5年平均を上回った。なお、令和2年から令和4年までは新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が著しく減少したため、過去5年平均との比較については、平成28年から令和元年までの平均と比較を行った。

手足口病については、5月中旬以降患者報告数が増加し、第26週（6月第4週）に定点当たり7.72人となり流行発生警報基準値（5.00人）を超え、第28週（7月第2週）に定点当たり15.24人と、流行のピークとなった。その後報告数は減少したものの、8月下旬以降再び増加し、第41週（10月第2週）に定点当たり12.49人となった後、減少した。また、年間の定点当たり患者報告数は過去5年平均と比べて2.36倍であった。

伝染性紅斑については、第23週（6月第1週）以

降患者報告数が増加し、第36週（9月第1週）に定点当たり2.19人となり流行発生警報基準値（2.00人）を超えた。その後第48週（11月第4週）に定点当たり4.05人と流行のピークとなった後、減少した。また、年間の定点当たり患者報告数は過去5年平均と比べて2.18倍であった。

インフルエンザについては、2023/2024シーズンは、第6週（2月第2週）に定点当たり37.03人となり、流行のピークとなった。2024/2025シーズンは、第49週（12月第1週）に定点当たり11.41人となり、流行発生注意報基準値（10.00人）を超えた。第51週（12月第3週）には定点当たり52.92人となり、流行発生警報基準値（30.00人）を超え、第52週（12月第4週）には感染症法が施行された平成11年以降最多の報告数（定点当たり72.28人）となった。また、年間の定点当たり患者報告数は過去5年平均と比べて1.31倍であった。

表 4 五類感染症（定点把握疾患）の発生状況

【小児科定点、内科定点、眼科定点対象疾患】

令和 6 年

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	71,875	8,428	13,044	5,805	3,021	2,828	3,721	6,035	4,609	4,081	4,295	3,060	12,948
水痘	554	64	47	22	232	73	57	46	33	10	27	38	114
流行性耳下腺炎	95	1	8	10	14	10	12	12	7	4	8	4	5
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5,942	546	664	603	685	707	540	416	406	352	388	304	331
感染性胃腸炎	7,227	983	1,007	561	599	635	581	395	387	408	401	417	853
手足口病	8,038	3	5	4	23	141	690	1,938	1,133	1,432	1,902	630	137
伝染性紅斑	2,028	12	12	5	6	23	71	138	192	282	449	451	387
突発性発しん	453	23	23	29	37	60	53	30	47	41	51	32	27
ヘルパンギーナ	1,390	3	1	4	13	12	132	675	310	126	80	16	18
咽頭結膜熱	720	127	84	69	72	88	70	44	49	20	38	24	35
RSウイルス感染症	960	9	28	77	269	151	103	60	78	66	47	17	55
インフルエンザ	28,553	4,541	8,358	3,445	518	67	52	106	80	157	302	763	10,164
新型コロナウイルス感染症	15,412	2,079	2,756	945	707	796	1,306	2,142	1,837	1,139	575	340	790
流行性角結膜炎	503	37	51	31	55	65	54	33	50	44	27	24	32
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【基幹定点、性感染症定点対象疾患】

令和 6 年

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	1,695	175	185	122	113	146	131	146	175	123	107	98	174
細菌性髄膜炎	8	-	-	-	-	1	1	1	-	2	1	1	1
無菌性髄膜炎	14	2	-	-	2	2	-	3	-	1	1	1	2
マイコプラズマ肺炎	30	-	1	1	2	3	-	3	6	-	4	4	6
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
インフルエンザ入院サーベイランス	114	27	10	6	1	1	1	1	3	1	2	6	55
新型コロナウイルス感染症 入院サーベイランス	842	87	131	60	41	72	72	85	103	55	55	27	54
淋菌感染症	98	12	7	10	7	7	8	8	15	7	6	5	6
性器クラミジア感染症	334	28	23	24	29	31	25	22	33	38	23	26	32
性器ヘルペスウイルス感染症	94	7	5	10	12	15	6	9	7	5	3	13	2
尖圭コンジローマ	103	7	6	10	9	10	12	9	4	8	10	8	10
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	47	3	2	1	8	3	6	3	3	6	2	6	4
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	9	2	-	-	2	1	-	1	1	-	-	1	1
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

ウ 集団施設における感染症発生情報（表 5）

学校保健安全法に規定される対象疾患により出席停止となった患者数について、小学校及び中学校からの報告数を集計することにより、集団施設における感染症発生状況を解析し、関係機関や市民等へ発信している。なお、保育園については、学校等欠席者・感染症情報システムから収集した情報を集計している。

なお、令和 2 年から令和 4 年までは新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が著しく減少したため、令和 6 年の集計における過去 5 年平均との比較については、平成 28 年から令和元年までの

平均と比較を行った。

インフルエンザ様疾患については、年間では過去 5 年平均と比較して 1.22 倍であったが、12 月は 3.03 倍と報告数が増加した。

その他については、年間では 21,606 件の報告があり、過去 5 年平均と比較して 1.87 倍であった。9 月～12 月は、小学校及び中学校でマイコプラズマ感染症による出席停止報告数が増加し、同期間のその他全体の 34.4%を占めた。特に中学校では、10 月のその他全体の 78.1%を占めた。

表5 集団施設における感染症発生情報

令和6年

		総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	総数	69,675	10,386	16,732	7,542	2,403	2,279	3,138	4,197	1,808	3,506	3,641	3,159	10,884
	保育園	20,698	2,051	1,859	1,247	1,087	928	1,627	2,912	1,545	1,986	1,955	1,323	2,178
	小学校	37,156	6,356	12,287	4,683	1,085	1,050	1,172	857	163	939	1,145	1,325	6,094
	中学校	11,821	1,979	2,586	1,612	231	301	339	428	100	581	541	511	2,612
百日咳	総数	53	-	-	-	1	-	8	5	3	14	9	6	7
	保育園	13	-	-	-	-	-	1	1	1	7	2	1	-
	小学校	37	-	-	-	1	-	5	4	2	7	7	4	7
	中学校	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-
インフルエンザ様疾患	総数	37,785	6,985	13,488	6,171	578	80	36	80	10	150	350	864	8,993
	保育園	4,302	924	1,036	691	136	14	2	7	4	30	23	121	1,314
	小学校	25,531	4,546	10,357	4,013	340	42	26	64	4	96	252	529	5,262
	中学校	7,952	1,515	2,095	1,467	102	24	8	9	2	24	75	214	2,417
新型コロナウイルス感染症	総数	7,504	1,850	1,919	384	245	304	469	723	230	830	281	111	158
	保育園	1,391	358	305	97	89	58	67	158	107	90	15	13	34
	小学校	3,522	1,089	1,177	185	89	67	154	204	60	302	80	41	74
	中学校	2,591	403	437	102	67	179	248	361	63	438	186	57	50
麻疹	総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	保育園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	総数	270	17	20	14	29	40	37	26	17	12	18	24	16
	保育園	86	6	4	7	6	15	8	11	10	1	5	4	9
	小学校	176	10	16	6	22	24	28	15	6	10	13	19	7
	中学校	8	1	-	1	1	1	1	-	1	1	-	1	-
水痘	総数	1,471	165	98	58	65	184	181	128	25	50	65	136	316
	保育園	205	32	17	5	10	24	12	32	11	8	15	19	20
	小学校	1,194	120	77	53	50	149	162	93	13	38	42	114	283
	中学校	72	13	4	-	5	11	7	3	1	4	8	3	13
風しん	総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	保育園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	総数	585	72	42	22	67	96	79	49	29	36	32	21	40
	保育園	335	43	28	15	45	52	42	19	24	21	13	8	25
	小学校	224	27	14	6	21	40	36	27	2	11	14	11	15
	中学校	26	2	-	1	1	4	1	3	3	4	5	2	-
急性出血性結膜炎	総数	11	2	-	-	-	2	-	1	1	2	1	1	1
	保育園	10	1	-	-	-	2	-	1	1	2	1	1	1
	小学校	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	総数	390	95	29	17	19	44	84	36	11	16	12	17	10
	保育園	247	52	14	7	14	28	57	29	10	13	7	9	7
	小学校	126	40	13	9	3	14	24	7	1	3	3	6	3
	中学校	17	3	2	1	2	2	3	-	-	-	2	2	-
その他	総数	21,606	1,200	1,136	876	1,399	1,529	2,244	3,149	1,482	2,396	2,873	1,979	1,343
	保育園	14,109	635	455	425	787	735	1,438	2,654	1,377	1,814	1,874	1,147	768
	小学校	6,345	523	633	411	559	714	737	443	75	472	734	601	443
	中学校	1,152	42	48	40	53	80	69	52	30	110	265	231	132

※保育園は学校等欠席者・感染症情報システムから収集した情報（令和7年5月16日時点）

## 2 理化学部門

### (1) 食品担当

食品衛生法及び食品表示法に基づく食品中の食品添加物検査、成分規格検査、遺伝子組換え食品検査、特定原材料検査、自然毒、化学物質検査及び食中毒疑い検査並びに苦情食品検査等を担当している。令和6年度は、保健所、保健所支所、中央卸売市場食品衛生検査所及び港湾局から搬入された食品等144検体、342項目、食中毒疑い1事例2検体及び苦情食品2事例2検体について検査を実施した。(表1)

#### ア 食品添加物検査

食品添加物の使用基準及び表示基準に関する項目について、延べ282項目(保存料、着色料、酸化防止剤等)の検査を実施した。(表2)

#### イ 遺伝子組換え食品検査

米加工品、ばれいしょ加工品、魚介類、魚介類加工品及び菓子 計21検体について検査を実施した。結果は全て陰性であった。(表3)

#### ウ 特定原材料検査

特定原材料の使用表示のない食品について、卵を対象に7検体及び乳を対象に2検体の検査を実施した。なお、乳を対象とした検体のうち1検体は卵も対象としている。スクリーニング検査の結果は、全ての検体で不検出又は基準値である $10 \mu\text{g/g}$ 未満であった。(表4)

#### エ 自然毒及び化学物質検査

東扇島東公園人工海浜に自生する二枚貝及び市内流通食品、計8検体について貝毒検査を実施した。このうち1検体で下痢性貝毒が検出されたが、規制値以下であった。また、フグ毒検査を1検体及びヒスタミン検査を2検体実施した。(表5)

#### オ 食中毒疑い検査

市内の食中毒疑い事例において1事例2検体が搬入された。家庭内で調理したフグを喫食した事例であり、テトロドトキシンについて検査を行った結果、2検体からテトロドトキシンが検出された。

#### カ 苦情食品検査

保健所及び保健所支所へ苦情品として届けられたもののうち、2事例2検体が搬入され、カビについて検査を行った結果、1事例ではカビが推定される所見を認めたが、もう1事例ではカビに特徴的な所見は認められなかった。

表1 食品化学検査内訳

検査内容	項目数
食品添加物	282
遺伝子組換え食品検査	21
特定原材料検査	9
自然毒・化学物質	18
その他の検査	12
総計	342

表2 食品添加物検査内訳

	検査内容	項目数
保存料	安息香酸	22
	ソルビン酸	57
	パラオキシ安息香酸エステル類	25
着色料	許可酸性タール色素	24
発色剤	亜硝酸根	10
甘味料	サッカリン	15
	アセスルファムカリウム	11
漂白剤	亜硫酸塩	29
酸化防止剤	ブチルヒドロキシアニソール	4
	ジブチルヒドロキシトルエン	3
品質保持剤	プロピレングリコール	10
防かび剤	イマザリル	8
	オルトフェニルフェノール	7
	ジフェニル	7
	チアベンダゾール	8
その他の添加物	ナタマイシン	1
不許可添加物	サイクラミン酸(甘味料)	20
	TBHQ(酸化防止剤)	8
	アゾルビン(着色料)	5
	パテントブルー(着色料)	2
	スーダンⅠ(着色料)	1
	スーダンⅡ(着色料)	1
	スーダンⅢ(着色料)	1
	スーダンⅣ(着色料)	1
	パラレッド(着色料)	1
	キノリンイエロー(着色料)	1
総計		282

表3 遺伝子組換え食品検査結果

品目	検体数	検査対象	安全性	試験方法	結果	
米加工品	6	遺伝子組換えコメ (63Bt、NNBt、CpTI)	未審査	定性 PCR	陰性	6
菓子	3		未審査	定性 PCR	陰性	3
ばいりいしょ加工品	5	遺伝子組換えバレイショ (F10、J3)	未審査	定性 PCR	陰性	5
菓子	3		未審査	定性 PCR	陰性	3
魚介類加工品	4	遺伝子組換えサケ (AquAdvantage)	未審査	定性 PCR	陰性	4

表4 特定原材料スクリーニング検査結果

検査対象	品目	検体数	試験方法	結果	
卵	パン	3	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.Ⅲ 卵	不検出	
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザⅡ卵(卵白アルブミン)	不検出	
	パン	1	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.Ⅲ 卵	10 μg/g未満	
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザⅡ卵(卵白アルブミン)	10 μg/g未満	
	菓子類	1	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.Ⅲ 卵	不検出	
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザⅡ卵(卵白アルブミン)	不検出	
	菓子類	1	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.Ⅲ 卵	10 μg/g未満	
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザⅡ卵(卵白アルブミン)	10 μg/g未満	
	インスタント食品	1	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.Ⅲ 卵	10 μg/g未満	
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザⅡ卵(卵白アルブミン)	10 μg/g未満	
	乳	パン	1	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.Ⅲ 牛乳	不検出
				(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザⅡ牛乳(カゼイン)	不検出
菓子類		1	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.Ⅲ 牛乳	不検出	
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザⅡ牛乳(カゼイン)	不検出	

試験方法:1 検体につき2種類のキットを用いて検査を実施し、いずれか1種でも結果が10μg/g以上検出された場合、スクリーニング検査陽性となる。

表5 自然毒及び化学物質検査結果

品目	検体数	自然毒分類	検査項目	結果	
ふぐ加工品	1	フグ毒	フグ毒	5 MU/g 以下	1
アサリ	7*	貝毒	麻痺性貝毒	1.8 MU/g 未満	6
			下痢性貝毒	不検出	7
ハマグリ	1		麻痺性貝毒	1.8 MU/g 未満	1
			下痢性貝毒	不検出	1
魚介類加工品	2	化学物質	ヒスタミン	不検出	2

\*アサリ7検体のうち1検体は下痢性貝毒検査のみ実施

## (2) 水質・環境担当

「水道法」に基づく貯水槽水等の水質検査、「災害時における飲料水及び生活用水の供給源としての井戸及び受水槽の有効活用に関する要綱」に基づく災害用井戸水検査、「神奈川県水浴場等に関する条例」に基づくプール水検査、「川崎市公衆浴場法施行条例」及び「川崎市旅館業法施行条例」に基づく浴槽水検査、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づく家庭用品検査、「食品衛生法」に基づく食品の成分規格等検査、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に基づく健康食品等に含まれる医薬品成分（無承認無許可医薬品）検査等を担当している。

令和6年度は保健所及び保健所支所から搬入された検体について検査を実施した。

また、環境省が実施する水道水質検査精度管理のための統一試料調査（クロロ酢酸、ジクロロ酢酸、トリクロロ酢酸、全有機炭素（TOC））、神奈川県が実施する外部精度管理調査（フッ素及びその化合物、1,4-ジオキサン）に参加し、信頼性確保に係る検査を実施した。

### ア 飲料水等検査

井戸水（災害用選定の生活用水井戸）79件、小規模水道水2件、専用水道水3件、計84検体について検査を実施した。（表1）

### イ プール水、浴槽水等検査

市内プール水69検体、浴槽水164検体、計233検体について検査を実施した。（表2）

### ウ 家庭用品検査

市販の家庭用品110検体（1検体で複数項目を検査する場合もあり、試買件数としては98件）について13項目の有害物質等の検査を実施したところ、全て基準に適合していた。（表3）

### エ 清涼飲料水の規格基準検査

清涼飲料水（ジュース、ミネラルウォーター

等）5検体、粉末清涼飲料1検体について5項目〔混濁、沈殿物又は固形の異物、ヒ素、鉛、スズ（金属製容器包装入りのものに限る）〕の規格検査を実施したところ、全て基準に適合していた。

### オ 豆類の規格基準検査

バター豆1検体及び生あん1検体についてシアン化合物の規格検査を実施した。バター豆は基準に適合していた。生あんからは3.3ppmのシアン化合物を検出した。

### カ 寒天の規格基準検査

粉末寒天2検体についてホウ素化合物の規格検査を実施したところ、2検体とも基準に適合していた。

### キ 魚介類の環境汚染物質検査

多摩川で採取したアユ3検体について金属類等の環境汚染物質検査を実施した。（表4）

### ク 医薬品成分検査

市販の健康食品16検体及びローション類（外用）4検体について、医薬品成分14項目の検査を実施した。（表5）

表1 飲料水等検査結果

種類	災害用井戸水 (生活用水)※	貯水槽水	小規模水道水	専用水道水	その他	計	
検体数	79 (83)	0 (3)	2 (3)	3 (3)	0 (0)	84 (92)	
不適合件数	15 (33)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	15 (34)	
不 適 合 項 目 件 数	亜硝酸態窒素	1 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (3)
	硝酸態窒素及び 亜硝酸態窒素	0 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (3)
	鉄及びその化合物	14 (28)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	14 (29)
	塩化物イオン	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)
	カルシウム、マグネシウム等 (硬度)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	有機物 (全有機炭素(TOC)の量)	0 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (3)
	pH値	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	味	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	臭気	2 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (4)
	色度	10 (16)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	10 (17)
	濁度	7 (12)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (12)
	塩素酸	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※災害用井戸水に対して水質基準値は設定されていないため、水道法に基づく水道水質基準をあてはめて評価した。

( ):前年度

表2 プール水、浴槽水検査

種類	検査件数	検査項目
プール水	69 (83)	濁度、過マンガン酸カリウム消費量
浴槽水	164 (154)	濁度、過マンガン酸カリウム消費量、 有機物(全有機炭素(TOC)の量)
計	233 (237)	

( ):前年度

表3 家庭用品試買試験検査結果

検査項目	対象家庭用品	検体数	違反数
ホルムアルデヒド	繊維製品、つけまつげ用接着剤等	71	0
アゾ化合物	繊維製品	5	0
塩化水素、硫酸	住宅用の洗浄剤	1	0
水酸化カリウム、水酸化ナトリウム	家庭用の洗浄剤	1	0
容器試験	住宅用・家庭用の洗浄剤	2	0
有機水銀化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	6	0
トリフェニル錫化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	6	0
トリブチル錫化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	6	0
ジベンゾ[a, h]アントラセン	防腐・防虫木材、木材防腐剤・防虫剤	2	0
ベンゾ[a]アントラセン	防腐・防虫木材、木材防腐剤・防虫剤	2	0
ベンゾ[a]ピレン	防腐・防虫木材、木材防腐剤・防虫剤	2	0
テトラクロロエチレン	家庭用エアゾル製品	2	0
トリクロロエチレン	家庭用エアゾル製品	2	0
メタノール	家庭用エアゾル製品	2	0
総 数		110	0

表4 多摩川で採取した魚介類の検査結果

項目	1	2	3	定量下限値
総水銀 (ppm)	0.01	0.01	0.01	0.01
銅 (μg/g)	0.6	0.5	0.5	0.2
鉛 (μg/g)	不検出	不検出	不検出	0.1
カドミウム (μg/g)	不検出	不検出	不検出	0.01
マンガン (μg/g)	2.1	2.0	1.5	0.1
クロム (μg/g)	不検出	不検出	不検出	0.1
亜鉛 (μg/g)	14	13	12	0.5
ヒ素 (μg/g)	0.11	0.11	0.09	0.02
トリブチルスズ化合物 (ppm)	不検出	不検出	不検出	0.1
トリフェニルスズ化合物 (ppm)	不検出	不検出	不検出	0.1
ジブチルスズ化合物 (ppm)	不検出	不検出	不検出	0.1

表5 健康食品中医薬品成分検査結果

検査項目		検体数	検出	不検出
痩身成分	フェノールフタレイン	7	0	7
	フェンフルラミン			
	シブトラミン			
	マジンドール			
	クロルプロパミド			
	トルブタミド			
	オリスタット			
強壮成分	シルденаフィル	9	0	9
	タダラフィル			12 <sup>※</sup>
	バルденаフィル			9
	クロロプレタダラフィル			
	グリベンクラミド			
	ヨヒンビン			
局所麻酔成分	リドカイン	4	0	4

※タダラフィルについて、形状がカプセルの場合は内容物に加えカプセル皮膜の検査(3件)を実施した。

### (3) 残留農薬・放射能検査担当

残留農薬・放射能検査担当では、食品衛生法に基づき、市内産農産物を含めた市内流通食品の残留農薬検査、残留動物用医薬品検査、カドミウム検査及び食品・水道水等の放射性物質検査を実施した。

精度管理については、一般財団法人食品薬品安全センターが実施する食品衛生外部精度管理調査に参加し、重金属検査(カドミウム)、残留農薬検査(I:個別試験、II:一斉試験)及び残留動物用医薬品検査(定量)を実施した。

#### ア 残留農薬検査

保健所及び中央卸売市場食品衛生検査所から依頼のあった食品、総数 42 検体・計 1,890 項目について残留農薬検査を実施した。

##### (7) 国内産農産物の残留農薬検査

保健所及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の 31 検体・計 1,537 項目について検査を実施した(表 1)。

検査した農産物のうち、群馬県産トマト 1 検体からピラクロストロピン 0.005mg/kg(基準値 0.5mg/kg)、ボスカリド 0.063mg/kg(基準値 5mg/kg)、愛知県産日本なし 1 検体からピフェントリン 0.015mg/kg(基準値 0.5mg/kg)、茨城県産白菜 1 検体からルフェスロン 0.008mg/kg(基準値 1mg/kg)、茨城県産白菜 1 検体からピラクロストロピン 0.006 mg/kg(基準値 3mg/kg)、ボスカリド 0.044 mg/kg(基準値 40mg/kg)、茨城県産チンゲン菜 1 検体からシアゾファミド 0.027mg/kg(基準値 15mg/kg)、フルフェノクスロン 0.037mg/kg(基準値 5mg/kg)、群馬県産ほうれんそう 1 検体からアゾキシストロビン 0.005mg/kg(基準値 30mg/kg)が検出された。

##### (イ) 輸入農産物の残留農薬検査

保健所及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の 5 検体・計 250 項目について

検査を実施した(表 2)。エクアドル産バナナ 1 検体からピフェントリン 0.009mg/kg(基準値 0.1mg/kg)、カンボジア産バナナ 1 検体からアゾキシストロビン 0.439mg/kg(基準値 3mg/kg)が検出された。

##### (ウ) 輸入畜産物の残留農薬検査

保健所依頼の 6 検体・計 72 項目について検査を実施したところ、検査結果は全て不検出であった(表 3)。

### イ 残留動物用医薬品検査

#### (7) 国内産畜産物の検査

保健所及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の 12 検体・計 209 項目について検査を実施したところ、検査結果は全て不検出であった(表 4)。

#### (イ) 輸入畜水産物及び水産物の検査

保健所及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の 14 検体・計 206 項目について検査を実施したところ、検査結果は全て不検出であった(表 5)。

### ウ 玄米中のカドミウム検査

保健所依頼の千葉県産玄米 1 検体について検査を実施したところ、0.04 mg/kg 未満(基準値 0.4mg/kg)という結果であった。

### エ 放射性物質検査

平成 23 年 3 月 11 日の福島第一原発事故後から放射性ヨウ素(ヨウ素 131)と放射性セシウム(Cs-134 と Cs-137)について測定を行っている。保健所及び上下水道局水道水質課から依頼のあった、総数 10 検体・延べ 20 項目(内訳:食品 2 検体 4 項目、水など環境試料 8 検体 16 項目)について放射性物質検査(放射性セシウム測定)を実施した。

また、チェルノブイリ原発事故後、放射性セシウム(Cs-134 と Cs-137)について、平成元年から市内に流通する輸入食品を対象に行っており、今年度は 1 検体 2 項目の検査を

実施した。

#### (7) 市内流通食品

保健所依頼分の、市内に流通する一般食品 3 検体の検査を実施したところ、輸入食品のブルーベリーコンポートについて Cs-137 を 19 Bq/kg(基準値(Cs-134 及び 137 の合計で 100 Bq/kg 以下))検出した(表 6)。

#### (4) 水道水等

上下水道局水道水質課依頼分の水道原水及び水道水計 8 検体について検査を実施したところ、検査結果は全て不検出であった(表 7)。

表1 国内産農産物の残留農薬検査結果

品名	検体数	生産地区	検査依頼項目数	検出数	検出項目	検出値(mg/kg)
日本なし	2	宮前区	50	1	ビフェントリン	0.015
		愛知県	50	0		
りんご	2	山形県	50	0		
		青森県	50	0		
にんじん	3	千葉県	50	0		
		北海道	50	0		
		愛知県	50	0		
なす	1	福島県	50	0		
チンゲン菜	1	茨城県	50	1	シアゾファミド	0.027
				1	フルフェノクスロン	0.037
きゅうり	2	福島県	50	0		
		福島県	50	0		
トマト	2	群馬県	50	1	ピラクロストロビン	0.005
				1	ボスカリド	0.063
		山形県	50	0		
ピーマン	1	茨城県	50	0		
パプリカ(赤)	1	茨城県	50	0		
小松菜	1	茨城県	50	0		
キャベツ	2	千葉県	50	0		
		群馬県	50	0		
じゃがいも	1	北海道	50	0		
さつまいも	3	千葉県	50	0		
		千葉県	50	0		
		千葉県	50	0		
ズッキーニ	1	群馬県	50	0		
玄米	1	千葉県	50	0		
大根の根	2	神奈川県	50	0		
		神奈川県	50	0		
えだまめ	1	神奈川県	37	0		
ほうれんそう	1	群馬県	50	1	アゾキシストロビン	0.005
白菜	3	茨城県	50	1	ルフェヌロン	0.008
				0		
		茨城県	50	1	ピラクロストロビン	0.006
				1	ボスカリド	0.044
				0		
合計	31		1537	9		

検査項目（総計156項目、妥当性確認済みの項目から選択して実施）

エチオン、エトプロホス、カズサホス、キナルホス、クロルピリホス、クロルピリホスメチル、クロルフェンピホス、ダイアジノン、テルブホス、パラチオン(パラチオンエチル)、パラチオンメチル、ピリミホスメチル、フェナミホス、フェニトロチオン(MEP)、フェンスルホチオン、フェントエート、プロチオホス、プロフェノホス、ホサロン、ホスチアゼート、ホスファミド、ホレート、マラチオン(マラソン)、メチダチオン、ジメエート、アゾキシストロビン、アザコナゾール、アトラジン、イソプロチオラン、エンドスルファン、クレソキシムメチル、クロルプロファミン、トリアレート、ビフェントリン、ピラゾホス、フィプロニル、フェナリモール、フェンバレレート、フェンプロパトリン、フサライド、ブプロフェジン、フルキンコナゾール、フルトラニル、プロモプロピレート、ミクロブタニル、レナシル、ジフェノコナゾール、アクリナトリン、フルシトリネート、フルバリネート、シメコナゾール、アニロホス、テブフェンジド、インダノファン、エボキシコナゾール、オキサジクロメホス、クロロクスロン、ジメモルフ、ピリミカーブ、フェンアミド、ラクトフェン、クロリダゾン、シプロジニル、カルバリル、テフルベンズロン、イマザリル、シアゾファミド、チアメトキサム、トリフルムロン、ピラクロストロビン、フェンピロキシメート、フルフェノクスロン、フルリドン、ヘキシチアゾクス、メキシフェンジド、モノリニロン、ジウロン、ボスカリド、メタベンズチアズロン、ピラゾレート、フェノキシカルブ、フラメピル、シフルフェナミド、インドキサカルブ、ジフルベンズロン、チアベンダゾール、ペンシクロン、リニロン、クロマフェンジド、ジメチリモール、プロパキサホップ、ヘキサフルムロン、シクロエート、フェンメディファミン、イミダクロプリド、チアクロプリド、オキサミル、クロチアニジン、フェリムゾン、アザメチホス、ノバルロン、ベンゾフェナップ、チオジカルブ及びメソミル、アジンホスメチル、クロフェンテジン、フェノブカルブ、イプロバリカルブ、クロメプロップ、ブタフェナシル、フラチオカルブ、ダイアレート、クミルロン、ルフェヌロン、クロルフルアズロン、カルプロバミド、テブチウロン、テトラクロルピホス、オキシカルボキシ、クロキントセツメキシル、EPN、サリチオン、トルクロホスメチル、ピラクロホス、ブタミホス、アラクロール、キノクラミン(ACN)、クロルフェナピル、シアナジン、ジクロラン、ピリダベン、ペンディメタリン、プロピコナゾール、シアノホス、ピリダフェンチオン、シフルトリン、クロルフェンソン、ジクロブトラゾール、ジチオピル、フェンクロルホス、プロモホス(プロモホスメチル)、カフェンストロール、ベンフルラリン、ピリフタリド、ベンダイオカルブ、エトリムホス、ジクロフェンチオン、ジメチルピホス、オリザリン、ダイムロン、エディフェンホス、シハロホップブチル、プロパホス、ジエトフェンカルブ、ハルフェンプロックス、ジメチピン、トリブホス(DEF)

表2 輸入農産物の残留農薬検査結果

品名	検体数	生産地区	検査依頼項目数	検出数	検出項目	検出値(mg/kg)
バナナ	1	エクアドル	50	1	ビフェントリン	0.009
	1	カンボジア	50	1	アゾキシストロビン	0.439
グレープフルーツ	1	米国	50	0		
大豆	1	中国	50	0		
パプリカ(黄)	1	韓国	50	0		
合計	5		250	2		

検査項目（総計81項目、妥当性確認済みの項目から選択して実施）

EPN、アジンホスメチル、イサゾホス、エチオン、エトプロホス、カズサホス、キナルホス、クロルピリホスメチル、クロルフェンビンホス、ダイアジノン、テトラクロルビンホス、テルブホス、トルクロホスメチル、パラチオン(パラチオンエチル)、パラチオンメチル、ピリミホスメチル、フェンスルホチオン、フェントエート、ブタミホス、プロチオホス、プロパホス、ホレート、マラチオン(マラソン)、メチダチオン、アニロホス、ジメエート、トリアゾホス、アゾキシストロビン、アザコナゾール、アトラジン、イソプロチオラン、クレソキシムメチル、クロメプロップ、クロルフェンソン、クロルプロファム、シアナジン、ジクロブトラゾール、トリアレート、ビフェントリン、フィプロニル、フェナリモル、フェンバレレート、フェンプロパトリン、ブプロフェジン、プロモプロピレート、ミクロブタニル、レナシル、ジフェノコナゾール、アクリナトリン、フルシトリネート、エディフェンホス、クロルピリホス、シアノホス、ピリダフェンチオン、フェナミホス、フェニトロチオン(MEP)、ホサロン、ホスチアゼート、アラクロール、エンドスルファン、シメコナゾール、トリブホス(DEF)、ハルフェンプロックス、ピラゾホス、フサライド、フルキンコナゾール、ジクロフェンチオン、ピペロホス、ピラクロホス、プロフェノホス、ジクロラン、ピフェノックス、フェンクロルホス、フルトラニル、シフルトリン、サリチオン、シフルフェナミド、エトリムホス、シハロホップチル、ホスファミドン、フルバリネート

表3 国産及び輸入畜産物の残留農薬検査結果

品名	検体数	生産地区	検査依頼項目数	検出数	検出項目	検出値(mg/kg)
鶏肉	3	岩手県	12	0		
鶏もも肉		ブラジル	12	0		
			12	0		
牛肉	2	米国	12	0		
牛肉(バラ)			12	0		
豚肉(かた)	1		12	0		
合計	6		72	0		

検査項目（総計12項目）

エンドスルファン、ビフェントリン、プロシミドン、 $\gamma$ -BHC(リンデン)、BHC、DDT、アルドリン及びディルドリン、エンドリン、クロルデン、ジコホール、ヘキサクロロベンゼン、ヘプタクロル

表4 国産畜産物の動物用医薬品検査結果

品名	検体数	生産地区	検査依頼項目数	検出数	検出項目	検出値(mg/kg)
鶏卵(白玉)	5	岩手県	17	0		
			17	0		
福島県		17	0			
		高津区	17	0		
豚肉		1	鹿児島県※	17	0	
鶏肉(ささみ)	5	宮崎県	18	0		
			岩手県	18	0	
青森県		18	0			
		18	0			
鶏肉(むね)			岩手県	18	0	
鶏肉			18	0		
牛肉(もも肉)	1	千葉県	17	0		
合計	12		209	0		

※仕入れ業者情報

表5 輸入畜水産物の動物用医薬品検査結果

品名	検体数	生産地区	検査依頼項目数	検出数	検出項目	検出値(mg/kg)
鶏肉(もも肉)	3	ブラジル	18	0		
			18	0		
			16	0		
牛肉	2	アメリカ	17	0		
牛肉(バラ)			17	0		
豚肉(かた)	1		17	0		
ブラックタイガー	7	インドネシア	13	0		
			13	0		
ベトナム		13	0			
バナメイえび		インドネシア	13	0		
			13	0		
		エクアドル	13	0		
むき海老		インドネシア	13	0		
サーモン	1	チリ	12	0		
合計	14		206	0		

表4、5 検査項目(総計20項目、妥当性確認済みの項目について実施)

ジフロキサシン、オキシリニック酸、ナリジクス酸、フルメキン、トリメトプリム、スルファジアジン、オルメトプリム、スルファピリジン、スルファメラジン、スルファジミジン(スルファメサジン)、スルファメトキシピリダジン、スルファモノメトキシ、スルファドキシ、スルファメトキサゾール、スルファキノキサリン、スルファジメトキシ、スルファニトラン、ミロキサシン、ピロミド酸、スルファクロルピリダジン

表6 市内流通食品の放射性物質検査結果

基準値 適応区分	品名	検査件数	原材料等産地 又は 製造所等所在地	放射性セシウム(Bq/kg)	
				Cs-134	Cs-137
一般食品	生食用わかめ	1	宮城県	不検出(1.9 Bq/kg 未満)	不検出(2.0 Bq/kg 未満)
	生しいたけ	1	岩手県	不検出(3.0 Bq/kg 未満)	不検出(2.2 Bq/kg 未満)
	ブルーベリー コンポート	1	ベルギー	不検出(1.8 Bq/kg 未満)	19 Bq/kg

表7 水道水等の放射性物質検査結果

基準値 適応区分	品名	検査件数	水源地	放射性セシウム(Bq/kg)	
				Cs-134	Cs-137
飲料水	水道原水	4	神奈川県	不検出(1.0 Bq/kg 未満)	不検出(1.0 Bq/kg 未満)
	水道水	4	神奈川県	不検出(1.0 Bq/kg 未満)	不検出(1.0 Bq/kg 未満)

### 3 微生物部門

#### (1) 消化器・食品細菌担当

腸管系細菌検査では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく届出及び市内外の食中毒の発生により消化器症状(下痢、腹痛等)を呈した患者やその接触者から腸管系感染症原因菌(コレラ菌、赤痢菌、チフス菌・パラチフス A 菌、腸管出血性大腸菌等)の分離・同定を行い、市内における食中毒被害の拡大防止や感染症のまん延防止に寄与している。また、分離された原因菌について、遺伝子解析を行い得られた分子疫学解析結果を保健所等の行政機関に還元している。

食品細菌検査では、食中毒予防等のため、川崎市食品衛生監視指導計画に基づき保健所及び 7 保健所支所から搬入された市内流通食品(食肉製品、乳製品、弁当類、そうざい等)について、食品衛生法に基づく成分規格検査や衛生指導検査(細菌数、大腸菌群、サルモネラ属菌、黄色ブドウ球菌、腸管出血性大腸菌等)を実施している。また、川崎市食品 GLP の対応として、外部精度管理調査(一般細菌数測定、黄色ブドウ球菌、サルモネラ属菌、大腸菌群、E.coli 検査)に年 5 回参加している。

#### ア 腸内細菌

##### (7) 感染性細菌検査

感染症の発生に伴う感染性細菌検査や市内医療機関で分離された菌株について、350 検体、697 項目の検査を実施した。月別検査件数は、表 1 のとおりである。また、菌種別の検出状況は、表 2 のとおりである。

分離又は搬入された腸管出血性大腸菌 74 検体(全て感染症検体由来)についての O 血清群及び毒素型は、表 3 に示すとおりである。カルバペネム耐性腸内細菌目細菌(CRE)の  $\beta$ -ラクタマーゼ遺伝子検査は、届出対象外も

含め、66 検体が搬入された。菌種別カルバペネマーゼ遺伝子の保有状況は、表 4 のとおりである。

#### (4) 細菌性食中毒検査

市内の食中毒や有症苦情及び他都市食中毒関連調査の検体が 446 検体搬入された。月別検査件数は、表 5 のとおりで、カンピロバクター・ジェジュニが 19 件で、最も多く検出された。

#### イ 食品細菌

食品細菌検査は、表 6 に示すとおりである。総検体数は 1,058 検体で、そのうち 85 検体(8.03%)で不適項目(食品衛生法成分規格及び川崎市の食品等の衛生指導基準等による)があったが、成分規格違反はなく、全て川崎市衛生指導基準等による不適であった。

食品別の細菌検出状況については、大腸菌群は非加熱そうざい、弁当類、加熱そうざい等から、セレウス菌は非加熱そうざい、豆腐等から、腸炎ビブリオは魚介類等から、黄色ブドウ球菌は非加熱そうざい等から検出されている。

#### ウ 水質検査

水質細菌検査は、総検体数 318 検体(井戸水 78 検体、浴槽水 167 検体、貯水槽水 5 検体、プール水 67 検体等)が搬入された。

水質基準に関する省令、遊泳用プールの衛生基準等を基に一般細菌数及び大腸菌又は大腸菌群の検査を実施し、井戸水で一般細菌数 16 件、大腸菌 11 件、プール水で一般細菌数 1 件、浴槽水で大腸菌群 2 件が基準不適であった。

表1 感染性細菌検査における月別検査件数（菌株含む）

項目	検体件数	コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフスA菌	下痢原性大腸菌	サルモネラ属菌 (チフス菌・パラチフスA菌を除く)	腸炎ビブリオ (コレラ菌を除く)	カンピロバクター・ジエジュニ	カンピロバクター・コリ	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソブリア	プレシオモナス・シゲロイデス	カルババネム耐性腸内細菌目細菌※	その他	総項目数
4月	11	1	8	1	1	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2		30
5月	18	2	3	2	2	16	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	6	3	56
6月	28	5	5	5	5	40	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	8		123
7月	33					28												5		33
8月	55			1		45												9		55
9月	62					54												8		62
10月	71					56												5	10	71
11月	33					21												11	1	33
12月	8					4												4		8
1月	11					8												3		11
2月	18		4			10												4		18
3月	2					1												1		2
総計	350	8	20	9	8	289	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	66	14	502

※1 β-ラクタマーゼ遺伝子検査

表2 感染性細菌検査における検出状況（菌株含む）

項目	コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフスA菌	下痢原性大腸菌 (腸管出血性大腸菌を除く)	腸管出血性大腸菌	サルモネラ属菌 (チフス菌・パラチフスA菌を除く)	腸炎ビブリオ (コレラ菌を除く)	カンピロバクター・ジエジュニ	カンピロバクター・コリ	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソブリア	プレシオモナス・シゲロイデス	カルババネム耐性腸内細菌目細菌※	その他	検出細菌数 合計
4月		3																1		4
5月						1												4	3	8
6月						3												3		6
7月						7												2		9
8月			1			10												4		15
9月						18														18
10月						16												2	10	28
11月						7												6	1	14
12月						2												1		3
1月						6												1		7
2月						4												4		8
3月																				0
検出件数	0	3	1	0	0	74	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	14	120

※1 β-ラクタマーゼ遺伝子検査

表3 腸管出血性大腸菌のO血清群及び毒素型（令和6年4月～令和7年3月）

O血清群	毒素型	株数
O26	VT1	5
O103	VT1	10
O111	VT2	1
O121	VT2	1
O145	VT1	1
O148	VT2	2
O157	VT1	1
O157	VT1&2	21
O157	VT2	26
OUT	VT1	3
OUT	VT1&2	2
OUT	VT2	1
計		74

表4 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）の菌種別遺伝子検出状況（令和6年4月～令和7年3月）

菌種	遺伝子検査 実施数	カルバペネマーゼ遺伝子 保有数	カルバペネマーゼ遺伝子 内訳
<i>Citrobacter freundii</i> complex	1	1	IMP-1 (1)
<i>Enterobacter cloacae</i> complex	23	2	IMP-1 (1)
<i>Escherichia coli</i>	3	2	NDM-1 (1), NDM-5 (1)
<i>Klebsiella aerogenes</i>	30	0	—
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	6	0	—
<i>Kluyvera intermedia</i>	1	0	—
<i>Providencia stuartii</i>	1	0	—
<i>Serratia marcescens</i>	1	0	—
計	66	5	

表5 細菌性食中毒検査における月別検査件数及び検出状況（菌株含む）

項目 月	検体件数	赤痢菌	サルモネラ属菌 (チフス菌、パラチフスA菌を除く)	病原性大腸菌 (腸管出血性大腸菌を除く)	腸管出血性大腸菌	腸炎ビブリオ (コレラ菌含む)	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター・ジェジュニ	カンピロバクター・コリ	ウエルシュ菌	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ(コレラ菌非O1)	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソブリア	プレシオモナス・シゲロイデス	セレウス菌	クドア・セブテンブククタータ	検出細菌数 合計
4月	17							1												1
5月	11						1	4												5
6月	40		1					1												2
7月	59		1				2	1												4
8月	22						2	2												4
9月	25		1		4			2												7
10月	19		3				2	2												7
11月	10							1		1										2
12月	2							1												1
1月	14						1	1												2
2月	109						1	1												2
3月	118							2												2
総計	446		6		4		9	19		1										39



## (2) 呼吸器・環境細菌担当

結核菌・レジオネラ属菌・溶血性レンサ球菌・インフルエンザ菌・百日咳菌等の呼吸器系細菌や髄膜炎菌等の検査ならびに研究を行っている。

### ア 結核関連検査

#### (7) 塗抹・培養検査

結核登録患者管理検診、結核患者接触者健診対象者に対して塗抹・培養検査を実施している。

令和 6 年度は 31 件の搬入があり、結果は全て陰性であった。

#### (4) IGRA 検査

結核患者接触者健診において IGRA 検査を実施している。QFT-PLUS 検査件数は 404 件で、結果は表 1 に示すとおり陽性 34 件(8.4%)、陰性 370 件(91.6%)であった。

#### (5) 結核菌分子疫学解析

川崎市分子疫学調査として、平成 25 年度から川崎市内で発生届のあった患者の菌株を収集し、JATA15-VNTR 法で遺伝子解析を実施してきた。令和元年度から解析領域を 24 領域に拡大し、解析を実施している。

令和 6 年度は菌株 44 株が搬入され遺伝子解析を行った。更に、患者の疫学情報とあわせて分析を行い、菌バンクとしてデータを蓄積した。

### イ レジオネラ属菌検査

浴槽水等の環境水、レジオネラ症患者発生時の患者喀痰や患者環境調査検体等からのレジオネラ属菌の分離培養を行った。また、遺伝子検査として LAMP 法を行った。

レジオネラ属菌検査の総数 282 件、LAMP 法は 10 件であった。

各検査材料別の件数及び検出血清型は表

2-1 及び表 2-2 に示すとおりである。

### ウ 感染症発生動向調査

A 群溶血性レンサ球菌検査について、令和 6 年度は 17 件の搬入があった。このうち 13 件で A 群溶血性レンサ球菌が検出された。T 型別結果は表 3 に示すとおりである。

### エ 感染症細菌検査

感染症の発生に伴う細菌検査や市内医療機関で分離された菌株について検査を実施した。

インフルエンザ菌は 15 株搬入され、全て non-typable (NtHi) であった。

劇症型溶血性レンサ球菌は 21 株搬入され、A 群 12 株、B 群 4 株、G 群 5 株であった。型別結果は表 4 に示すとおりである。

肺炎球菌は 49 株の搬入があり、血清型別を行った。血清型別結果は表 5 に示すとおりである。

表1 QFT-PLUS検査

依頼件数	陽 性	陰 性	判定不可
404	34(8.4%)	370(91.6%)	0(0.0%)

表2-1 レジオネラ属菌検出状況

		環境			感染症		計	
		浴槽水	採暖槽水	シャワー水等	喀痰	患者環境調査		
総検体数		214	32	24	16	21	307	
検出検体数(※)		20	6	5	2	3	36	
検 出 数	<i>L. pneumophila</i>	計	28	8	8	7	15	66
	血 清 群	SG1	1	0	0	2	1	4
		SG3	4	0	1	0	0	5
		SG4	2	0	0	0	0	2
		SG5	2	2	1	0	2	7
		SG6	7	2	3	0	3	15
		SG8	4	1	1	0	0	6
		SG9	1	0	1	0	0	2
		SG10	2	0	0	0	0	2
		SG12	2	0	0	0	0	2
	SGUT	3	3	1	5	9	21	

※ 1検体から複数の属・血清群が分離された場合は1と計上

表2-2 LAMP法によるレジオネラ属菌遺伝子検出状況

		環境			感染症		計
		浴槽水	採暖槽水	シャワー水等	喀痰	患者環境調査	
総検体数		3	3	1	5	9	21
検出検体数		0	0	0	1	2	3

表3 A群溶血性レンサ球菌 T 型別

区分	T 型別						計
	T1	T4	T14/49	T25	T3264	型別不能	
件数	2	2	1	1	2	5	13

表4 劇症型溶血性レンサ球菌 型別

区分	A群		B群	G群	計
	T 型別				
	T1	型別不能			
件数	5	7	4	5	21

表5 肺炎球菌 血清型別

区分	血清型別																		計	
	13価ワクチン含有株																			
	15価ワクチン含有株																			
	20価ワクチン含有株																			
	23価ワクチン含有株																			
	3	6B	14	19A	22F	33F	10A	11A/E	15B	20	6C	15A	15C	16F	23A	24F	35B	35F	38	
件数(15歳未満)					1				1		1	1					1			5
件数(15歳以上)	9	1	1	4	6	1	3	4		1			1	1	5	1	1	1	4	44

### (3) ウイルス・衛生動物担当

ウイルス・衛生動物検査担当では、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）に基づく感染症発生動向調査事業及び感染症対策における積極的疫学調査等により、患者等から採取された検体について、ウイルス及びリケッチアの検査を行っている。また、食品衛生法に基づくノロウイルス等食中毒起因ウイルスの検査及びクモ・アリ等の衛生害虫の同定検査を行っている。

#### ア 感染症対策におけるウイルス等検査

##### (7) 感染症発生動向調査事業

市内の病原体定点医療機関等においてインフルエンザ様疾患、RS ウイルス感染症、伝染性紅斑、水痘、手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、流行性角結膜炎、無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎、急性脳炎（急性脳症含む）及び急性弛緩性麻痺と診断された患者から採取された 234 検体について、遺伝子検査及び培養細胞を用いたウイルス分離培養を行った。結果については月別件数を表 1、疾患別件数を表 2 に示した。

##### (イ) 発熱発疹性ウイルス検査

医療機関において麻しん又は風しん（疑い含む）と診断された患者 21 名の検体について遺伝子検査を行った。その結果、麻しんウイルス B3 型が 1 例で陽性であった。風しんウイルスの検出はなかった。なお、先天性風しん症候群の検査依頼はなかった。

##### (ウ) 蚊媒介感染症検査

医療機関においてデング熱（疑い含む）と診断された患者 5 名について遺伝子検査を実施した。3 名がデングウイルス陽性となり、デングウイルス 2 型が 2 例、3 型が 1 例から検出された。

##### (エ) ダニ媒介感染症検査

医療機関において日本紅斑熱疑い又はつつが虫病疑いと診断された患者 3 名について日本紅斑熱を含むリケッチア及びつつが虫病リケッチアの遺伝子検査を実施し、う

ち 2 名については重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルスについても遺伝子検査を実施し、いずれも陰性であった。

##### (オ) A 型肝炎・E 型肝炎ウイルス検査

医療機関において E 型肝炎と診断された患者 4 名について、型別のための遺伝子検査を行った。E 型肝炎ウイルス G3 が 2 例、G4 が 1 例検出された（表 3）。なお、A 型肝炎の検査依頼はなかった。

##### (カ) エムポックスウイルス検査

医療機関においてエムポックス（サル痘）疑いと診断された患者 1 名についてエムポックスウイルス及び水痘・帯状疱疹ウイルスの遺伝子検査を実施したところ、水痘・帯状疱疹ウイルスが陽性であった。

##### (キ) 中東呼吸器症候群（MERS）検査

中東に渡航歴があり、中東呼吸器症候群（MERS）疑いと医療機関において診断された患者 1 名について原因探索のためのウイルス遺伝子検査を実施した。MERS コロナウイルスは陰性であり、他の呼吸器系ウイルスについても検査を実施し、全て陰性であった。（その後、医療機関の検査でクラミジア肺炎が検出されていた。）

##### (ク) 集団かぜ患者のインフルエンザウイルス検査

2024/2025 シーズンの市内 7 区における学級閉鎖等の初発事例 1 集団ずつを対象とし、7 集団から採取された鼻咽頭ぬぐい液について、インフルエンザウイルス遺伝子検査及びウイルス分離培養を行った。その結果、7 集団全てからインフルエンザウイルス AH1pdm09 が検出された（表 4）。

##### (ケ) 集団感染性胃腸炎事例の原因ウイルス検査

嘔吐・下痢症状の集団発生 1 事例について 5 件の検査依頼があり、5 件全てからノロウイルス G II.7 が検出された。

##### (コ) 新型コロナウイルス検査

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

は、令和5年5月8日から感染症法上の位置付けが新型インフルエンザ等感染症(いわゆる2類相当)から5類感染症に変更されたが、引き続き新たな懸念される変異株の出現に注意が必要であることから、令和5年5月8日から市内14医療機関の協力のもとSARS-CoV-2ゲノムサーベイランス事業を開始した。なお、令和7年度から急性呼吸器感染症サーベイランスの開始に伴い、本事業は令和6年度末で終了した。

本事業により、COVID-19の患者962例(令和6年4月～令和7年4月搬入分)について次世代シーケンサーを用いたゲノム解析を実施し(表5)、結果を随時川崎市健康安全研究所ホームページ(<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/22-13-8-10-10-1-0-0-0-0.html>)で公開した。

#### (サ) 感染症媒介蚊のウイルス検査

蚊媒介感染症の流行を早期に把握するため、感染症媒介蚊の発生数及び分布域等のモニタリング及びウイルス保有状況の検査を実施している。市内8箇所において、令和5年5月から10月まで捕集された蚊について種別し、その雌成虫539匹(表6-1、6-2)を用いて蚊媒介感染症のウイルス検査を行った。その結果、ウエストナイルウイルス、デングウイルス、チクングニアウイルス及びフラビウイルス属(ジカウイルスを含む)は、

いずれも不検出であった。

### イ 食中毒起因ウイルス検査

#### (7) 食中毒原因究明のための検査

食中毒の原因究明のため、食中毒症状を呈した患者の臨床検体や原因と疑われる施設従業員の検便検体(計304件)について食中毒起因ウイルスの遺伝子検査を行い、156件でノロウイルスが検出された(表7)。最も多く検出された遺伝子型はGⅡ.17の65件で、次いでGⅡ.7の15件であった。また、食中毒疑い事例に伴い検査依頼のあった食品及び拭き取り液149検体についてノロウイルス検査を行ったところ、食品(生かき)1検体からノロウイルスGⅡ.17が陽性となった(表8)。

#### (イ) 収去検査

中央卸売市場北部市場で流通している生かき10件についてノロウイルス検査を実施したところ、3件が陽性となり、ノロウイルスGⅡ.17が2件、GⅠ.1が1件から検出された。

### ウ 衛生動物検査

保健所に相談があった虫体2検体について、形態学的同定検査及び遺伝子検査を行い、それぞれオオアリ属(*Camponotus*)、クロゴキブリと同定した。

表1 感染症発生動向調査事業におけるウイルス検出状況（月別）

発症年月	R6.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R7.1	2	3	合計
検査検体数	28	15	8	27	15	13	25	11	37	26	6	23	234
検査症例数	18	11	8	17	10	13	17	11	34	25	6	19	189
ウイルス検出症例数	14	4	7	12	9	8	12	8	30	19	5	15	143
インフルエンザウイルスAH1型	1		1	3	2	2	3	6	24	7	2	3	54
インフルエンザウイルスAH3型	4					1	2		1	4	2	3	17
インフルエンザウイルスB型	4		1	1		1			2	4		3	16
RSウイルスA型	1		1							1			3
RSウイルスB型				1	1						1	2	5
パラインフルエンザウイルス3型			1										1
パラインフルエンザウイルス4型													0
ライノウイルス	1	1				1	1	1	1				6
アデノウイルス2型		1											1
アデノウイルス3型					1		2						3
アデノウイルス37型	1								1				2
アデノウイルス54型												2	2
アデノウイルス型未同定		1											1
コクサッキーウイルスA5型					1								1
コクサッキーウイルスA6型			2	4	1		1						8
コクサッキーウイルスA16型					1	3	1						5
コクサッキーウイルスB群					1								1
エコーウイルス11型									1				1
エンテロウイルスA71型				1									1
ヒトパレコウイルス													0
新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)			1	1	3	1			2	2		1	11
ノロウイルスGⅡ.7	1	1											2
水痘・帯状疱疹ウイルス	1			1					1	1			4
サイトメガロウイルス							1						1
ヒトヘルペスウイルス6型					1		1					1	3
ヒトヘルペスウイルス7型				1					1	1			3

表2 感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況（疾患別）

診断名(疑いを含む)	インフル エンザ 様疾患	RS ウイルス	伝 染 性 紅 斑	水 痘	手 足 口 病	ヘル パン ギー ナ	咽 頭 結 膜 熱	流 行 性 角 結 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	感 染 性 胃 腸 炎	急 性 脳 炎	急 性 弛 緩 性 麻 痺	合計
検査症例数	121	5	0	1	14	2	5	6	18	2	14	1	189
ウイルス検出症例数	101	5	0	1	13	2	4	5	5	2	5	0	143
インフルエンザウイルスAH1型	54												54
インフルエンザウイルスAH3型	16												16
インフルエンザウイルスB型	16												16
RSウイルスA型	1	2											3
RSウイルスB型	2	3											5
パラインフルエンザウイルス3型					1								1
パラインフルエンザウイルス4型													0
ライノウイルス	5				1								6
アデノウイルス2型							1						1
アデノウイルス3型							2	1					3
アデノウイルス37型								2					2
アデノウイルス54型								2					2
アデノウイルス型未同定	1												1
コクサッキーウイルスA4型						1							1
コクサッキーウイルスA6型					7	1							8
コクサッキーウイルスA16型					5								5
コクサッキーウイルスB群	1												1
エコーウイルス11型									1				1
エンテロウイルスA71型											1		1
ヒトパレコウイルス													0
新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)	10										1		11
ノロウイルスGⅡ.7										2			2
水痘・帯状疱疹ウイルス				1					3				4
サイトメガロウイルス											1		1
ヒトヘルペスウイルス6型							1				2		3
ヒトヘルペスウイルス7型				1					1		1		3

表3 E型肝炎ウイルス検査

検査年月	R6.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R7.1	2	3	合計
検査検体数				2					1		2	2	7
検査症例数				1					1		1	1	4
E型肝炎ウイルスG3検出例									1			1	2
E型肝炎ウイルスG4検出例				1									1

表4 集団かぜ患者のインフルエンザウイルス検査

検体採取日	学校名	検体数	インフルエンザウイルス検出検体数		
			AH1pdm09	AH3亜型	B型
R6. 9. 4	麻生小学校	2	2	0	0
R6. 10. 17	東門前小学校	2	2	0	0
R6. 10. 23	南生田小学校	3	2	0	0
R6. 11. 18	下平間小学校	2	2	0	0
R6. 11. 21	土橋小学校	3	3	0	0
R6. 12. 6	小杉小学校	2	2	0	0
R6. 12. 17	東高津小学校	4	3	0	0

表5 新型コロナウイルス検査（ゲノムサーベイランス）

検査年月	R6. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	R7. 1	2	3	4	合計
検査件数	69	98	80	97	107	86	90	63	71	68	61	61	11	962
新型コロナウイルス陽性数	66	90	75	87	106	83	84	61	70	63	59	57	11	912
ゲノム解析数	69	98	80	97	107	86	90	63	71	68	61	61	11	962

表6-1 市内8か所における蚊雌成虫の捕集数

区	実施回 設置月 捕集場所	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
		5月	6月	6月	7月	7月	7・8月	8月	8月	9月	9月	10月	10月	
川崎区	東田公園	5	0	3	1	8	0	0	1	4	1	0	1	24
	健康安全研究所	6	0	0	7	0	0	2	0	0	0	1	0	16
幸区	夢見ヶ崎動物公園	1	8	2	38	1	0	0	6	9	4	21	1	91
中原区	等々力緑地	5	5	9	22	48	24	4	17	34	17	0	15	200
高津区	緑ヶ丘霊園	1	7	24	13	37	15	19	24	19	4	4	1	168
宮前区	宮崎第4公園	2	1	2	2	0	2	0	0	1	3	1	4	18
多摩区	川崎市農業技術支援センター	2	0	0	4	2	2	0	2	2	2	0	0	16
麻生区	万福寺檜山公園	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	1	6
合計		23	21	40	87	97	43	25	50	70	32	28	23	539

\* 捕集方法：人囮法（健康安全研究所及び川崎市農業技術支援センターでは炭酸ガストラップ法）

表6-2 市内蚊雌成虫の種類別捕集数

実施回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
ヒトスジシマカ	15	20	40	79	95	30	24	38	54	32	26	23	476
アカイエカ	6	1	0	7	0	0	1	1	0	0	2	0	18
オオクロヤブカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヤマトヤブカ	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4
同定不能	0	0	0	1	0	13	0	11	16	0	0	0	41
合計	23	21	40	87	97	43	25	50	70	32	28	23	539

表7 食中毒起因ウイルス検査（患者等の臨床検体からの検出数）

検査年月	R6.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R7.1	2	3	合計
検査件数	12	11	8	22	3	14	9	10	4	13	92	106	304
検出件数	1	3	3	1	1	0	2	5	3	12	71※	54※	156
ノロウイルスGI.1							1			2	1	2	6
ノロウイルスGI.3									1				1
ノロウイルスGI（型別不明）							1					2	3
ノロウイルスGII.2											2		2
ノロウイルスGII.4									1		5		6
ノロウイルスGII.6									1				1
ノロウイルスGII.7		1	3	1	1					5		4	15
ノロウイルスGII.17	1							2		5	22	35	65
ノロウイルスGII（型別不明）		2						3			42	14	61

※複数種のウイルスが検出された検体を含む

表8 食品及び拭き取り液からのノロウイルス検査（収去検査を除く）

検査年月	R6.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R7.1	2	3	合計
検査件数	5		31	37		10	7				26	33	149
ノロウイルスGII.17検出件数												1	1

### 【第3章 試験検査】

#### 1 月別検査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
結核													
分離・同定・検査・検出	1	2	3	4	1	3	4	4	1	5	2	5	31
核酸検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
性病													
梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウイルス・リケッチア等検査	105	139	112	148	151	124	144	92	123	94	69	103	1,404
ウイルス													
リケッチア	0	0	3	2	0	0	2	0	0	0	0	0	7
クラミジア・マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウイルス													
リケッチア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クラミジア・トラコマテイス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病原性微生物の動物試験													
原虫・寄生虫等													
原虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寄生虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	9	11	21	11	16	12	12	0	0	0	0	80
真菌・その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病原性微生物検査													
細菌	12	11	9	22	7	15	12	10	2	14	83	62	259
ウイルス	12	11	13	22	3	14	9	10	4	13	92	106	309
核酸検査	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
理化学的検査													
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液検査(血液一般検査)													
エイズ(HIV)検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
HBs抗原・抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他HCV	18	14	31	24	87	63	52	44	24	17	18	12	404
生化学検査													
先天性代謝異常検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
尿一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
尿検査													
尿一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経芽細胞腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー検査(抗原検査・抗体検査)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
食品等検査	微生物学的検査	88	85	191	202	96	171	134	104	108	55	63	103	1,400	
	理化学的検査(残留農薬・食品添加物)	13	53	35	71	35	23	45	56	87	78	112	114	722	
	動物を用いる試験	1	0	1	1	1	0	0	4	1	0	0	0	9	
	その他(ウイルスも含む)	38	16	17	28	2	1	0	10	18	0	0	3	133	
	(上記以外)	9	18	27	32	52	60	69	32	7	10	18	2	336	
	細菌検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	核酸検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医薬品・家庭用品等検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医薬品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医薬部外品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	化粧品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医療用品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	毒劇物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
家庭用品	0	0	5	10	22	18	18	16	0	13	9	2	11	106	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	23	
栄養関係検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
水道等水質検査	水道原水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	細菌学的検査	0	0	1	0	4	3	19	15	30	11	0	0	0	83
	理化学的検査	30	5	0	1	0	7	12	14	31	21	3	0	124	
	細菌学的検査	4	63	75	50	37	34	90	36	5	52	35	2	483	
	理化学的検査	1	17	44	31	28	14	23	26	9	33	5	2	233	
	一般廃棄物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産業廃棄物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
廃棄物関係検査	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	



## 2 依頼別・項目別検査件数

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
結核	分離・同定・検出	0	31	0	0	0	31		31	
	核酸検査	0	0	0	0	0	0		0	
	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0		0	
性病	梅毒	0	0	0	0	0	0		(0)	
								1. STS 定性	0	
								2. STS 定量	0	
								3. TPHA 定性	0	
								4. TOHA 定量	0	
								5. 梅毒(ELISA)	0	
							6. その他	0		
	その他	0	0	0	0	0	0		(0)	
							1. 淋病	0		
							2. その他	0		
ウイルス・リケッチア等検査	ウイルス	0	1,404	0	0	0	1,404		(1,644)	
								1. 細胞培養	240	
								2. 鶏卵培養	0	
								3. 酵素抗体	0	
								4. 蛍光抗体	0	
								5. 遺伝子増幅	1,404	
								6. その他	0	
	分離・同定・検出	リケッチア	0	7	0	0	0	7		(7)
									1. 細胞培養	0
									2. 鶏卵培養	0
									3. 酵素抗体	0
									4. 蛍光抗体	0
									5. 遺伝子増幅	7
									6. その他	0
	抗体検査	ウイルス	0	0	0	0	0	0		(0)
									1. 中和試験	0
								2. HI試験	0	
								3. CP試験	0	
								4. 酵素抗体	0	
								5. ワイル・フェリックス反応	0	
								6. その他	0	
リケッチア	クラミジア・マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0		(0)	
								1. 細胞培養	0	
								2. 鶏卵培養	0	
						3. 蛍光抗体	0			
						4. 遺伝子増幅	0			
						5. その他	0			
抗体検査	リケッチア	0	0	0	0	0	0		0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	
										1. 性器クラミジア抗体IgA
							IgG	0		
	病原微生物の動物試験	0	0	0	0	0	0		0	

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)		
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)						
原虫・寄生虫	原虫	0	0	0	0	0	0		(0)		
									1. アメーバー赤痢	0	
									2. その他	0	
	寄生虫	0	0	0	0	0	0	0		(0)	
									1. 蟻虫	0	
									2. その他	0	
	そ族・節足動物	0	80	0	0	0	0	80		(80)	
									1. 害虫動物	80	
									2. 殺虫効力試験	0	
									3. 生態習性試験	0	
							4. その他	0			
真菌・その他		0	0	0	0	0	0		0		
食中毒	病原微生物検査	細菌	0	259	0	0	0	259		(5439)	
										1. 食中毒病原菌21菌種	5,439
										2. 腸管出血大腸菌	0
									3. その他の細菌	0	
	ウイルス(SRSV)(A型肝炎)		0	309	0	0	0	309		(309)	
								1. SRSV電子顕微鏡	0		
								2. NV遺伝子増幅	309		
							3. その他の細菌	0			
核酸検査		0	1	0	0	0	1		1		
理化学的検査		0	0	0	0	0	0		0		
その他		0	0	0	0	0	0		0		
臨床検査	血液検査(血液一般検査)		0	0	0	0	0	0		0	
	血液等検査	エイズ(HIV)検査	0	0	0	0	0	0		(0)	
										1. PA法	0
									2. 確認試験(W,B)	0	
		HBs抗原、抗体検査		0	0	0	0	0	0		(0)
									1. HBs抗原	0	
									2. HBs抗体	0	
								3. HBe抗原	0		
								4. HBe抗体	0		
								5. IgMHBc抗体	0		
								6. その他	0		
	その他		0	178	226	0	0	404		(404)	
								1. HCV抗体	0		
								2. QFT	404		
							3. その他	0			
生化学検査	先天性代謝異常検査		0	0	0	0	0		0		
	その他		0	0	0	0	0	0		0	
尿検査	尿一般		0	0	0	0	0		0		
	神経芽細胞腫		0	0	0	0	0	0		0	
	その他		0	0	0	0	0	0		0	
アレルギー検査(抗原検査・抗体検査)		0	0	0	0	0	0		0		
その他		0	0	0	0	0	0		0		

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)				
食品等検査	微生物学的検査	0	1,400	0	0	0	1,400		(8,934)
	食品細菌	0	1,058	0	0	0	1,058		(5,152)
								1. 生菌数	1,027
								2. 大腸菌数	572
	食中毒細菌(食品・ふき取り等)	0	187	0	0	0	187		(3,627)
								1. 食中毒病原菌21菌種	3,612
								2. 腸管出血大腸菌	15
	食中毒ウイルス(食品等)	0	155	0	0	0	155		(155)
								1. 電子顕微鏡	0
								2. 遺伝子増幅	155
	理化学的検査(残留農薬・食品添加物等)	0	208	0	0	514	722		(32,293)
	食品添加物	0	139	0	0	305	444		(817)
								1. 食品添加物	591
								2. 遺伝子組換え食品	22
	残留農薬	0	69	0	0	209	278		(31,476)
1. 残留農薬								30,913	
2. 動物用医薬品								563	
3. 金属類								0	
動物を用いる試験	0	4	4	0	1	9		5	
その他	0	20	5	0	108	133		(449)	
							1. 金属類	147	
							2. 炭水素等	0	
(上記以外)細菌検査	分離・同定・検出	0	300	0	0	36	336		(489)
								1. 赤痢菌	18
								2. サルモネラ(腸・バラ含む)	8
								3. 病原大腸菌	32
								4. 腸炎ビブリオ	8
								5. コレラ菌	8
								6. 病原ブドウ球菌	0
								7. カンピロバクター・ジエジュ/コリー	16
								8. 腸管出血大腸菌	246
								9. その他の腸管病原菌	56
								10. レンサ球菌	17
	11. その他の細菌	80							
核酸検査	0	0	0	0	0	0		0	
抗体検査	0	0	0	0	0	0		0	
化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0		0	

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
医薬品・家庭用品等検査	医薬品	0	0	0	0	0	0		0	
	医薬部外品	0	0	0	0	0	0		0	
	化粧品	0	0	0	0	0	0		0	
	医療用具	0	0	0	0	0	0		0	
	毒劇物	0	0	0	0	0	0		0	
	家庭用品	0	88	0	0	18	106		(320)	
								1. ホルムアルデヒド	78	
								2. 有機水銀化合物	8	
								3. トルフェニル銀化合物	8	
								4. トリプチル錫化合物	8	
							5. 酸/アルカリ定量	2		
							6. 容器試験	8		
							7. テトクロロエチレン	8		
							8. トリクロロエチレン	8		
							9. メタノール	8		
							10. 蛍光	0		
							11. その他	184		
	その他	0	23	0	0	0	23	1. 健康食品等	322	
栄養関係検査		0	0	0	0	0	0	1. 成分検査	0	
水道等水質検査	水道原水	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0		0
		理化学的検査	0	0	0	0	0	0		0
		生物学的検査	0	0	0	0	0	0		0
	飲用水	細菌学的検査	0	83	0	0	0	83		(166)
									1. 一般細菌数	83
									2. 大腸菌等	83
									3. その他	0
		理化学的検査	0	84	0	5	35	124		(1,019)
									1. 井戸水	790
									2. 貯槽水	0
							3. 船舶水	0		
							4. 簡易水道水	0		
							5. 専用水道水	134		
							6. 水道直結栓水	0		
							7. その他	95		
(プール水等を含む)	細菌学的検査	0	443	40	0	0	483		(718)	
								1. 一般細菌数	235	
								2. 大腸菌群	235	
								3. その他	248	
	理化学的検査	0	233	0	0	0	233		(467)	
								1. プール水	139	
								2. その他	328	

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)		
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)						
医薬品・家庭用品等検査	医薬品	0	0	0	0	0	0		0		
	医薬部外品	0	0	0	0	0	0		0		
	化粧品	0	0	0	0	0	0		0		
	医療用具	0	0	0	0	0	0		0		
	毒劇物	0	0	0	0	0	0		0		
	家庭用品	0	98	0	0	17	115		(332)		
								1. ホルムアルデヒド	88		
								2. 有機水銀化合物	8		
								3. トルフェニル銀化合物	8		
								4. トリプチル錫化合物	8		
							5. 酸/アルカリ定量	2			
							6. 容器試験	8			
							7. テトクロロエチレン	3			
							8. トリクロロエチレン	3			
							9. メタノール	3			
							10. 蛍光	0			
							11. その他	201			
	その他	0	23	0	0	0	23	1. 健康食品等	0		
栄養関係検査		0	0	0	0	0	0	1. 成分検査	0		
水道等水質検査	水道原水	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0		0	
		理化学的検査	0	0	0	0	0	0		0	
		生物学的検査	0	0	0	0	0	0		0	
	飲用水	細菌学的検査		0	92	0	0	0	92		(184)
										1. 一般細菌数	92
										2. 大腸菌等	92
									3. その他	0	
		理化学的検査		0	92	0	0	4	96		(1,026)
										1. 井戸水	830
										2. 貯槽水	30
									3. 船舶水	0	
								4. 簡易水道水	0		
								5. 専用水道水	80		
							6. 水道直結栓水	0			
							7. その他	86			
(プール水等を含む)	細菌学的検査		0	243	0	0	243		(729)		
									1. 一般細菌数	243	
									2. 大腸菌群	243	
								3. その他	243		
	理化学的検査		0	237	0	0	0	237		(473)	
								1. プール水	166		
								2. その他	307		

			依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)
			住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)				
廃棄物関係検査	一般廃棄物	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	
		理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	
		生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0	
	産業廃棄物	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	
		理化学的検査	0	0	0	0	0	0	1. 汚泥	
		生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0	
環境・公害関係	大気汚染	SO <sub>2</sub> ・NO <sub>2</sub> ・O <sub>x</sub> 等	0	0	0	0	0	0	0	
		浮遊粒子状物質	0	0	0	0	0	0	0	
		降下煤塵	0	0	0	0	0	0	0	
		有害化学物質・重金属	0	0	0	0	0	0	0	
		酸性雨	0	0	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	0	0	
	水道検査	公共用水		0	0	0	0	0	(0)	
			1. 河海水底質						0	
			2. その他						0	
		工場・事業場排水		0	0	0	0	0	(0)	
			1. 工場・事業場排水						0	
			2. その他						0	
		浄化槽放流水	0	0	0	0	0	0	0	
		その他		0	0	0	0	0	(0)	
			1. 一般細菌数						0	
			2. 大腸菌群						0	
	3. その他							0		
	騒音・振動	0	0	0	0	0	0	0		
	土壌・低質検査	0	0	0	0	0	0	0		
	環境生物検査	藻類・プランクトン・魚介類	0	0	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	0	0	
一般室内環境	0	0	0	0	0	0	1. 落下細菌			
その他	0	0	0	0	0	0	0			
放射能	環境試料(雨水・空気・土壌等)		0	0	8	0	0	8	(16)	
		1. セシウム134						8		
		2. セシウム137						8		
		3. ヨウ素131						0		
	食品		0	3	0	0	0	3	(6)	
		1. セシウム134						3		
		2. セシウム137						3		
	3. ヨウ素131						0			
	その他		0	0	0	0	0	0	(0)	
		1. セシウム134						0		
2. セシウム137							0			
3. ヨウ素131						0				
温泉(鉱泉)泉質検査	0	0	0	0	0	0	0			
その他	0	9	0	0	0	9	0			
計	0	5,167	283	5	712	6,167	53,119			

### 3 食品別検査項目内訳

#### (1) 食品別検査項目内訳（理化学検査）

区分	項目	総検体数	総項目数	着色料	保存料	発色剤	漂白剤	甘味料	強化剤	殺菌料	酸化防止剤	品質保持剤	防かび剤	酸味料	その他の添加物	不許可添加物	水分活性	品質検査	シアン化合物	マイコトキシン	魚介毒	塩分濃度	酸価過酸化物価	動物用医薬品	規格試験	食品成分	P C B	残留農薬	放射能	重金属	遺伝子組換え食品検査	特定原材料検査	その他						
魚介類		15	48																		15								33										
魚介類	ねり製品	21	24	3	21																																		
加工品	その他	16	113																		1	1		103	2					2			4						
食肉及びその加工品	食肉	32	299																				227					72											
卵及びその加工品	食肉製品	10	21	3	8	10																	85																
穀類及びその加工品	卵及びその加工品	9	85																																				
野菜果実類及び漬物	穀類及びその加工品	28	83		6		4				10																	50	2	6	5								
その加工品	野菜果実類及び漬物	9	26	2	2		2	2									4	7																					
豆類及びその加工品	野菜果実・その他	90	1,735	1	3		6							30		1											1,687	2		5									
乳及びその加工品	豆類及びその加工品	6	56	2			2													2							50												
調味料	乳類																																						
菓子類	乳製品	4	6		3								1												2														
清涼飲料水	調味料	4	24	1	17			1			2					2	1																						
酒精飲料	菓子類	16	53	5	15		3	10		1						10																							
油脂類	清涼飲料水	14	77	3	17		3	8								4									29														
びん詰・缶詰食品	酒精飲料	3	15	2	3		3	2								5																							
健康食品	油脂類																																						
その他の食品	びん詰・缶詰食品	7	36	2	9		6				4					11		2																					
食品添加物	健康食品	0	0																																				
器具及び容器包装	その他の食品	4	5											4																									
おもちゃ	食品添加物	0	0																																				
その他	器具及び容器包装																																						
合計	おもちゃ																																						
	その他	3	3					3																															
	合計	291	2,709	24	104	10	29	26	0	0	7	10	30	0	1	41	1	9	2	0	16	8	0	415	33	0	0	1,859	6	48	21	9	0						

(2)食品別検査項目内訳(食品細菌検査)

区分	項目	検体数	一般細菌数	大腸菌群	黄色ブドウ球菌	サルモネラ属菌(チフス菌等を含む)	E. coli	E. coli 最確数(MPN)	大腸菌	腸管出血性大腸菌(6血清※1)	セラシ菌	ウエルシュ菌	カンピロバクター属菌	腸炎ビブリオ	腸炎ビブリオ最確数(MPN)	NAGビブリオ(※2)	その他ビブリオ科(※3)	コレラ菌	エルシニア	赤痢菌	リステリア菌	ボツリヌス菌	クロストリジウム属菌	病原性大腸菌(腸管出血性大腸菌を除く)	腸球菌	球菌	真菌類(カビ・酵母)	その他試験(※4)	検査項目総数
魚介類及びその加工品	生食用かき	10	10	0	10	0	0	10	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	
	生食用鮮魚介類	24	24	7	24	4	0	0	21	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	104	
その他	魚介類等(その他)	5	5	1	2	3	2	0	4	0	0	0	0	5	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	
	ゆでだこ・ゆでかに	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
魚肉ねり製品	魚肉ねり製品	21	21	21	21	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	63		
	魚介類加工品	5	5	0	3	2	4	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18		
冷凍食品	冷凍食品	14	14	9	4	14	9	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	59		
	食肉・鯨肉	7	0	0	1	0	0	0	36	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38		
食肉及びその加工品	食肉製品・鶏肉製品	10	6	2	10	10	8	2	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	66		
	食肉加工品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
卵及びその加工品	卵	5	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5		
	卵加工品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
乳及びその加工品	乳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	乳製品	6	3	3	3	3	2	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	35		
穀類・豆類及びその加工品	穀類・米・もち・豆類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	穀類加工品(その他)	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
めん類	めん類	18	18	7	18	5	15	0	0	0	18	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	82		
	包装豆腐	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
豆類(その他)	豆腐(その他)	25	25	9	25	19	25	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	127		
	豆腐加工品(その他)	1	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4		
野菜・果物及びその加工品	野菜・果物・その他	4	1	1	1	1	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22		
	野菜加工品・その他	19	15	8	19	11	19	0	3	42	8	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	131		
菓子類	生菓子	56	56	22	56	47	56	0	3	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	273		
	菓子	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
清涼飲料水・粉末清涼飲料水	清涼飲料水	10	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24		
	氷菓・氷雪	2	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5		
調味料(みそ・しょう油等)	調味料(みそ・しょう油等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4		
	レトルト	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4		
その他食品	その他食品	2	1	0	0	1	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11		
	店内スライス・小分け食品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
その他加工食品(非加熱食品)	その他加工食品(加熱食品)	8	8	8	8	5	0	0	2	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38		
	その他加工食品(非加熱食品)	3	3	0	3	0	2	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12		
そうざい類	加熱そうざい	267	267	263	267	212	33	0	20	204	82	92	48	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1504		
	非加熱そうざい	233	232	76	233	145	233	0	89	96	74	5	10	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1199		
加熱そうざいのみ(非当類(調理ごはん類))	加熱そうざいのみ(非当類(調理ごはん類))	15	15	14	15	9	1	0	0	0	12	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	71		
	加熱そうざいのみ(非当類(調理ハン類))	2	2	2	2	2	2	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12		
非加熱そうざいを含む弁当類	非加熱そうざいを含む弁当類	77	77	28	78	58	78	0	15	0	48	0	9	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	417		
	器具採取	130	130	51	130	18	4	0	130	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	481		
ふきとり	手指拭取	75	75	27	75	10	4	0	75	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	276		
	その他採取	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
検体数	検体数	1058	1027	572	1009	585	498	12	365	444	339	98	74	65	32	6	0	6	0	0	6	0	1	0	2	0	5192		

※1：腸管出血性大腸菌(6血清)とは、O157、O26、O111、O103、O121、O145をいひ、各々1件として計上

※2：その他ビブリオ科には、*V. mimicus*, *V. furnisii*, *A. hydrophila*, *A. sobria*, *P. shigelloides* を実施した場合に計上

※3：その他試験欄には、恒温試験・細菌試験・保存試験・乳酸菌数を実施した場合に計上

4 水質別検査項目内訳

区分	項目	総検体数	総項目数	外観・濁度・色度・臭・味	pH	窒素化合物	有機物	硬度	陽イオン類	陰イオン類	蒸発残留物	残留塩素	溶存酸素	COD	BOD	浮遊物質	陰イオン界面活性剤	n-ヘキサン可溶性物質	その他の理化学試験	一般細菌数	大腸菌又は大腸菌群	その他の細菌学的試験	放射能		
飲料水検査	水道水	浄水	5	10																5	5				
		貯水槽水(細)																							
		その他(ウォータータワー)																							
	井戸水	貯水槽水(理)	5	134	15	5	10	5	5	60	5								29						
		その他(ウォータータワー)																							
		水道原水	4	8																				8	
		水道配水	4	8																				8	
		井戸水(細)	78	156																	78	78			
		その他(ミネラルウォーター)																							
		井戸水(理)	79	790	237	79	158	79	79	79	79														
	その他(ミネラルウォーター)																								
利用水関係検査	中水道水(細)																								
	その他																								
下水関係検査	中水道水(理)	中水道水(理)																							
		その他																							
	生物学的検査	生物学的検査																							
		下水(細)																							
	その他	その他																							
		下水(理)																							
	生物学的検査	生物学的検査																							
		し尿																							
	清掃関係検査	浄化放流水(細)	浄化放流水(細)																						
			浄化槽水																						
浄化放流水(理)		浄化放流水(理)																							
		浄化槽水																							
生物学的検査		生物学的検査																							
		その他																							
公営・一般環境検査		河川	河川水底質																						
			産業排水																						
		汚濁	その他(コレラ)																						
			その他(浄水発生土)																						
	浴槽水	浴槽水	367	700	164			161												5	167	167	36		
		プール水・採暖槽水	155	293	69			1												69	68	68	18		
	その他(ウーリングタワー)	その他(ウーリングタワー)																							
		その他(海水)																							
	温泉(鉱泉)	温泉(鉱泉)																							
		その他(シャワー水等)	7	7																				7	
合計		704	2,106	485	84	168	246	84	139	84								103	318	318	61	16			

## 【第4章 調査研究】

### 1 令和6年度調査研究課題一覧

令和6年度に当研究所で実施した調査研究課題を次に示す。

研究課題名	担当	研究の種類
食品中の保存料・甘味料一斉分析法の開発検討	食品	経常研究
シヤグマアミガサタケ由来毒成分の新規簡易分析法の開発検討	食品	経常研究
小麦と大麦におけるオクラトキシンA分析法の妥当性評価	食品	共同研究
食品中の食品添加物分析法の設定 (食品中の過酸化水素分析法の検討)	食品	受託研究
ホルムアルデヒド試験改良法の性能評価及びビスフェノールA試験法定量下限の調査	水質・環境	共同研究
家庭用品中有害元素(有機水銀化合物)に関する改正試験法の妥当性評価	水質・環境	共同研究
残留農薬検査へのSTQ-GC法の導入検討	残留農薬・放射能	経常研究
Multilocus Sequence Typing(MLST)法を用いた <i>Campylobacter jejuni</i> の分子疫学解析の検討	消化器・食品細菌	経常研究
腸管出血性大腸菌のStxサブタイプ解析及び病原性関連遺伝子の保有状況の検討	消化器・食品細菌	経常研究
MALDI-TOF MSを用いた赤痢菌検査法の検討	消化器・食品細菌	経常研究
カルバペネマーゼ遺伝子不検出でカルバペネマーゼ産生性試験陽性を示した <i>Enterobacter cloacae</i> complex の解析	消化器・食品細菌	経常研究
ウエルシュ菌食中毒の制御のための検査法の開発及び汚染実態把握のための研究 (大規模な汚染実態調査の実施)	消化器・食品細菌	共同研究
食中毒原因病原大腸菌の検査法の整備及び食中毒対策推進のための研究 「食品汚染における食品特性の解明」	消化器・食品細菌	共同研究
結核菌株の全ゲノム解析と疫学情報を用いた結核菌の相同性の検討	呼吸器・環境細菌	共同研究
レジオネラ属菌の新規検査法の検討と施設における汚染状況の解析	呼吸器・環境細菌	共同研究
川崎市内における侵襲性肺炎球菌感染症(IPD)の発生状況と血清型分布状況について	呼吸器・環境細菌	共同研究
同定困難な非結核性抗酸菌の菌種及び亜種同定に関する研究	呼吸器・環境細菌	共同研究
川崎市内の公衆浴場等の入浴設備における水位計の衛生管理状況について	呼吸器・環境細菌	共同研究
環境水における薬剤耐性菌モニタリング調査	呼吸器・環境細菌	共同研究
地方衛生研究所におけるゲノム検査等に係る人員体制及び人材育成法を確立するための研究	呼吸器・環境細菌	共同研究
インフルエンザウイルス及びノロウイルスに対するマルチプレックスリアルタイムPCR法の検討	ウイルス・衛生動物	経常研究
次世代シーケンサーを用いた呼吸器関連ウイルス検出法の検討	ウイルス・衛生動物	経常研究
地方自治体食品衛生行政における食品防御対策の課題検討	ウイルス・衛生動物	共同研究
急性呼吸器疾患の検体中におけるRSVを含む呼吸器系ウイルス検出に関する研究	ウイルス・衛生動物	共同研究
川崎市における溶血性レンサ球菌感染症の発生状況に関する検討	感染症情報センター	経常研究

研究課題名	担当	研究の種類
過粘稠性肺炎桿菌 (hypermucoviscous <i>Klebsiella pneumoniae</i> : hvKP) の発生状況の把握と重症例の解析に関する研究	感染症情報センター	共同研究
3類等感染症の広域散発事例における疫学情報及びゲノム情報の監視・分析に関する検討	感染症情報センター	共同研究
HPVワクチンの安全性に関するフォローアップ研究	参与	共同研究
国内における若年性再発性呼吸器乳頭腫症 (Juvenile-Onset Recurrent Respiratory Papillomatosis: JoRRP) の疫学調査	参与	共同研究
川崎市健康安全研究所における職員のウイルス抗体価調査	所長	共同研究
志賀毒素産生性大腸菌の「感染症の病原体を保有していないことの確認方法について」の改定に係るエビデンスの形成	所長	共同研究
医療機関と行政が連携した実践的な訓練の仕組みと評価方法の構築	所長	共同研究
ワクチンで予防可能な疾患を含めた原因不明疾患の病原体等検索	所長	共同研究
		計 33課題

#### 研究の種類について

研究の種類	内容	課題数※
経常研究	職員の通常業務上からの発想に基づく研究	10
共同研究	国、地方公共団体、大学及び民間企業等と研究内容を分担し、共同で実施する研究	22
受託研究	他の機関から委託を受けて行う研究	1
合計		33

※令和6年度件数

## 2 調査研究報告等実績一覧

令和6年度の調査研究成果の報告実績を次に示す。

### (1) 令和6年度学会発表実績(口演発表)

○:発表者 下線:健康安全研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等を含む)
R6.5.16	リアルタイムサーベイランスでみる新型コロナウイルス感染症	第13回小児呼吸器ウイルス感染症研究会	Zoom Webinar	○三崎貴子, 廣富匡志, 荒井智博, 丸山 絢, 岡部信彦
R6.8.28~29	1人前のLC-MS/MS分析者になるためのロードマップのご提案	第36回バイオメディカル分析化学シンポジウム	静岡県コンベンションアーツセンター	○栗栖泰之介, 赤木祐介, 浅野慎介, 伊藤利将, 上田裕子, 江原庸, 松田侑大, 八木遼太郎, 大和遼, 吉村袖紀, 山田直人
R6.10.3~4	川崎市のインフルエンザ様疾患の検査結果について	令和6年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部第38回ウイルス研究部会	神奈川県衛生研究所	○夏井航平, 喜田智美, 島山理沙, 小内麻衣, 佐々木国玄, 須崎聰, 赤星千絵, 本間幸子, 三崎貴子
R6.10.26	一地方衛生研究所の職員におけるウイルス抗体価保有状況の経時的推移	第28回日本ワクチン学会・第65回日本臨床ウイルス学会合同学術集会	ウイックあいち	○三崎貴子, 丸山 絢, 岡部信彦
R6.11.16	川崎市における近年の梅毒発生動向 ―母集団の変化と先天梅毒発生の懸念―	第92回神奈川県感染症医学会	神奈川県立かながわ労働プラザ	○八代真里, 丸山 絢, 津村和大, 三崎貴子
R6.11.16	近年の川崎市における百日咳報告患者の特徴	第92回神奈川県感染症医学会	神奈川県立かながわ労働プラザ	○西内菜澄, 丸山 絢, 津村和大, 三崎貴子
R6.11.16	川崎市におけるデング熱の発生動向とリスクについての検討	第92回神奈川県感染症医学会	神奈川県立かながわ労働プラザ	○室原健人, 丸山 絢, 津村和大, 三崎貴子
R6.11.16	川崎市における過粘稠性肺炎桿菌(hvKP)感染症の発生状況と肝膿瘍の発症に関わるリスク因子に関する研究	第92回神奈川県感染症医学会	神奈川県立かながわ労働プラザ	○廣富匡志, 淀谷雄亮, 池田史朗, 丸山 絢, 三崎貴子, 細田智弘, 坂本光男, 中島由紀子, 長島悟郎, 國島広之, 竹村 弘
R6.11.16	川崎市内医療機関で分離された基質拡張型β-ラクタマーゼ(ESBL)産生 <i>Klebsiella pneumoniae</i> 3株における分子疫学解析について	第92回神奈川県感染症医学会	神奈川県立かながわ労働プラザ	○池田史朗, 安澤洋子, 本間幸子, 三崎貴子
R6.11.21~22	川崎市におけるOrbitrap LC-MSによるシガトキシン類分析の試み	第61回全国衛生化学技術協議会年会	フェニーチェ堺	○江原 庸, 遠藤康寿, 栗田史子, 佐藤英子, 浅井威一郎, 清水英明, 大城直雅
R6.11.21~22	食品中の食品添加物分析法改正に向けた検討(令和5年度)	第61回全国衛生化学技術協議会年会	フェニーチェ堺	○多田敦子, 堀江正一, 内山陽介, 栗田史子, 羽石奈穂子, 林真輝, 勝原美紀, 大槻崇, 中島安基江, 井原紗弥香, 金田祥子, 久保田浩樹, 建部千絵, 日置冬子, 佐藤恭子, 杉本直樹
R6.11.26	Orbitrap LC-MS及びDNAシーケンサーを併用した自然毒食中毒の検査体制の構築	第70回神奈川県公衆衛生学会	TKPガーデンシティPREMIUM 横浜西口	○江原 庸, 赤星千絵, 淀谷雄亮, 遠藤康寿, 栗田史子, 佐藤英子, 牛山温子, 浅井威一郎, 清水英明
R7.1.16~17	川崎市内で分離された腸管出血性大腸菌O157における次世代シーケンサーを用いた分子疫学解析法の検討	第36回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会総会・研究会	ソニックシティ	○池田史朗, 荒木靖也, 福島和弥, 安澤洋子, 湯澤栄子, 本間幸子, 三崎貴子
R7.2.7	生あんからシアン化合物を検出した事例について	令和6年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部理化学研究部会	TOiGO WEST 長野市生涯学習センター	○牛山温子, 高居久義, 池田修, 石堂陽子, 清水英明

## (2) 令和6年度学会発表実績(示説発表)

○:発表者 下線:健康安全研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等を含む)
R6.8.28～ 29	1人前のLC-MS/MS分析者になるための ロードマップのご提案	第36回バイオメディカル 分析化学シンポジウム	静岡県コンベン ションアーツセ ンター	○栗栖泰之介、赤木祐介、浅野慎介、 伊藤利将、上田裕子、 <u>江原庸</u> 、松田侑 大、八木遼太郎、大和遼、吉村袖紀、山 田直人
R6.9.5～6	<i>astA</i> 保有大腸菌自然汚染食品からの分離 株の解析	第45回日本食品微生物 学会学術総会	リンクステーション ホール青森	○ <u>荒木靖也</u> 、曾根美紀、貫洞里美、尾 畑浩魅、山谷聡子、土屋彰彦、小西典 子、土井りえ、小嶋由香、新井沙倉、廣 瀬昌平、工藤由起子
R6.10.30	神奈川県における急性弛緩性麻痺(AFP) の発生動向(2018～2024)	第83回日本公衆衛生学 会総会	札幌コンベン ションセンター	○関戸晴子、佐野貴子、 <u>丸山 絢</u> 、横山 涼子、小野瀬絵里、伊藤 舞、木村睦 未、兼任千恵、大屋日登美、多屋馨子
R6.10.30	神奈川県における急性脳炎発生動向 (2014～2023年)	第83回日本公衆衛生学 会総会	札幌コンベン ションセンター	○大屋日登美、木村睦未、伊藤 舞、佐 野貴子、横山涼子、畔上栄治、高井麻 実、 <u>丸山 絢</u> 、 <u>廣富匡志</u> 、 <u>荒井智博</u> 、 <u>播 磨由利子</u> 、 <u>関戸晴子</u> 、 <u>多屋馨子</u>
R6.10.30	川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感 染症の発生状況に関する検討	第83回日本公衆衛生学 会総会	札幌コンベン ションセンター	○ <u>荒井智博</u> 、 <u>丸山 絢</u> 、 <u>三崎貴子</u>
R6.11.7～ 8	シダグマアミガサタケ由来毒成分の簡易分 析法の開発検討	日本食品衛生学会 第 120回学術講演会	中部大学春日 井キャンパス	○ <u>江原 庸</u> 、 <u>遠藤康寿</u> 、 <u>栗田史子</u> 、 <u>佐藤 英子</u> 、 <u>浅井威一郎</u> 、 <u>清水英明</u>
R6.11.21 ～22	川崎市におけるOrbitrap LC-MSによるシダ トキシン類分析の試み	第61回全国衛生化学技 術協議会年会	フェニーチェ堺	○ <u>江原 庸</u> 、 <u>遠藤康寿</u> 、 <u>栗田史子</u> 、 <u>佐藤 英子</u> 、 <u>浅井威一郎</u> 、 <u>清水英明</u> 、 <u>大城直 雅</u>
R6.11.21 ～22	食品中の食品添加物分析法改正に向けた 検討(令和5年度)	第61回全国衛生化学技 術協議会年会	フェニーチェ堺	○多田敦子、堀江正一、内山陽介、 <u>栗 田史子</u> 、羽石奈穂子、林真輝、勝原美 紀、大槻崇、中島安基江、井原紗弥香、 金田祥子、久保田浩樹、建部千絵、日 置冬子、佐藤恭子、杉本直樹
R6.11.21 ～22	令和5年度 室内空気環境汚染に関する全 国調査	第61回全国衛生化学技 術協議会年会	フェニーチェ堺	○大嶋直浩、高木規峰野、酒井信夫、 内山奈穂子、千葉真弘、西堀祐司、宮 手公輔、大槻良子、橋本ルイコ、大竹正 芳、角田徳子、上村仁、田中礼子、 <u>高居 久義</u> 、三宅崇弘、堀井裕子、望月映希、 羽田好孝、山本優子、若山貴成、吉田 俊明、古市裕子、吉野共広、伊達英代、 谷脇妙、島田友梨、出口雄也、田崎盛 也
R6.11.21 ～22	クレオソート油製品の多環芳香族炭化水素 類試験法改定に係る検討	第61回全国衛生化学技 術協議会年会	フェニーチェ堺	○西以和貴、吉富太一、千葉真弘、塩 田寛子、味村真弓、吉田俊明、高木総 吉、 <u>高居久義</u> 、櫻木大志、大野浩之、河 上強志
R6.12.13	Incidence and bacteriological analysis of invasive pneumococcal disease (IPD) in Kawasaki City, Japan, 2013-2024	The 11th Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases	Henry Cheng International Conference Centre	○Emiri Nishizato, Yusuke Yodotani, <u>Eiko Yuzawa</u> , <u>Takako Misaki</u> , Bin Chang, Nobuhiko Okabe
R7.3.26～ 29	汚染物試験法:食品に混入していた異物の 分析(改訂)	日本薬学会第145年会	福岡国際会議 場/マリンメッセ 福岡B館/福 岡サンパレス	○三宅 司郎、宮下 隆、 <u>赤星 千絵</u> 、朝倉 敬行、坂井 隆敏、高取 聡、平原 嘉親、 藤本 啓、水越 一史

## (3) 令和6年度学会発表実績(誌上発表)

○:発表者 下線:健康安全研究所職員

年月日	演題名	学会名	発表者(共同研究者等を含む)
-----	-----	-----	----------------

## (4) 令和6年度論文掲載実績

下線: 健康安全研究所職員

題名	学術誌等の名称・掲載ページ等	著者(共著者を含む)
有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律(有害物質含有家庭用品規制法)におけるトリス(2,3-ジブロムプロピル)ホスフェイト(TDBPP)及びビス(2,3-ジブロムプロピル)ホスフェイト(BDBPP)化合物試験法改定に係わる検討	YAKUGAKU ZASSHI 2024年144巻4号 p. 463-471	河上 強志, 大嶋 智子, 大山 正幸, 菅谷 なえ子, 西 以和貴, 吉富 太一, 高居 久義, 若山 貴成, 大野 浩之, 田原 麻衣子, 五十嵐 良明
オミクロン株流行期における地衛研の連携・エビデンスの構築・サーベイランス	令和6年度 地域保健総合推進事業「新型コロナウイルス感染症対応記録(続編)〈2022年-2024年〉」第6章2 p. 319-322	三崎貴子
麻疹の臨床現場から公衆衛生対応まで	近代出版「臨床と微生物」51巻増刊号 p. 149-151	三崎貴子
麻疹	医学書院「臨床検査」Vol.68 No.12 p. 1498-1502	三崎貴子
予防接種ストレス反応(ISRR)	金原出版株式会社雑誌部「小児科」編集室 2024年10月増大号(65巻10号) p. 941-943	三崎貴子

## (5) 令和6年度行政報告等実績

下線: 健康安全研究所職員

題名	報告書の名称・掲載ページ等	報告者(共同研究者等を含む)
医療機関と行政が連携した実践的な訓練の仕組みと評価方法の構築	厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)令和6年度分担研究報告書	三崎貴子, 岡部信彦, 小泉祐子
広域に発生する主に細菌性疾患の疫学情報とゲノム情報の分析と監視に基づく疾病負荷軽減策の検討	厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)令和6年度分担研究報告書	八幡裕一郎, 丸山 紬, 浦川美穂, 大沼 恵, 永田瑞絵
地方感染症情報センターのEBS及び異常探知システムの有用性や課題について	厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)令和6年度協力研究報告書	播磨由利子, 岸本 剛, 大屋日登美, 横山涼子, 三崎貴子, 丸山 紬, 三森 倫, 小野瀬絵里, 荒木夏実, 神谷信行
地方自治体食品衛生行政における食品防御対策の課題検討	厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「新型コロナウイルス感染症拡大収束後の食品等事業者の新たな営業形態にも対応した食品防御の推進のための研究」令和6年度 総括・分担研究報告書	岡部信彦, 赤星千絵, 相原 俊介, 浅井威一郎, 畠山理沙
市販製品に残存する化学物質に関する研究	厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「食品用器具・容器包装等の衛生的な製造管理等の推進に資する研究」令和6年度総括・分担研究報告書	六鹿元雄, 藤原恒司, 浅川大地, 阿部智之, 池田真季, 石井進之輔, 糸川尚子, 岩越景子, 牛山温子, 内山陽介, 海野明弘, 榎田剛, 大橋公泰, 大野浩之, 岡田幸恵, 尾崎麻子, 小澤敦揮, 小野寺裕一, 柿並正剛, 風間貴充, 片岡洋平, 片桐真貴子, 岸 映里, 熊坂謙一, 後藤麻美子, 小林 尚, 小林保志, 近藤貴英, 近藤 翠, 櫻木大志, 佐藤 環, 杉本直樹, 高坂典子, 高島秀夫, 竹田美穂, 田中 葵, 田中秀幸, 外岡大幸, 永井慎一郎, 柴田 博, 早川雅人, 平林尚之, 古川恵理子, 細野加芳, 水口智晴, 宮川弘之, 村山悠子, 藪谷充孝, 山口未来, 吉川光英, 四柳道代, 渡辺一成

(6) 令和6年度その他執筆実績

下線:健康安全研究所職員

題名	学術誌等の名称・掲載ページ等	著者(共著者を含む)
----	----------------	------------

(7) 令和6年度表彰等受賞実績

表彰の名称	学会名等	演題・研究課題名等	表彰者
地方衛生研究所 全国協議会関東 甲信静支部長表 彰	地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部		石堂陽子

### 3 調査研究報告

令和6年度調査研究結果並びに事例等の一部を次ページ以降で報告する。

- (1) 前処理に STQ 法を用いた GC-MSMS による残留農薬一斉試験法の検討・・・・・・・・・・75  
(研究責任者：水質・環境担当 江崎 康司)
  
- (2) 次世代シーケンサーを用いた呼吸器感染症関連ウイルス検出法の検討・・・・・・・・・・84  
(研究責任者：ウイルス・衛生動物担当 小河内 麻衣)
  
- (3) 川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発生状況に関する検討・・・・・・・・・・89  
(研究責任者：感染症情報センター担当 荒井 智博)

# 前処理に STQ 法を用いた GC-MSMS による残留農薬一斉試験法の検討

残留農薬・放射能担当

江崎康司、田中佑典、三亀美津穂、岸美紀

## 1 はじめに

食品に残留する農薬等に関して食品衛生法の規格基準への適合性を判定する試験については、厚生労働省のガイドラインに従い妥当性評価を実施することが必要である。この妥当性評価は、食品ごとに農薬を添加した試料を複数回試験し、その回収率や精度等が目標値に適合するかどうかを評価するもので、適合した食品について、その試験法でその農薬を試験する場合のみ、規格基準への適合性を判定することができる。

妥当性評価では農薬を添加する濃度は原則として基準値濃度であるが、複数の農薬を測定対象とした一斉試験法の妥当性評価では「一律基準値濃度」と「各農薬等の基準値に近い一定の濃度」の 2 濃度とすることもできる。川崎市健康安全研究所では、農薬の標準品として市販の混合標準液を使用しているため、各農薬の基準値を添加することができないことから 2 濃度で妥当性評価を実施している。また、精度の評価を行うにあたって、各濃度について 1 回 2 併行で 5 回試験を行っており、妥当性評価に必要なデータを取得するには時間を要する。そのため、本所では液体クロマトグラフ-タンデム質量分析計(LC-MS/MS)を用いた農薬の一斉試験法として、株式会社アイスティサイエンスが開発した残留農薬迅速一斉分析法<sup>1)</sup>である STQ-LC 法(手動)を導入し、検査及び妥当性評価に要する時間の短縮を図ってきた。しかし、ガスクロマトグラフ-タンデム質量分析計(GC-MS/MS)を用いた STQ-GC 法は簡便な操作性を実現させるために溶媒濃縮を行わないため最終試験溶液中の成分濃度が低くなることから、当時の分析機器では測定が不可能であった。今回、新しく導入した GC-MS/MS に備えた試料を大容量に注入する機能を使用することにより従来よりも低濃度の測定が可能となったため、GC-MS/MS を用いた農薬の一斉試験法について STQ-GC-B 法(手動)(以降、STQ 法と表記する)の導入を検討した。

## 2 方法

### (1) 試料

妥当性評価試験用に食品小売店で特徴の異なる食品 5 種を購入して試料とした。(ほうれんそう:葉緑素の多い食品、キャベツ:硫黄化合物の多い食品、ジャガイモ:でんぷんの多い食品、りんご:糖類の多い食品、大豆:タンパク質の多い食品)

### (2) 試薬

標準原液:PL2005 農薬 GC/MS Mix I ~ V (林純薬工業製)

アセトニトリル:残留農薬試験・PCB 試験用(300 倍濃縮)、塩化ナトリウム:特級、クエン酸 3 ナトリウム 2 水和物:特級、クエン酸水素 2 ナトリウム 1.5 水和物:鹿 1 級、アセトン:残留農薬試験・PCB 試験用(300 倍濃縮)、ヘキサン:残留農薬試験・PCB 試験用(300 倍濃縮)、グルコノ- $\delta$ -ラクトン:鹿特級(以上、関東化学製)

硫酸マグネシウム(無水):和光特級、D(-)-ソルビトール:和光一級(以上、富士フィルム和光純薬製)

精製水:超純水装置で生成されたもの

固相カラム:Smart-SPE C18-50mg、PSA-30mg(アイスティサイエンス製)

### (3) 装置

GC-MS/MS:オートサンプラー部 [CTC Analytics] PAL PSI 120、GC 部 [Agilent] 8890、MS/MS 部 [Agilent] 7000D、超純水装置:[Merck] Milli-Q Integral、ホモジナイザー:[KINEMATICA] ポリトロンホモジナイザー PT2100、遠心機:[KOKUSAN] H-80R

#### (4) 測定条件

##### ア 通知試験法

注入口温度: 250°C、注入量: 2  $\mu$ L

##### イ STQ 法

注入口温度: 70°C(0.13min)-600°C/min-320°C、注入量: 20  $\mu$ L

##### ウ 共通条件

カラム: VF-5MS 30m $\times$ 250 $\mu$ m $\times$ 0.25 $\mu$ m(Agilent 製)、カラムオープン: 70°C(2min)-25°C/min-150°C(0min)-3°C/min-200°C(0min)-8°C/min-310°C(5min)、トランスファーライン: 290°C、イオン源温度: 320°C、イオン源クリーニング: 水素 0.40mL/min、キャリアーガス: He、カラム流量: クロルピリホスメチルの RT が 17.47min となる流量、疑似マトリックス: 注入量としてグルコノ- $\delta$ -ラクトンが 100 ng、D(-)-ソルビトールが 250ng となるようにサンドイッチ注入

#### (5) 試験溶液の調製

##### ア 通知試験法

GC/MS (による農薬等の一斉試験法(農産物) (図 1))

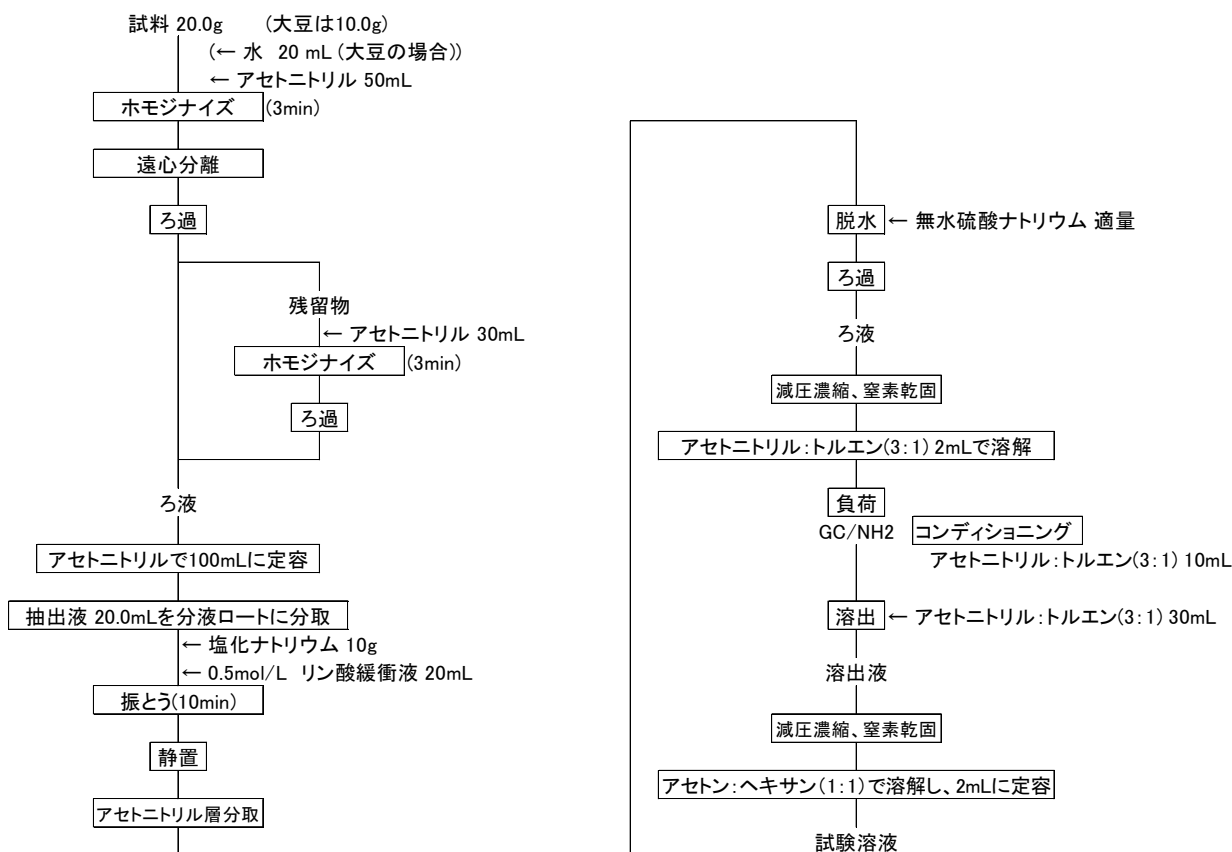


図 1. 通知試験法

## イ STQ 法

STQ-GC-B 法(手動) (\*妥当性評価時は最終液量を 2 mL に変更) (図 2)

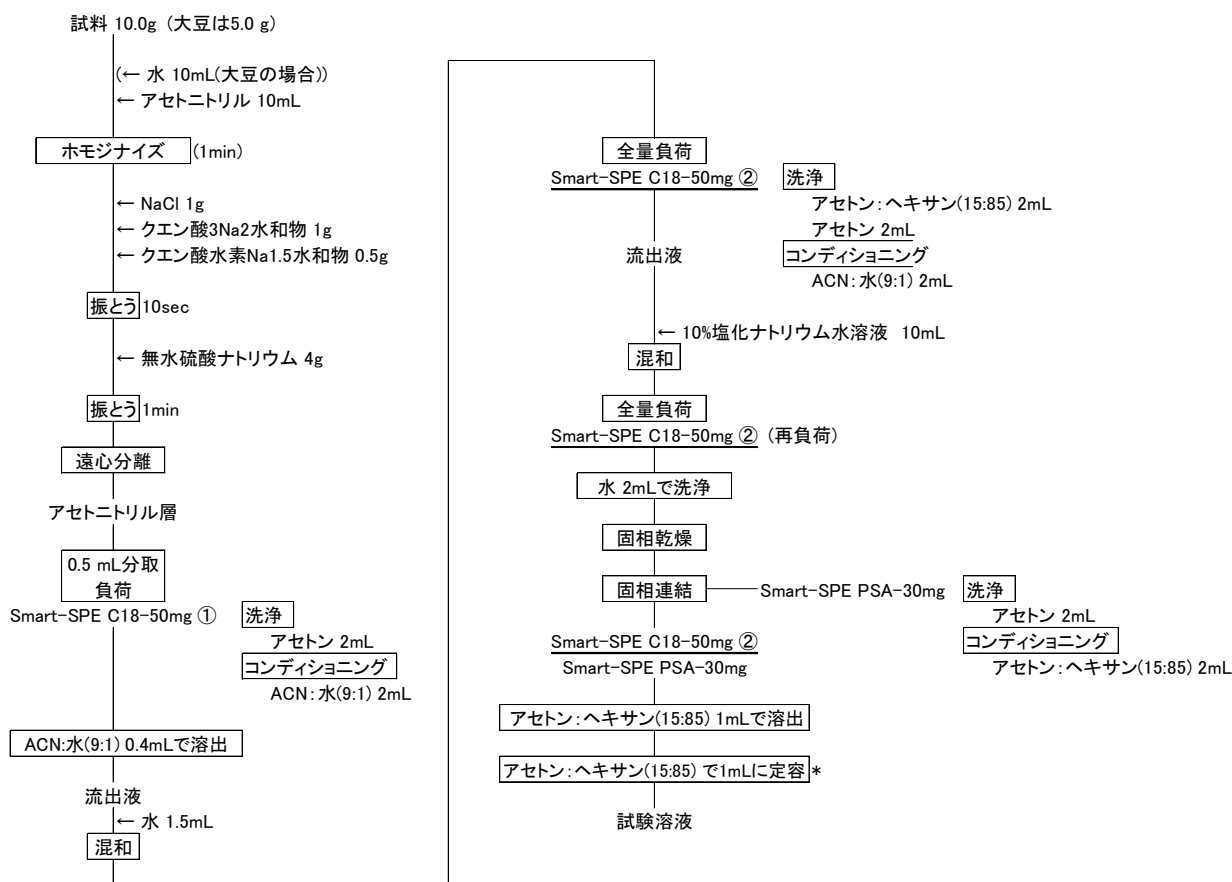


図 2. STQ 法

### (6) 検量線

通知試験法:10、20、30、50、70、90 ng/mL

STQ 法:1、2、5、10、15、20、25ng/mL

### (7) 評価方法

試料中濃度が一律基準値(0.01ppm)となるように農薬混合標準液をそれぞれの試料に添加し、通知試験法と STQ 法それぞれの方法で試験溶液を調製し測定した。測定結果から、2 つの方法による各農薬の回収率を比較した。

## 3 結果及び考察

ほうれんそう、大豆、ジャガイモ、キャベツ、リンゴの順に回収率が 70%以上 120%以下(妥当性評価適合)となった農薬成分数は通知試験法では 194、174、186、184、195 成分であり(図 3)、STQ 法では 193、154、162、183、197 成分であった(図 4)。ほうれんそう、キャベツ、リンゴについては回収率について妥当性評価適合となった成分数は 2 つの方法で同程度の成分数となったが、大豆及びジャガイモについては通知試験法より STQ 法の方が少なかった。これは、回収率が 70%未満となった成分数が増えたことによるが、その要因としてホモジナイズ後の振とう時に溶媒と試料が混ざりにくかったことから、ガイドブックに記載のセラミックホモジナイザーの使用や水分量の補正で改善する可能性があると考えられる。

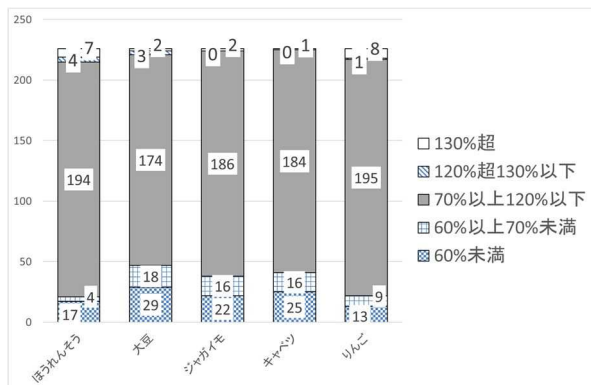


図 3. 通知試験法回収率区分

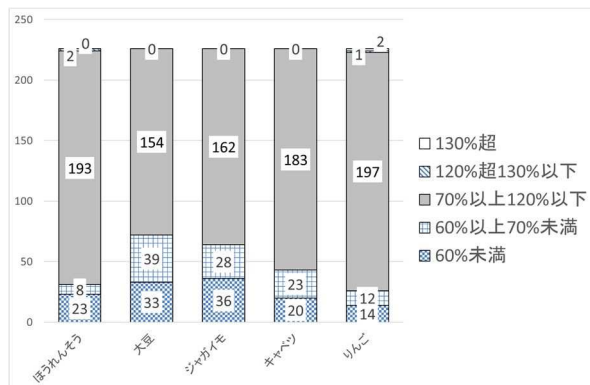


図 4. STQ 法回収率区分

また、STQ 法を用いてほうれんそうを対象食品とした、ガイドラインに基づく妥当性評価試験を実施したところ、妥当性評価適合成分数は 177 成分であった。過去に通知試験法で妥当性評価を実施した際の適合成分数は 188 成分であることから、試験溶液の調製に STQ 法を用いても同程度の成分数について測定可能であると判断した(表 1)。

#### 4 まとめ

今回検討した STQ 法は穀類やでんぷんの多い野菜については追加の検討を要するが、その他の一般的な野菜については通知試験法と同程度の農薬成分数について測定できる可能性が示唆された。また、ほうれんそうを試料とした STQ 法を用いた妥当性評価を実施したところ 177 成分について妥当性評価適合となったことから現行と同程度の成分数について、規格基準への適合性を判定する試験として使用できると考えられた。川崎市健康安全研究所では STQ 法を導入し、妥当性評価を順次実施していく予定である。

#### 5 参考文献

- 1) STQ 法ガイドブック 2024, <https://www.aisti.co.jp/wp2/wp-content/uploads/2025/04/stqguidebook.pdf>

表 1 ほうれんそうの妥当性評価結果 (1/6)

成分名	通知試験法							STQ法						
	検量線	選択性	低濃度真度	低濃度精度	高濃度真度	高濃度精度	最終判定	検量線	選択性	低濃度真度	低濃度精度	高濃度真度	高濃度精度	最終判定
BHC	○	○	×(高)	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○
DCIP	○	○	×(低)	×(併行)	×(低)	×(併行)	×	○	○	○	○	○	○	○
EPN	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Swep	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
γ-BHC(リンデン)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アクリナリン	○	○	×(高)	○	×(高)	○	×	○	○	○	○	○	○	○
アザコナゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
アジンホスメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アセトクロール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アゾキシストロピン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×(室内)	×

表1 ほうれんそうの妥当性評価結果 (2/6)

成分名	通知試験法							STQ法						
	検量線	選択性	低濃度真度	低濃度精度	高濃度真度	高濃度精度	最終判定	検量線	選択性	低濃度真度	低濃度精度	高濃度真度	高濃度精度	最終判定
アトラジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アニロホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アメリリン	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○
アラクロール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アリドクロール	○	○	×(低)	×(室内)	×(低)	○	×	○	○	×(低)	○	×(低)	○	×
イサゾホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イソカルボホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イソキサチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イソフェンホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イソプロチオラン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イブロジオン	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○
イプロベンホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
インドキサカルブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ウニコナゾールP	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
エスプロカルブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エタルフルラリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エディフェンホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エトキサゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エトフェンブロックス	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
エトプロホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エトベンザニド	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
エトリジアゾール	○	○	×(低)	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○
エトリムホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エンドスルファン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オキサジアゾン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オキサジキシル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オキサベトリニル	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○
オキシフルオルフェン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オメトエート	○	○	×(低)	○	×(低)	○	×	○	×	×(低)	×(室内)	×(低)	×(室内)	×
カズサホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カフェンストロール	○	×	×(高)	○	○	×(室内)	×	○	○	○	○	○	○	○
カルフェントラノンエチル	○	○	×(低)	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○
カルボフェノチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キナルホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キノキシフェン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キノクラミン(ACN)	○	○	×(低)	×(室内)	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×
キノメチオナート	○	○	×(低)	×(併行)	×(低)	×(併行)	×	○	○	○	×(室内)	×(低)	×	×
キントゼン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クレソキシムメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クロフェンテジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×(低)	×(室内)	×(低)	×	×
クロメプロップ	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
クロルタルジメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クロルニトロフェン(CNP)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クロルピリホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

表1 ほうれんそうの妥当性評価結果 (3/6)

成分名	通知試験法							STQ法							
	検量線	選択性	低濃度真度	低濃度精度	高濃度真度	高濃度精度	最終判定	検量線	選択性	低濃度真度	低濃度精度	高濃度真度	高濃度精度	最終判定	
クロルピリホスメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クロルフェナビル	○	○	○	×(併行)	○	×(併行)	×	○	○	○	○	○	○	○	○
クロルフェンソソ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クロルフェンビンホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クロルプロピレート	○	×	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	×
クロルプロファミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クロロベンジレート	○	×	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	×
サリチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シアナジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シアノフェンホス	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×
シアノホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジエトフェンカルブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジクロシメット	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジクロトホス	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×(低)	×(室内)	×(低)	×(室内)	×	×
ジクロフェンチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジクロプロトゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×
ジクロフルアニド	○	○	×(高)	○	×(低)	×(室内)	×	○	○	×(低)	×(室内)	×(低)	○	○	×
ジクロベニル	○	○	×(低)	×(室内)	×(低)	×(併行)	×	○	○	○	○	○	○	○	○
ジクロラン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジスルホトン	○	○	×(低)	○	×(低)	×(室内)	×	○	○	×(低)	×(室内)	×(低)	○	○	×
ジチオピル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シハロリン	○	○	×(高)	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
シハロホップブチル	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×
ジフェナミド	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジフェニル(ピフェニル)	○	○	×(低)	×(室内)	×(低)	×(併行)	×	○	○	○	○	○	○	○	○
ジフェニルアミン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×(低)	○	×(低)	○	○	×
ジフェノコナゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シフルトリン	○	○	×(高)	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
シフルフェナミド	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジフルフェニカン	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×
シプロコナゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
シプロジニル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シペルメトリン	○	○	×(高)	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
シマジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シメコナゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジメタトリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジメチピン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×(低)	×(室内)	×(低)	×(室内)	×	×
ジメチルビンホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジメテナミド	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジメエート	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×(低)	×(室内)	×(低)	×(室内)	×	×
シメトリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジメピペレート	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シラフルオフェン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
スルプロホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ターバシル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

表1 ほうれんそうの妥当性評価結果 (4/6)

成分名	通知試験法							STQ法							
	検量線	選択性	低濃度真度	低濃度精度	高濃度真度	高濃度精度	最終判定	検量線	選択性	低濃度真度	低濃度精度	高濃度真度	高濃度精度	最終判定	
ダイアジノン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
チオベンカルブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
チオメトン	○	×	○	×(併行)	×(低)	×(室内)	×	○	○	×(低)	×(室内)	×(低)	○	○	×
チフルザミド	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×(低)	○	○	×
テクナゼン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
デスメディファム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×(低)	×(室内)	×(低)	×	×	×
テトラクロルピホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
テトラコナゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
テトラジホン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
テトラメリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
テニルクロール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
テブコナゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
テブフェンピラド	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
テフルトリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
デメトン-S-メチル	○	○	×(低)	○	×(低)	×(室内)	×	○	○	○	×(室内)	×(低)	○	○	×
デルタメリン及びトラロメリン	○	○	×(高)	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
テルプトリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
テルブホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トリアジメノール	○	○	×(高)	×(併行)	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
トリアジメホン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トリアゾホス	○	×	○	×(併行)	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
トリアレート	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トリクラミド	○	○	×(高)	○	×(高)	○	×	○	○	×(低)	×	×(低)	×(室内)	○	×
トリブホス(DEF)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トリフルラリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トリフロキシストロピン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トリルフルアニド	○	○	×(低)	×(併行)	×(低)	○	×	○	○	×(低)	○	×(低)	○	○	×
トルクロホスメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ナプロバミド	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ニトラリン	○	○	×(高)	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
ニトターールイゾプロピル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ニトロフェン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
パクロブトラゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×
パラチオン(パラチオンエチル)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
パラチオンメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハルフェンブロックス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピオレスメトリン	○	○	×(低)	×(室内)	×(低)	×(室内)	×	○	○	×(低)	×(室内)	×(低)	○	○	×
ピテルタノール	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ピフェノックス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピフェントリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピペロニルブトキシド	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピペロホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピラクロホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピラゾホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピリダフェンチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

表1 ほうれんそうの妥当性評価結果 (5/6)

成分名	通知試験法							STQ法							
	検量線	選択性	低濃度真度	低濃度精度	高濃度真度	高濃度精度	最終判定	検量線	選択性	低濃度真度	低濃度精度	高濃度真度	高濃度精度	最終判定	
ピリダベン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピリフェノックス	○	○	×(低)	×(併行)	○	○	×	○	○	×(低)	○	×(低)	×(室内)	×	×
ピリプチカルブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピリプロキシフェン	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×
ピリミジフェン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピリミノバックメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピリミホスメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピロキロン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピンクロゾリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ファモキサドン	○	○	×(高)	○	×(高)	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
フィプロニル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フェナミホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×(低)	○	×(低)	○	○	×
フェナリモル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フェニトロチオン(MEP)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フェノキサニル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フェノキサプロップエチル	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×
フェノシカルブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フェノチオール	○	○	×(低)	×(室内)	×(低)	×(室内)	×	○	○	○	○	○	○	○	○
フェノチオカルブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フェンクロルホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フェンスルホチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
フェンチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フェントエート	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フェンバレレート	○	○	×(高)	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
フェンブコナゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フェンプロパトリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フサライド	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ブタクロール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ブタフェナシル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ブタミホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ブピリメート	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ブプロフェジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フラメピル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
フルアクリピリム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フルキンコナゾール	○	○	×(高)	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
フルジオキソニル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×(低)	○	×(低)	○	○	×
フルシトリネート	○	○	×(高)	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
フルシラゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×
フルトラニル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フルバリネート	○	○	×(高)	○	×(高)	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
フルミオキサジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プレチラクロール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プロシミドン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プロチオホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プロバクロール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

表1 ほうれんそうの妥当性評価結果 (6/6)

成分名	通知試験法							STQ法							
	検量線	選択性	低濃度真度	低濃度精度	高濃度真度	高濃度精度	最終判定	検量線	選択性	低濃度真度	低濃度精度	高濃度真度	高濃度精度	最終判定	
プロバニル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プロパホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×(室内)	×
プロバルギット	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×
プロピコナゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プロピザミド	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プロフェノホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プロマシル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×
プロムコナゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×
プロメリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プロモブチド	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プロモプロピレート	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プロモホス(プロモホスメチル)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヘキサコナゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×
ベナラキシル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ベルメリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ペンコナゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ペンディメタリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ペントキサゾン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ベンフルラリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ホサロン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ホスチアゼート	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○
ホスファミジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×
ホスマット	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ホノホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ホルペット	○	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×
ホルモチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×
ホレート	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×
マラチオン(マラソン)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ミクロブタニル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メカルパム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メタクリホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メタラキシル及びメフェノキサム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メチダチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メブレン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×
メミノストロピン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メラクロール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メリブジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メビホス	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	×
メフェナセット	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×
メプロニル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×
モノクロトホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×	×
モリネート	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
レナシル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○ : 妥当性評価適合、× : 妥当性評価不適合、×(低) : 目標値より低値のため不適合、×(高) : 目標値より高値のため不適合、  
 ×(室内) : 室内精度不適合、×(併行) : 併行精度不適合、 : 2つの試験法で妥当性評価結果が異なる成分

## 次世代シーケンサーを用いた呼吸器感染症関連ウイルス検出法の検討

小河内麻衣、佐々木国玄、夏井航平、喜田智美、畠山理沙、須崎總、赤星千絵、清水英明

### 【背景及び目的】

当所では感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき、市内の定点医療機関から搬入されるインフルエンザ様疾患の患者検体から原因ウイルスの探索を実施してきた。呼吸器感染症関連ウイルスを標的としたリアルタイム RT-PCR 法及びマルチプレックス PCR 法(以下、「従来法」という。)を用いて検査を実施してきたが、何も検出されず原因の特定に至らないことも多かった。そこで、より幅広い病原体を対象とした検出が行えるよう、市販のパネル試薬とライブラリー調製試薬によるターゲットキャプチャー法を用いた次世代シーケンシングによる検査法(以下、「NGS 法」という。)の検討を行い、ウイルスの網羅的検索方法に対する課題を得たので報告する。

### 【検査材料】

2023 年度(令和 5 年度)に市内の定点医療機関から搬入されたインフルエンザ様疾患の患者検体(咽頭ぬぐい液、鼻腔ぬぐい液、鼻咽頭ぬぐい液、鼻汁)の中から次の検体を選定し、用いた。(川崎市健康安全研究所倫理審査委員会承認済 05-5、05-7)

(1) 従来法によりウイルスが検出された陽性検体 計 9 検体

- ・インフルエンザウイルス検出 3 検体
- ・ライノウイルス検出 3 検体
- ・インフルエンザウイルスと SARS-CoV-2 同時検出 3 検体

(2) 従来法によりウイルスが検出されなかった陰性検体 13 検体

### 【方法】

#### 1 検査項目ウイルス種

従来法:インフルエンザウイルス(A 型、AH1pdm09、AH3 亜型、B 型)、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)、RS ウイルス、ヒトメタニューモウイルス、パラインフルエンザウイルス(1~4 型)、ヒトコロナウイルス(OC43、229E)、アデノウイルス、ボカウイルス、ライノウイルス、エンテロウイルス(ポリオウイルスを含む)

NGS 法\*:従来法のウイルス種に加えて、ヒトコロナウイルス(HKU1、NL63)、ポリオーマウイルス(KI、WU)、ヒトポリオーマウイルス 3 型、MERS コロナウイルス、ヒトパレコウイルス(1、3、4、5、8)、パレコウイルス A 型、ヒトパルボウイルス B19、インフルエンザウイルス A 型(H1N1、H2N2、H3N2、H5N1、H7N9、H9N2)

\*これらのウイルスゲノムを濃縮可能なプローブパネルを用いたターゲットキャプチャー法による NGS。

#### 2 試薬及び機器

核酸抽出:QIAamp Viral RNA Mini Kit(株式会社キアゲン製)

ライブラリー調製:QIAseq xHYB Respiratory Panel(株式会社キアゲン製)

次世代シーケンサー:iSeq100(イルミナ株式会社)

#### 3 NGS法による検査方法

(1) 次世代シーケンサーで測定するためのサンプル調製

患者検体を 3,000rpm10 分間遠心し、上清から核酸抽出試薬を用いて核酸抽出液を得た。この抽出液をラ

ライブラリー調製試薬を用いて調製後、次世代シーケンサーにて測定し、塩基配列を得た。

## (2) 塩基配列の解析

(1) で得られた塩基配列をゲノム解析ソフトの CLC Genomics Workbench(株式会社キアゲン社)にある Analyze QIAseq xHYB Viral Panel Data(Human host)のワークフローに従って解析した。

解析結果は Find Best Reference Report と Abundance Table にウイルス名が出力される。Find Best Reference Report には、最も検出可能性の高いウイルス種が一つだけ表示され、Abundance Table には、検出可能性の高いウイルスから順に複数のウイルス種が表示される。また、解析結果の 2.7.1 Quality distribution per-sequence 30-40 はシーケンスの品質を示しており、この数値が 80%以上のシーケンスデータは正確性が高いと評価される。これらの情報をもとにウイルスの検出の有無と検出評価を行った。

## 4 検討方法

### (1) 予備実験

NGS 法の検出能を確認するため、Twist 社の  $10^6$  コピー/ $\mu$ L のインフルエンザウイルス H3N2 と SARS-CoV-2 (BA.2.12.1 Omicron) の RNA コントロールをそれぞれ  $10^3$ 、 $10^1$  コピー/ $\mu$ L に希釈したものを検査材料とし、ライブラリー調製から実施した。

### (2) 本実験1

検査材料(1)の NGS 法を実施した。

### (3) 本実験2

検査材料(2)の NGS 法を実施した。

## 【結果及び考察】

### 1 予備実験

$10^3$ 、 $10^1$  コピー/ $\mu$ L を用いた実施結果は、いずれもインフルエンザウイルス H3N2 と SARS-CoV-2 を検出することが出来た。どちらも 2.7.1 Quality distribution per-sequence 30-40 が 80%以上でデータのクオリティは全体的に高く、解析に使用したワークフローが算出した Reads mapped to references (%) (得られた配列が検出目的とするウイルスの Reference 配列に当たっている割合)は、インフルエンザウイルス H3N2 の  $10^3$  コピー/ $\mu$ L で 62.38%、 $10^1$  コピー/ $\mu$ L で 1.26%であり、SARS-CoV-2 の  $10^3$  コピー/ $\mu$ L で 100%、 $10^1$  コピー/ $\mu$ L で 99.93%であった。このことから、今回検討したNGS法では検体中に  $10^1$  コピー/ $\mu$ L 程度の濃度あれば、インフルエンザウイルス H3N2 と SARS-CoV-2 を検出することが出来ることがわかった。

### 2 本実験1

9 検体(検体1~9)を測定したところ、全検体において、従来法と同じウイルス種が検出された。(表1~3)

検体 7~9 は 2.7.1 Quality distribution per-sequence 30-40 が 80%以上でデータのクオリティが全体的に高く、精度の高い結果となったが、検体 1~3 及び検体 4~6 は 2.7.1 Quality distribution per-sequence 30-40 が 80%以下でデータのクオリティが全体的に低く、精度の低い結果となった。

データのクオリティが低い要因としては、検体中のウイルス遺伝子量が少なく、ライブラリーを調製した際にターゲットとする配列を十分濃縮することが出来なかったのではないかと考えられる。

また、検体 5 と検体 6 が従来法では、従来法と同じライノウイルスが検出されたが、型別結果は異なっていた(表2)。そのため、ライノウイルスのみの Reference List を新たに作成し、再解析したところ、検体 5 の結果は C

型となり従来法と一致したものの、検体 6 の結果は再解析前後で結果は変わらなかった(表2)。従来法におけるライノウイルスの型別結果については、病原体検出マニュアルに記載はなく、研究的に実施しているものであり、ライノウイルス型別においてはさらなる知見を集める必要がある。

表 1 インフルエンザウイルス検出検体の検査結果

従来法の検査結果			NGS検査結果	
検体名	検出ウイルス	CT値	Find Best Reference Report	2.7.1Quality distribution per-sequence 30-40(%)
1	AH1	30.4	Influenza A virus (A/California/07/2009(H1N1))	53.75
2	AH3	29.8	Influenza A virus (A/New York/392/2004(H3N2))	53.45
3	B	30	Influenza B virus (B/Lee/40)	50.54

表 2 ライノウイルス検出検体の検査結果

従来法の検査結果		NGS検査結果		
検体名	検出ウイルス	Find Best Reference Report	再解析後のFind Best Reference Report	2.7.1Quality distribution per-sequence 30-40(%)
4	ライノウイルスA31	rhinovirus A1	rhinovirus A1	42.57
5	ライノウイルスC	rhinovirus A1	rhinovirus C5	44.76
6	ライノウイルスA	rhinovirus C1	rhinovirus C1	37.99

表 3 インフルエンザウイルスと SARS-CoV-2 同時検出検体の検査結果

従来法の検査結果				NGS検査結果		
検体名	検出ウイルス	Flu CT値	SARS-CoV-2 CT値	Find Best Reference Report	Abundance Table	2.7.1Quality distribution per-sequence 30-40(%)
7	FluAH3/SARS-CoV-2	20.7	20.5	Influenza A virus (A/New York/392/2004(H3N2))	1番目: Alphainfluenzavirus influenzae (Unknown) 2番目: Severe acute respiratory syndrome coronavirus 2	95.73
8	FluAH1/SARS-CoV-2	23.8	20.5	Severe acute respiratory syndrome coronavirus 2	1番目: Severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 2番目: Betacoronavirus (Unknown) 3番目: Influenza A virus (A/California/07/2009(H1N1))	95.51
9	FluB/SARS-CoV-2	22.2	24.1	Severe acute respiratory syndrome coronavirus 2	1番目: Severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 2番目: Betainfluenzavirus influenzae (Unknown) (インフルエンザB型)	87.17

### 3 本実験2

13 検体 (検体 10~22) を測定したところ、13 検体中 4 検体から呼吸器関連ウイルスが検出された。(表4)

検体 10 からパラインフルエンザ 3 型、検体 16 からヒトアデノウイルス 6 型、検体 18 からライノウイルス B14、検体 22 からヒトコロナウイルス NL63 が検出された。検体 16、18、22 は 2.7.1 Quality distribution per-sequence 30-40 が 80%以上でデータのクオリティが全体的に高く、精度の高い結果となったが、検体 10 は 2.7.1 Quality distribution per-sequence 30-40 が 80%以下でデータのクオリティが全体的に低く、精度の低い結果となった。

データのクオリティが低い要因としては、本実験1と同様の理由が考えられる。

従来法と比較してウイルスを検出できた検体があり、感度の高い検査方法であると考えられた。特に検体 22 から検出されたヒトコロナウイルス NL63 は従来法では検出できないウイルスであることから、ウイルスの網羅的検索に有用な検査方法と考えられた。

表4 陰性検体の検査結果

従来法の検査結果		NGS検査結果	
検体名	結果	Find Best Reference Report	2.7.1Quality distribution per-sequence 30-40(%)
10	陰性	Human respirovirus 3	28.89
11	陰性	-	30.53
12	陰性	-	30.44
13	陰性	-	32.17
14	陰性	-	37.51
15	陰性	-	30.86
16	陰性	Human adenovirus 6	83.81
17	陰性	-	73.18
18	陰性	rhinovirus B14	91.68
19	陰性	-	73.28
20	陰性	-	91.26
21	陰性	-	53.73
22	陰性	Human coronavirus NL63	93.68

#### 【成果の活用と今後の課題】

今回の検討を通じて、得られた成果の活用として次の3点を挙げる。①従来法でウイルスを検出できなかった陰性検体に対して、今後活用することができる。②キットを通じてライブラリー調製の技術を習熟したことにより、他のNGS検査を行う際に、ライブラリー調製の精度を向上させることができる。③CLC Genomics Workbenchによる解析方法を習得したことで、他のNGS解析を行う際に応用することができる。

一方で、検査法としての導入にはいくつか課題が得られた。

#### 課題 1: 検体を取り扱う場所について

NGSを用いた検査は非常に検出感度が高く、わずかな遺伝子量でも増幅されてしまうため、コンタミネーションを起こさないよう細心の注意を払い、試薬調製、検体抽出、ライブラリー増幅前の検体を取り扱う場所、ライブラリー増幅後の検体を取り扱う場所といったゾーニングを徹底する必要がある。

## 課題 2: 作業量について

キットのプロトコールに従った検体の前処理を実施すると、中断できる作業に至るまで 8 時間程度を要するため、通常業務として用いるには検査負担が大きい。人員を増やし分担して作業する、同様の検出能力を持ちつつ、作業時間が短い別の呼吸器感染症関連ライブラリー調製試薬を選択するといった業務負担軽減の方法を考える必要がある。

## 課題 3: 検査への習熟度

精度の高い結果を得るためにはライブラリー品質が重要となるが、複雑なプロトコールを正確に行うためには熟練者が検査を実施する必要がある。

## 課題 4: 検体中のウイルス遺伝子量について

検体中のウイルス遺伝子量が少ない場合、ライブラリー調製試薬を用いて測定しても、ウイルスを検出が出来ないか、検出精度が低下する。今回の実験では検体中の遺伝子量は少ないと想定し、検体抽出物最大アプライ量 5  $\mu$ L の抽出液を添加して検査を実施した。今後は抽出液の核酸濃度を測定し、低濃度のものは検査対象から外す、あるいは培養細胞でウイルスを増やした後に用いることでより精度を高めることができると考えられる。

## 課題 5: 解析結果の解釈について

解析結果の解釈について、リード数、データのクオリティ、Reference 配列との一致率といった様々な要素を考慮する必要があるが、ウイルス同定における一定の判断基準がないため、さらなる知見を収集し、その判断基準を明確化する必要がある。

## 課題 6: 費用について

次世代シーケンサー iSeq100 で測定する場合の 1 検体あたりにかかる検査費用は約 10 万円となる。従来法と比較して高額なため、実施する検体については費用面を考慮し、検査の必要性について慎重に判断する必要がある。

謝辞: 本検討を実施するにあたり、予備実験、作業空間のゾーニング及びゲノム解析ソフトを用いた解析方法において、国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 現 検査診断技術研究部 第四室(前所属 国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター第八室) 竹前 喜洋先生及び久場 由真仁先生にご助言をいただき、感謝いたします。

## 川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発生状況に関する検討

川崎市健康安全研究所 荒井智博 丸山 絢 三崎貴子

### 【目的】

川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）の報告数は近年増加しており、病原性及び伝播性が高い M1UK lineage（UK 系統株）も検出されている。市内における過去 10 年間の STSS の発生動向や M1UK 系統株の検出状況等をまとめ、予防啓発に役立てる。

### 【方法】

2014 年第 1 週～2024 年第 19 週に、川崎市内で法に基づく届出のあった STSS 症例 91 件を対象として解析を行った。

### 【結果】

2014 年に 1 件であった STSS の報告数は徐々に増加し、2019 年には 19 件と過去 10 年間で最多となった。2020～2022 年は各 7、4、5 件と減少したが、2023 年は 15 件、2024 年は第 19 週までに 9 件と増加した。死亡が確認された症例は 27 件あり、死亡者としての届出は 2022～2024 年に各 1、1、2 件であった。性別では男性が 61 件、女性が 30 件であり、50 歳以上が各 77.0%、83.3%であった。

血清群別では A 群が 43 件、次いで G 群が 36 件であった。2014 年に 0.0%であった A 群の報告割合は年々増加し、2017 年に 80.0%となった。2018～2020 年は各 44.0%、42.0%、43.0%と横ばいであったが、2021、2022 年に各 25.0%、20.0%と減少し、2023 年は 40.0%、2024 年は 78.0%と増加した。この動向は、A 群溶血性レンサ球菌（GAS）咽頭炎の報告数の推移と概ね一致していた。

M 型別では M1 株が 13 件と最多であったが、型別不明が 23 件であった。M1 株は 2020～2022 年は検出されなかったが、2023、2024 年に各 2、4 件検出され、いずれも M1UK 系統株であった。2 件は翌日及び 3 日後にそれぞれ死亡し、1 件は既に退院、1 件は退院予定、2 件はリハビリのため転院していた。

### 【考察】

川崎市では 2019 年及び 2023 年に STSS の報告数の増加がみられ、特に 2023 年は A 群を原因とする STSS 症例の発生動向が GAS 咽頭炎と概ね一致しており、関連性が示唆された。また、近年増加している M1UK 系統株の症例は死亡や後遺症の報告が多く、既報と同様であった。M1UK 系統株の検出状況と併せて、STSS の発生動向に関する情報を市民に対し早期に発信し、感染拡大を防止することが重要であると考えられる。

## 【第5章 職員に関する事項】

### 1 人事記録

#### (1) 異動(出)

年月日	役職	氏名	配属先
R6.4.1	主任	門脇 幸子	健康福祉局障害保健福祉部障害者施設指導課主任
R6.4.1		若菜 愛澄	病院局井田病院検査科
R6.4.1		今井 朝香	健康福祉局保健医療政策部中央卸売市場食品衛生検査所

#### (2) 異動(入)

年月日	役職	氏名	前所属
R6.4.1	担当部長	古谷野 雅司	市立看護大学事務局長・市立看護短期大学事務局長兼務
R6.4.1	主任	池田 修	健康福祉局保健医療政策部中央卸売市場食品衛生検査所主任
R6.4.1	主任	原 俊吉	川崎区役所地域みまもり支援センター衛生課主任
R6.4.1		小澤 俊介	健康福祉局総務部(給付金担当)
R6.5.1		喜田 智美	病院局井田病院検査科

#### (3) 内部異動

年月日	役職	氏名	所属
R6.4.1	所長	三崎 貴子	企画調整担当部長から所長へ異動
R6.4.1	課長補佐	盛崎 健一	昇任
R6.4.1	課長補佐	須崎 聡	副所長からウイルス・衛生動物担当課長補佐へ異動
R6.4.1	担当係長	湯澤 栄子	消化器・食品細菌担当係長から呼吸器・環境細菌担当係長へ異動
R6.4.1	担当係長	池田 史朗	昇任
R6.4.1	主任	小嶋 由香	呼吸器・環境細菌担当係長から消化器・食品細菌担当主任へ異動
R6.4.1	主任	田中 佑典	水質・環境担当主任から残留農薬・放射能担当主任へ異動
R6.4.1	主任	遠藤 康寿	残留農薬・放射能担当から食品担当主任へ異動及び昇任
R6.4.1	主任	荒木 啓佑	昇任
R5.4.1	主任	畠山 理沙	昇任

## 2 職員名簿（令和6年4月1日現在）

所長 技術職員 三崎 貴子

担当部長  
(副所長) 技術職員 古谷野 雅司

### 〔総務〕

課長補佐 事務職員 盛崎 健一  
主任 同 平賀 江利子  
主任 技術職員 原 俊吉  
事務職員 成田 哲治  
同 小澤 俊介

### 〔企画調整〕

担当係長 技術職員 杉本 徳子  
主任 同 荒木 啓佑

### 〔感染症情報センター〕

担当係長 技術職員 丸山 絢  
同 廣富 匡志  
同 荒井 智博

### 〔理化学〕

担当課長 技術職員 清水 英明

### 〔食品〕

課長補佐 技術職員 浅井 威一郎  
主任 同 佐藤 英子  
主任 同 栗田 史子  
主任 同 江原 庸  
主任 同 遠藤 康寿

### 〔水質・環境〕

担当係長 技術職員 石堂 陽子  
主任 同 小林 亨  
主任 同 池田 修  
主任 同 牛山 温子  
主任 同 高居 久義

### 〔残留農薬・放射能〕

担当係長 技術職員 岸 美紀  
主任 同 三亀 美津穂  
主任 同 田中 佑典  
同 江崎 康司

### 〔微生物〕

担当課長 技術職員 本間 幸子

### 〔消化器・食品細菌〕

担当係長 技術職員 池田 史朗  
主任 同 小嶋 由香  
同 安澤 洋子  
同 福島 和弥  
同 荒木 靖也

### 〔呼吸器・環境細菌〕

担当係長 技術職員 湯澤 栄子  
主任 同 淀谷 雄亮  
同 西里 恵美莉

### 〔ウイルス・衛生動物〕

担当係長 技術職員 赤星 千絵  
課長補佐 同 須崎 聡  
主任 同 佐々木 国玄  
主任 同 小河内 麻衣  
主任 同 畠山 理沙  
同 喜田 智美  
同 夏井 航平

令和6年度  
川崎市健康安全研究所年報  
第12号（通巻第60号）

令和7年度発行

発行・編集 川崎市健康安全研究所  
所在地 〒210-0821  
川崎市川崎区殿町3-25-13  
川崎生命科学・環境研究センター（L i S E）2階  
TEL 044（276）8250  
FAX 044（288）2044